



令和 8 年度夏季の高温対策会議

# 令和 8 年度の気象経過と 今後の予報について

2026年 7月8日

福島地方気象台

調査官 桜井 美菜子



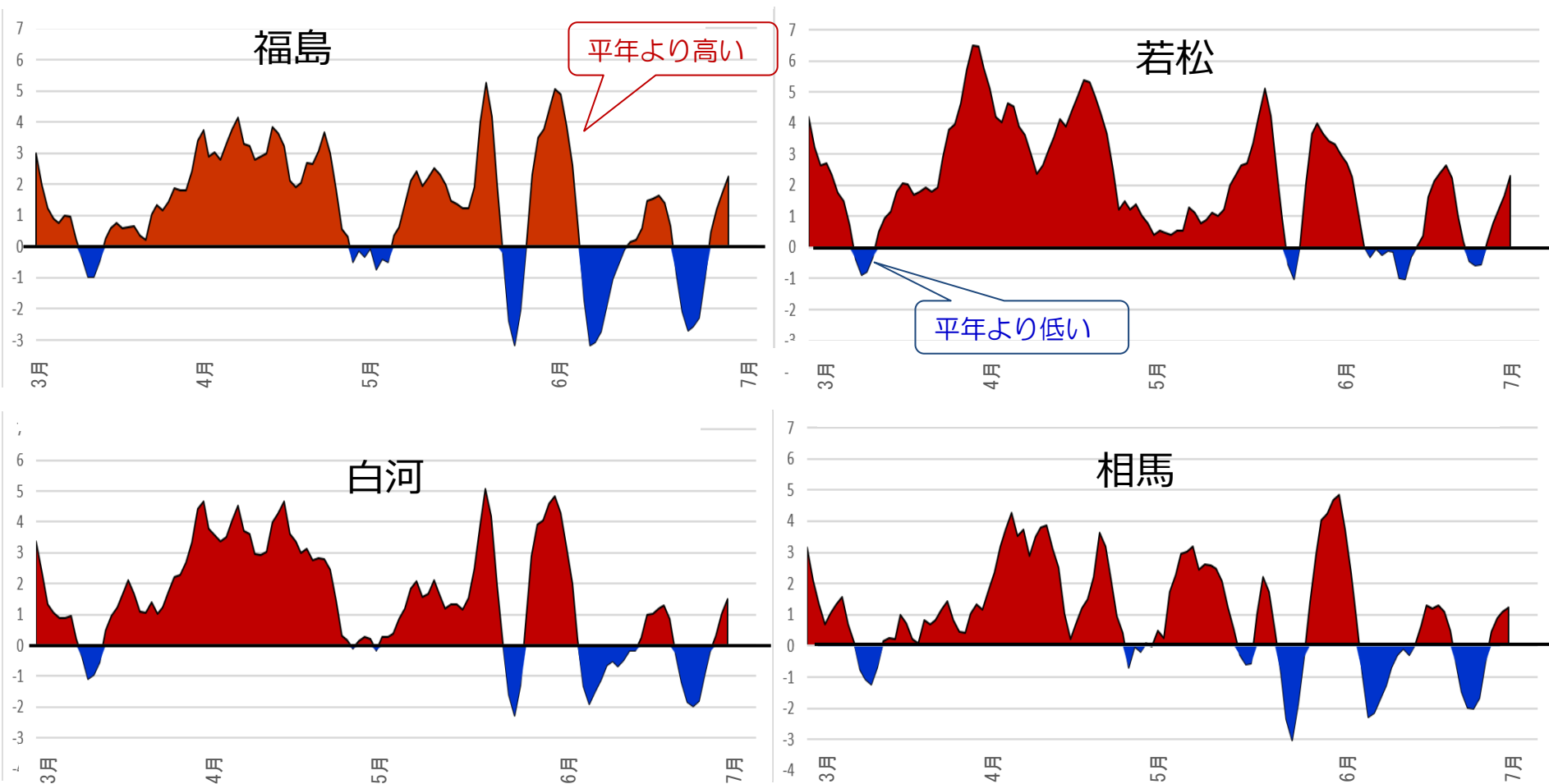
- 1 2026年春以降の気象経過
  - 2026年3月以降の気温経過
  - 2026年3月以降の降水量
  - 2025年12月～2026年3月の降雪量、最深積雪
  
- 2 この先の見通し
  - 3か月予報（7月、8月、9月）
  - 1か月予報

(参考) キーワード「出穂後20日間の平均気温」  
キーワード「出穂後10日間の日最高気温の平均」

# 1 2026年3月以降の気温の経過 (3/1~6/29)



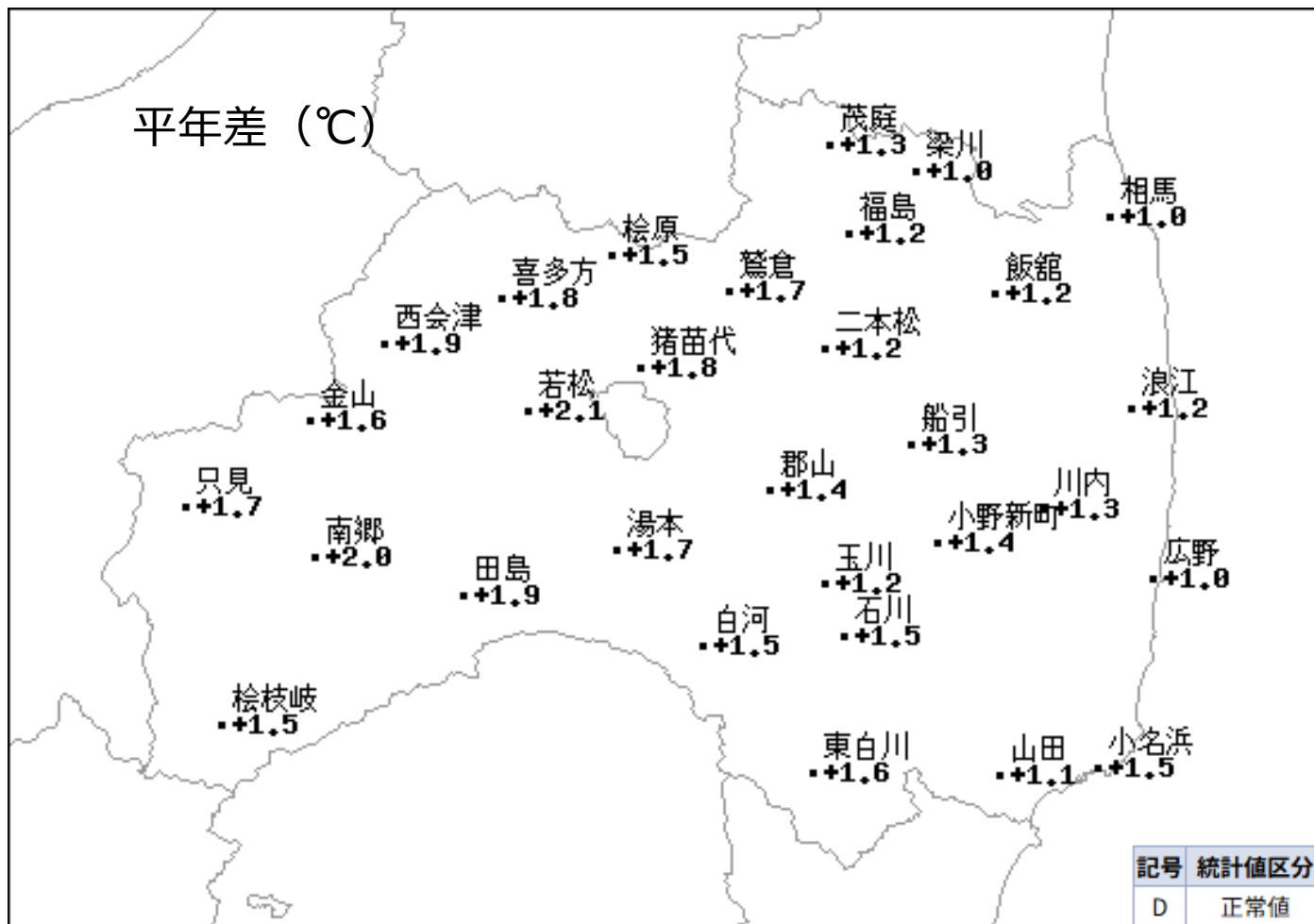
5月中旬頃までは、気温が平年より高い日が多く、  
その後は気温の変動が大きい。



## 2026年3月1日から6月29日の日平均気温の経過 (平年差の5日移動平均)

左上：福島 右上：若松 左下：郡山 右下：相馬  
縦軸平年差 (°C) : 平年より高い日は赤、低い日は青ー

# 1 2026年3月～6月の平均気温平年差

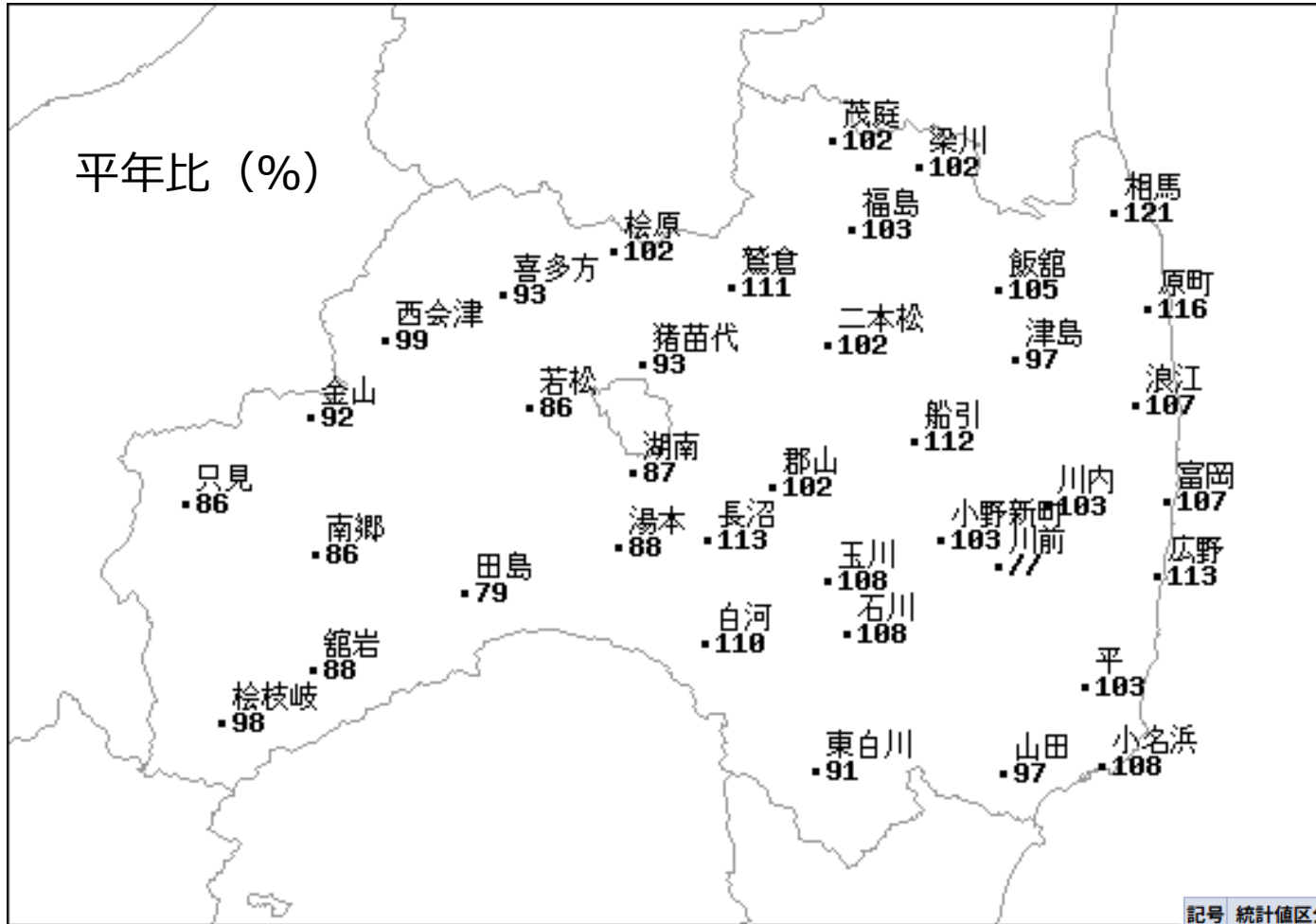


地点名	実況値	平年値	平年差
茂庭	12.8	11.5	+1.3
梁川	14.2	13.2	+1.0
楡原	9.4	7.9	+1.5
福島	15.1	13.9	+1.2
相馬	13.6	12.6	+1.0
喜多方	13.9	12.1	+1.8
鷺倉	7.8	6.1	+1.7
飯舘	12.0	10.8	+1.2
西会津	13.5	11.6	+1.9
猪苗代	12.2	10.4	+1.8
二本松	14.0	12.8	+1.2
金山	12.2	10.6	+1.6
若松	14.7	12.6	+2.1
船引	12.7	11.4	+1.3
浪江	13.9	12.7	+1.2
只見	11.9	10.2	+1.7
郡山	14.2	12.8	+1.4
川内	12.3	11.0	+1.3
南郷	12.1	10.1	+2.0
湯本	11.1	9.4	+1.7
玉川	13.4	12.2	+1.2
小野新町	12.5	11.1	+1.4
広野	13.8	12.8	+1.0
田島	12.0	10.1	+1.9
白河	13.8	12.3	+1.5
石川	13.9	12.4	+1.5
楡枝岐	9.7	8.2	+1.5
東白川	14.1	12.5	+1.6
山田	14.6	13.5	+1.1
小名浜	14.9	13.4	+1.5

記号	統計値区分
D	正常値
--	現象なし
D)	準正常値
D]	資料不足値
X	欠測
//	平年値なし
D@	[参考]平年値

県内全域で平年差がプラス（平年より気温が高い傾向）になっている。  
 スライド3で「赤」が「青」より面積が広いことと矛盾しない。  
 データは速報値です。後日、訂正・追加を行うことがあります。

# 1 2026年3月～6月の降水量平年比



地点名	実況値	平年値	平年比(%)
茂庭	388.5	382.7	102
梁川	337.0	331.6	102
桧原	511.5	501.5	102
福島	377.0	367.2	103
相馬	527.0	435.1	121
喜多方	374.0	401.2	93
鷺倉	741.0	666.0	111
飯館	429.5	410.0	105
原町	505.5	434.5	116
西会津	416.0	419.1	99
猪苗代	329.0	354.1	93
二本松	384.5	377.8	102
津島	414.0	425.2	97
金山	385.5	418.7	92
若松	280.5	325.0	86
船引	407.5	364.5	112
浪江	532.5	496.2	107
只見	451.0	526.7	86
湖南	334.5	383.4	87
郡山	363.0	354.3	102
川内	483.5	470.0	103
富岡	564.0	528.9	107
南郷	290.0	335.4	86
湯本	433.0	489.4	88
長沼	470.5	414.8	113
玉川	390.0	362.1	108
石川	433.0	400.6	108
小野新町	395.0	382.2	103
川前	380.0	//	//
広野	634.0	560.1	113
田島	258.0	328.0	79
白河	498.5	453.0	110
石川	433.0	400.6	108
桧枝岐	375.5	383.1	98
館岩	290.0	330.6	88
平	552.5	536.1	103
東白川	420.5	463.3	91
山田	598.5	619.7	97
小名浜	574.0	529.2	108

海沿いから内陸に向かって、降水量が平年より少ない傾向になっている。

データは速報値です。後日、訂正・追加を行うことがあります。

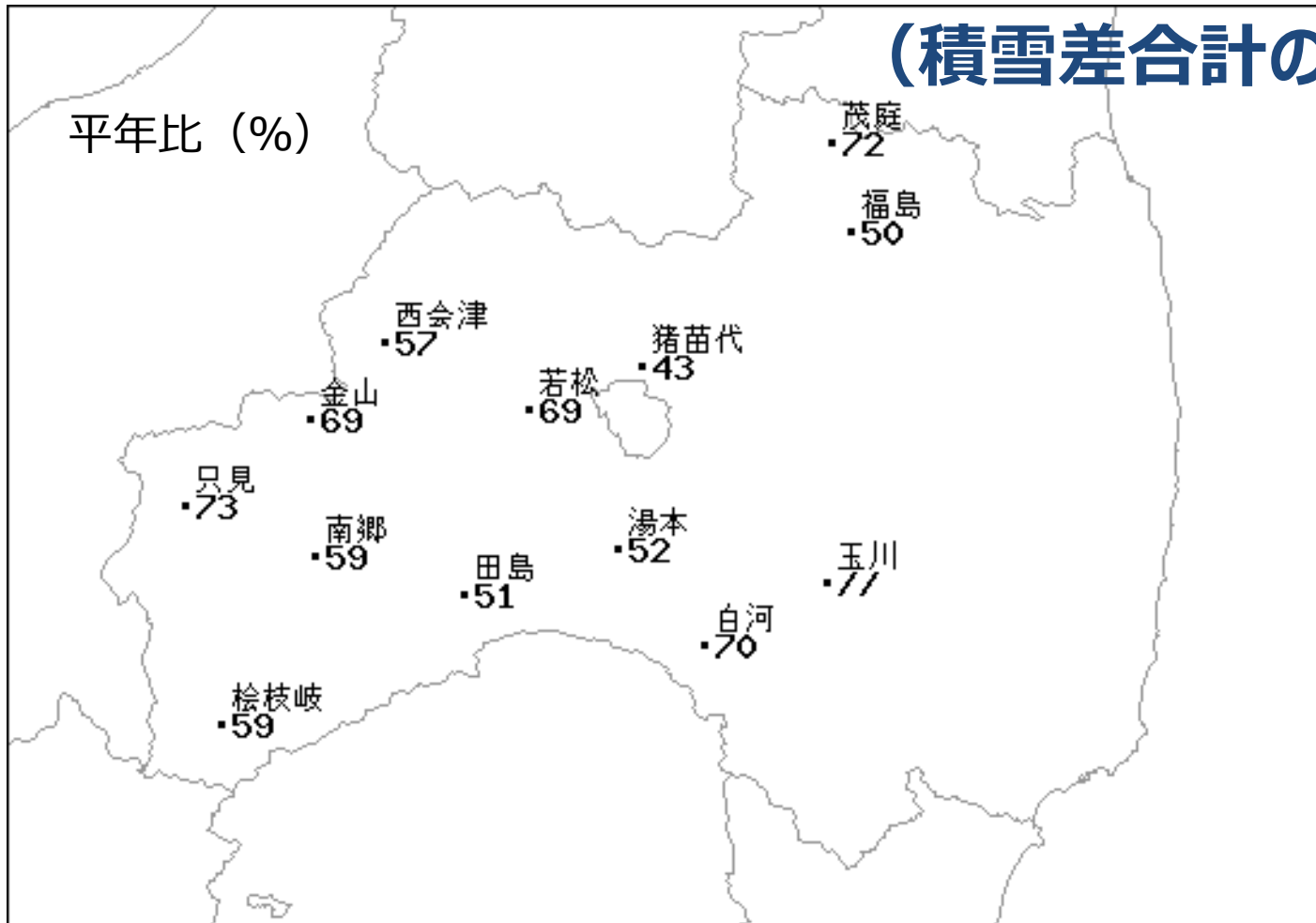
記号	統計値区分
D	正常値
--	現象なし
D)	準正常値
D]	資料不足値
X	欠測
//	平年値なし
D@[参考]	平年値

# 1 2025年12月～2026年3月の降雪量



## (積雪差合計の平年比)

平年比 (%)



地点名	実況値	平年値	平年比(%)
茂庭	255)	354	72
福島	63	125	50
西会津	377	659	57
猪苗代	258	603	43
金山	635	924	69
若松	229	332	69
只見	830	1133	73
南郷	562	950	59
湯本	311	596	52
玉川	53	//	//
田島	276)	540	51
白河	57	81	70
榎枝岐	631	1067	59

記号	統計値区分
D	正常値
--	現象なし
D)	準正常値
D]	資料不足値
X	欠測
//	平年値なし
D@	[参考]平年値

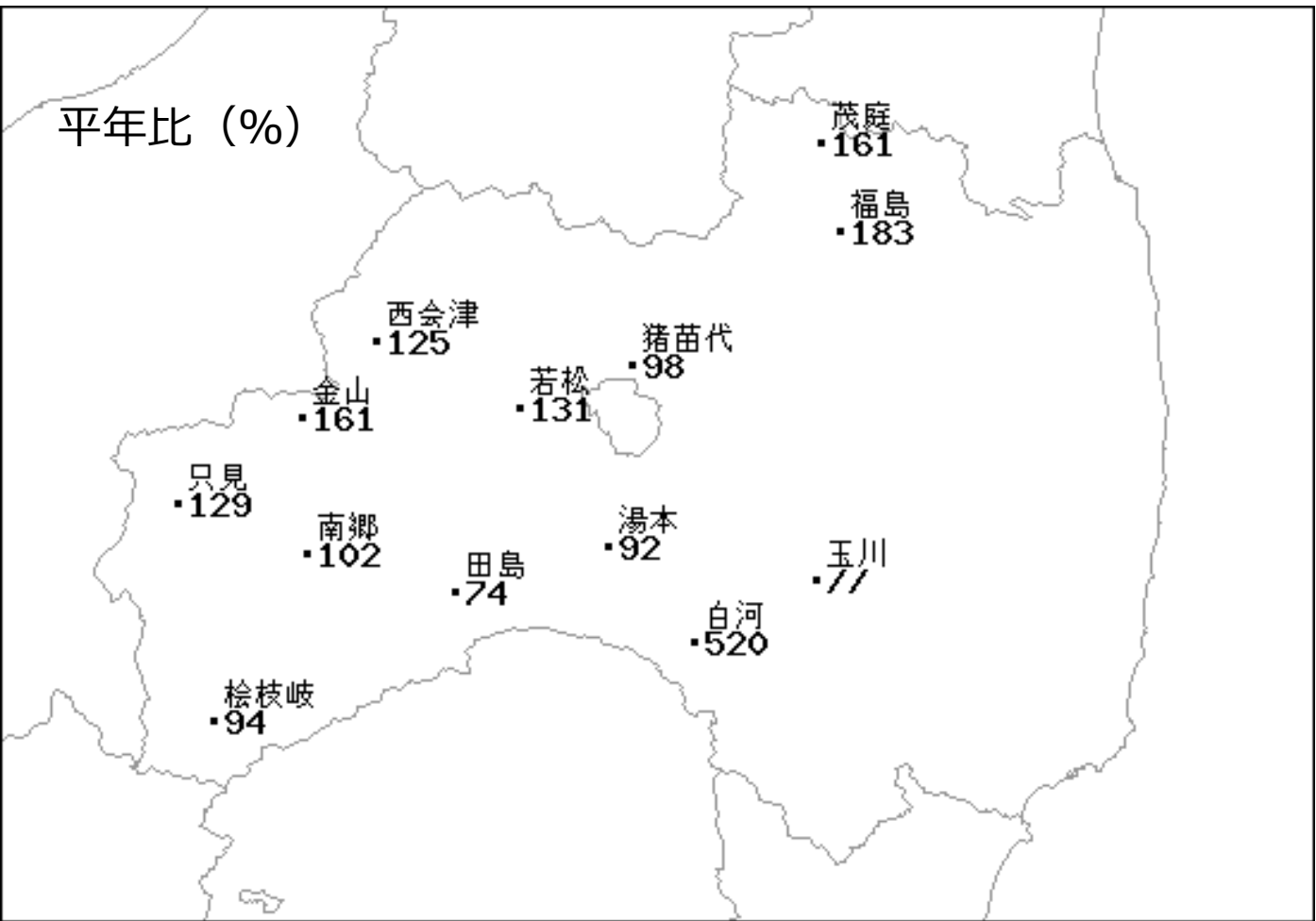
降雪量は、平年の半分～7割程度となっている。

データは速報値です。後日、訂正・追加を行うことがあります。

# 1 2025年12月～2026年3月の最深積雪（平年比）



平年比 (%)



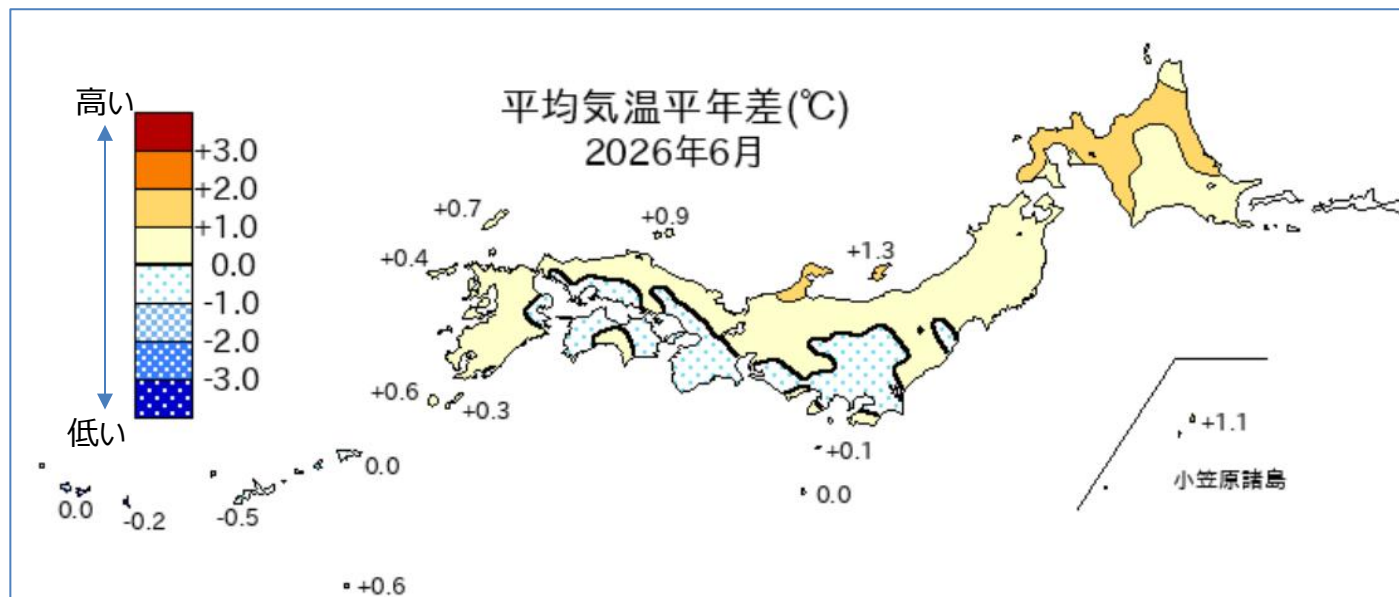
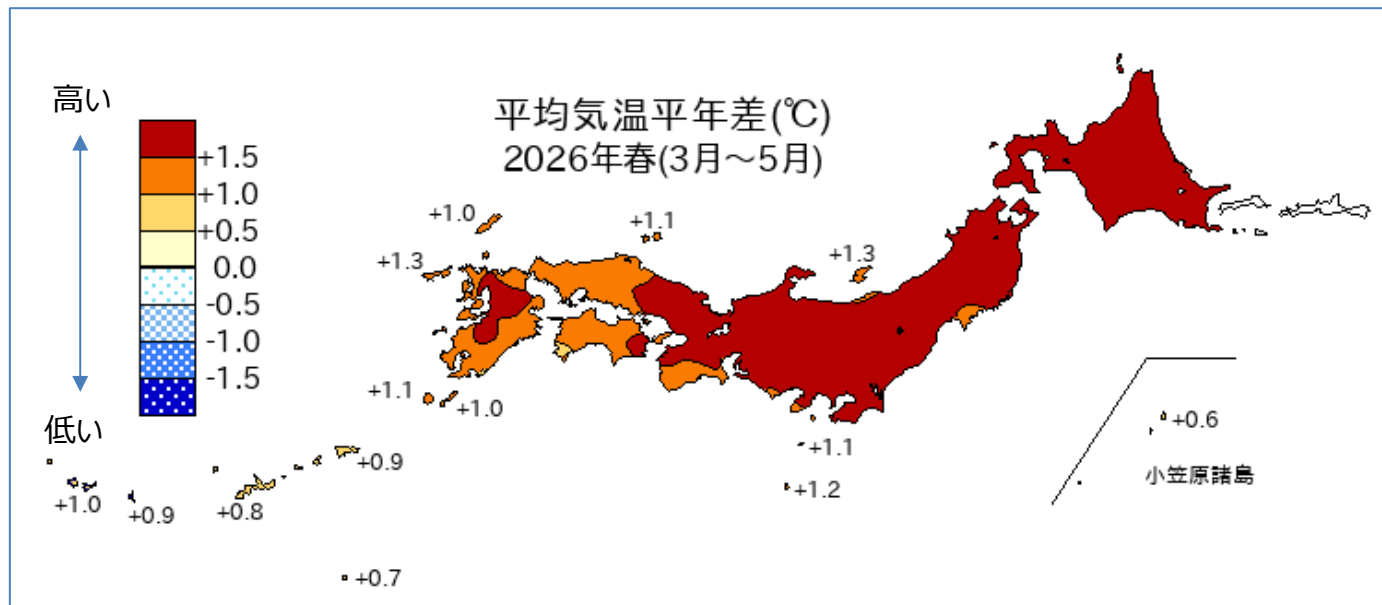
地点名	実況値	平年値	平年比(%)
茂庭	37)	23	161
福島	11	6	183
西会津	84	67	125
猪苗代	59	60	98
金山	196	122	161
若松	38	29	131
只見	234	181	129
南郷	130	127	102
湯本	58	63	92
玉川	26	//	//
田島	42	57	74
白河	26	5	520
桧枝岐	161	171	94

記号	統計値区分
D	正常値
--	現象なし
D)	準正常値
D]	資料不足値
X	欠測
//	平年値なし
D@	[参考]平年値

最深積雪は、平年を大きく上回っているところもある。中通りで顕著。

データは速報値です。後日、訂正・追加を行うことがあります。

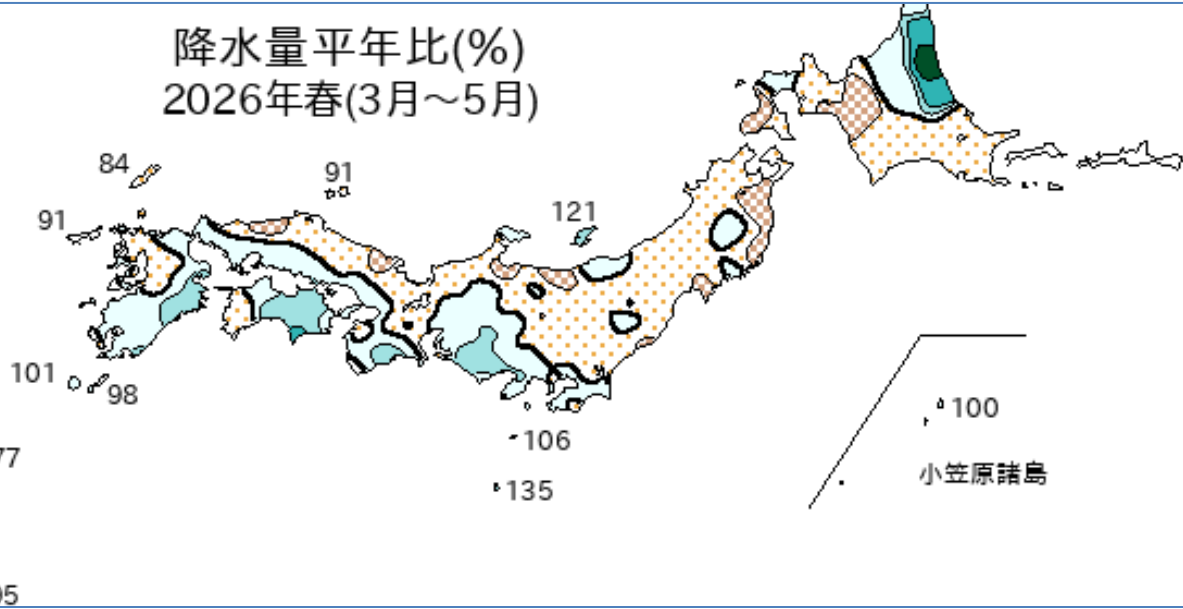
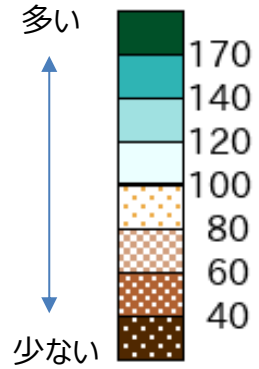
# 1 2026年3月以降の平均気温 春と6月の平年差



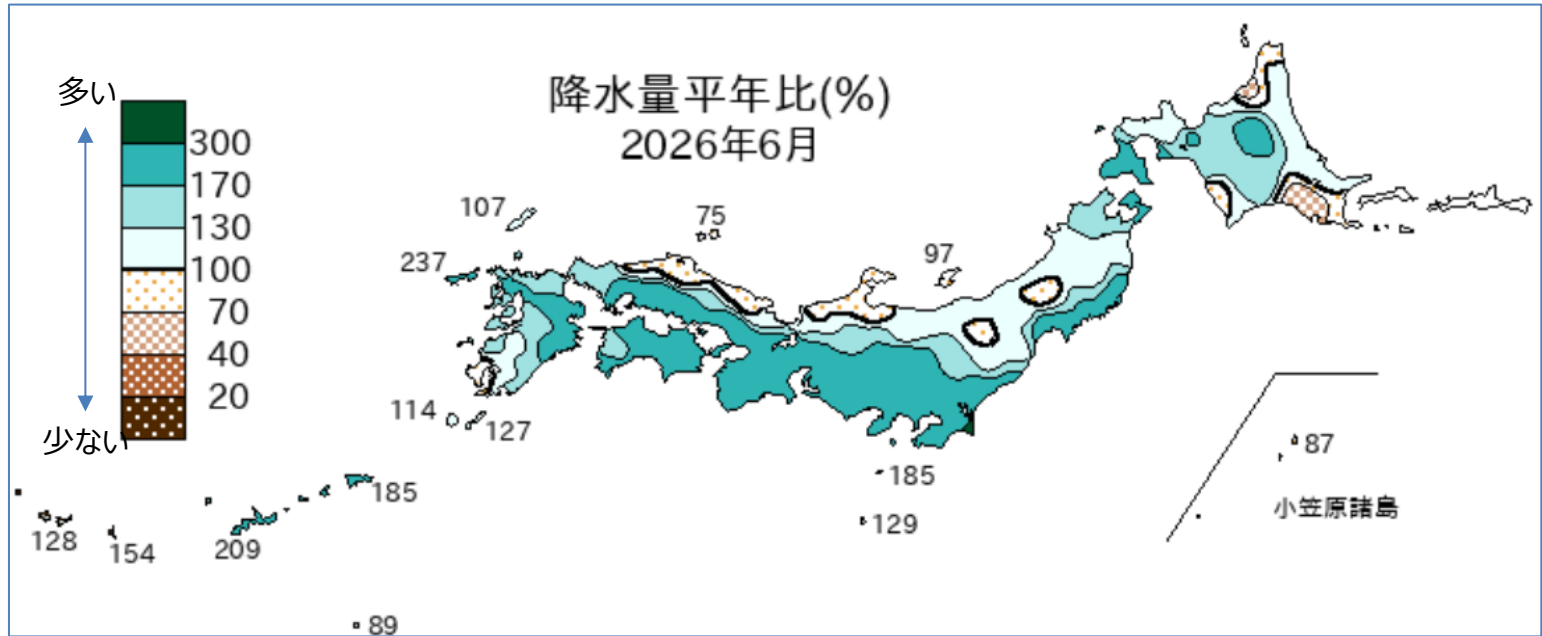
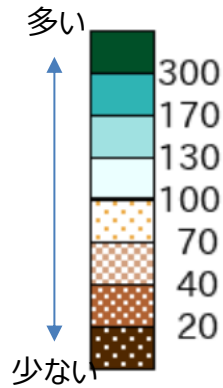
# 1 2026年3月以降の降水量 春と6月の平年比



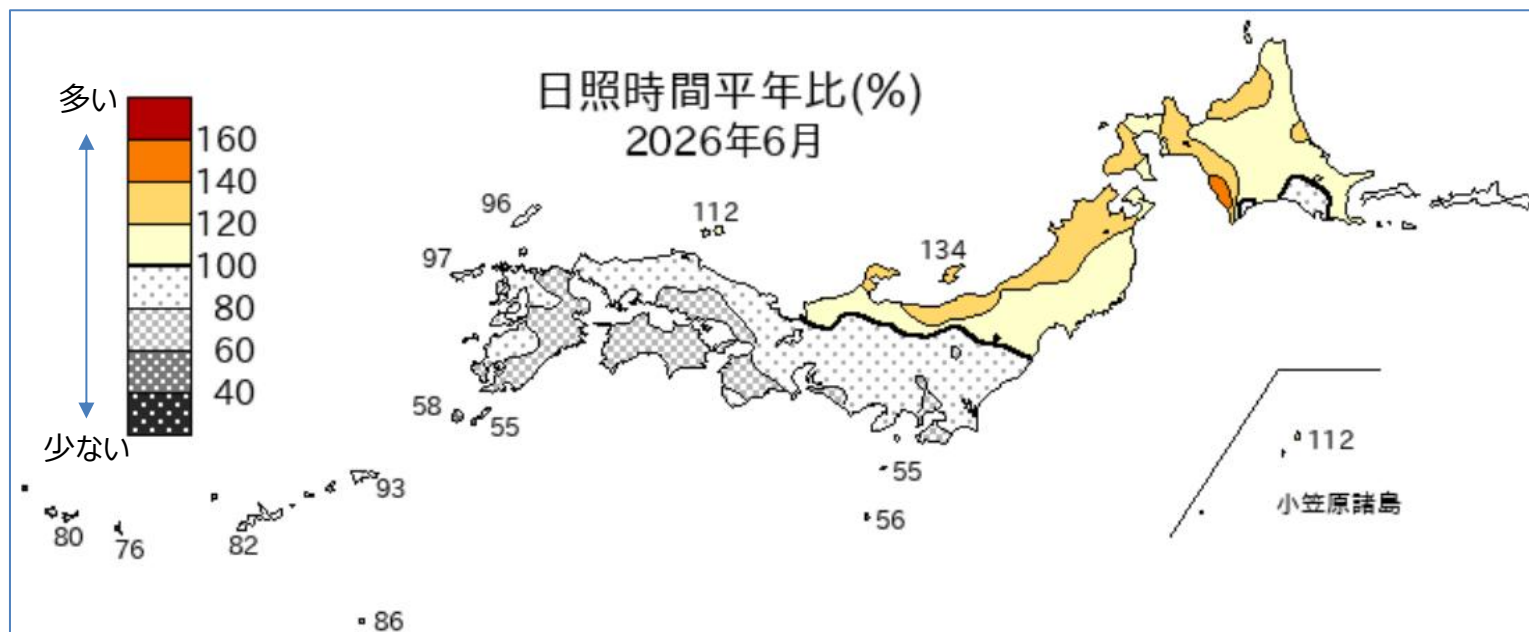
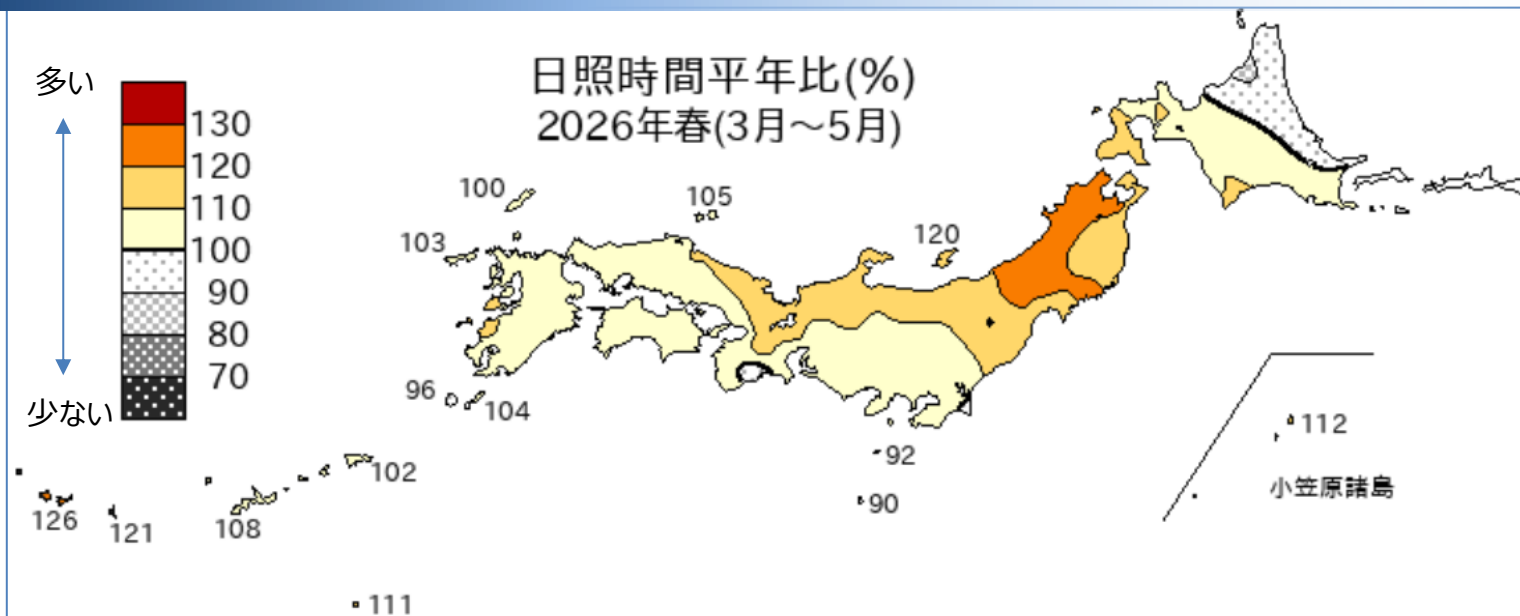
降水量平年比(%)  
2026年春(3月~5月)



降水量平年比(%)  
2026年6月



# 1 2026年3月以降の日照時間 春と6月の平年比





# 2 この先の見通し ～ 3 か月予報 6/23発表

**予報のポイント** 向こう3か月(7～9月)の気温は、期間の前半を中心に暖かい空気に覆われやすいため、平年並か高いでしょう。

月別の天候

7月:平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

8月:東北日本海側：平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

東北太平洋側：天気は数日の周期で変わるでしょう。

9月:東北日本海側：天気は数日の周期で変わるでしょう。

東北太平洋側：天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

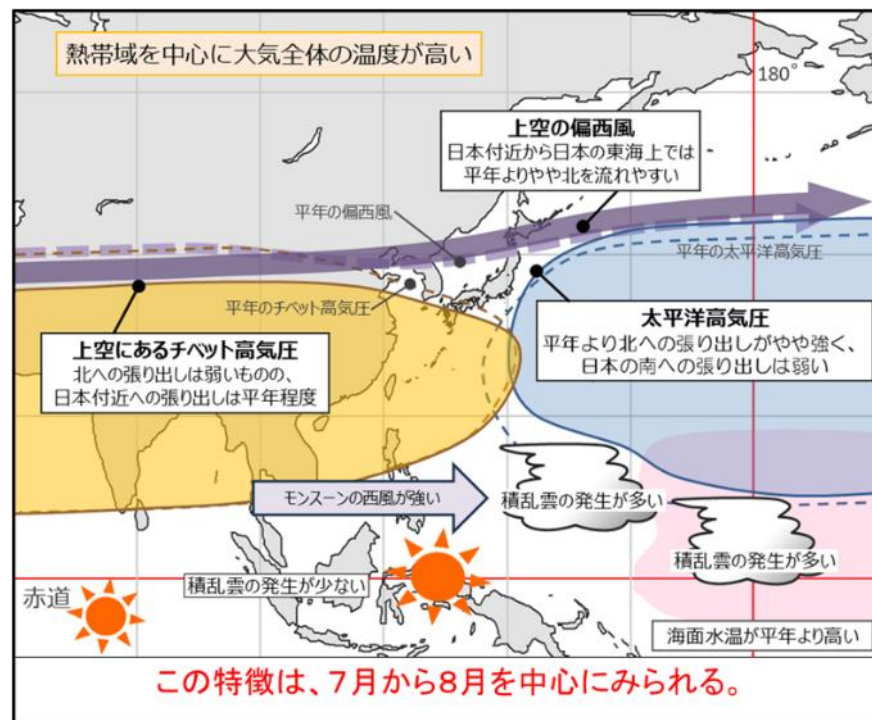
・地球温暖化やエルニーニョ現象の影響で、熱帯域を中心に大気全体の温度が高いでしょう。

・エルニーニョ現象が続く見込みで、海面水温は太平洋赤道域の東部から中部で高く、積乱雲の発生はこれらの海域で多いでしょう。また、期間の前半はモンスーンの西風が強く、積乱雲の発生はフィリピンの東から太平洋中部でも多いでしょう。

・一方、インド洋からインドネシア付近にかけては積乱雲の発生が少ないでしょう。

・これらの影響により、上空の偏西風はユーラシア大陸では平年より南を流れるでしょう。一方、日本付近から日本の東海上では期間の前半は平年よりやや北を、期間の後半は平年よりやや南を流れやすい見込みです。チベット高気圧は北への張り出しは弱いものの、日本付近への張り出しは平年程度でしょう。太平洋高気圧は期間の前半は北への張り出しがやや強く、日本の南への張り出しは弱いでしょう。

・これらのことから、日本付近は期間の前半を中心に暖かい空気に覆われやすいでしょう。



# 2 この先の見通し ~ 3 か月予報 6 / 23発表 東北地方



		向こう3か月	7月	8月	9月
東北	日本海側	低20 並40 高40% 平年並か高い見込み	低20 並40 高40% 平年並か高い見込み	低20 並40 高40% 平年並か高い見込み	低30 並40 高30% ほぼ平年並の見込み
	太平洋側	低20 並40 高40% 平年並か高い見込み	低20 並40 高40% 平年並か高い見込み	低20 並40 高40% 平年並か高い見込み	低30 並40 高30% ほぼ平年並の見込み
平均気温		<p>平均気温 (3か月)</p> <p>低い確率 (%) 50 40 40 50 高い確率 (%) 平年並も40%以上</p>	<p>平均気温 7月</p> <p>低い確率 (%) 50 40 40 50 高い確率 (%) 平年並も40%以上</p>	<p>平均気温 8月</p> <p>低い確率 (%) 50 40 40 50 高い確率 (%) 平年並も40%以上</p>	<p>平均気温 9月</p> <p>低い確率 (%) 50 40 40 50 高い確率 (%) 平年並も40%以上</p>
		向こう3か月	7月	8月	9月
東北	日本海側	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み
	太平洋側	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み
降水量		<p>降水量 (3か月)</p> <p>少ない確率 (%) 50 40 40 50 多い確率 (%) 平年並も40%以上</p>	<p>降水量 7月</p> <p>少ない確率 (%) 50 40 40 50 多い確率 (%) 平年並も40%以上</p>	<p>降水量 8月</p> <p>少ない確率 (%) 50 40 40 50 多い確率 (%) 平年並も40%以上</p>	<p>降水量 9月</p> <p>少ない確率 (%) 50 40 40 50 多い確率 (%) 平年並も40%以上</p>

次回発表は7月21日 (火)

# 2 この先の見通し ～ 3 か月予報 6/23発表 東北地方

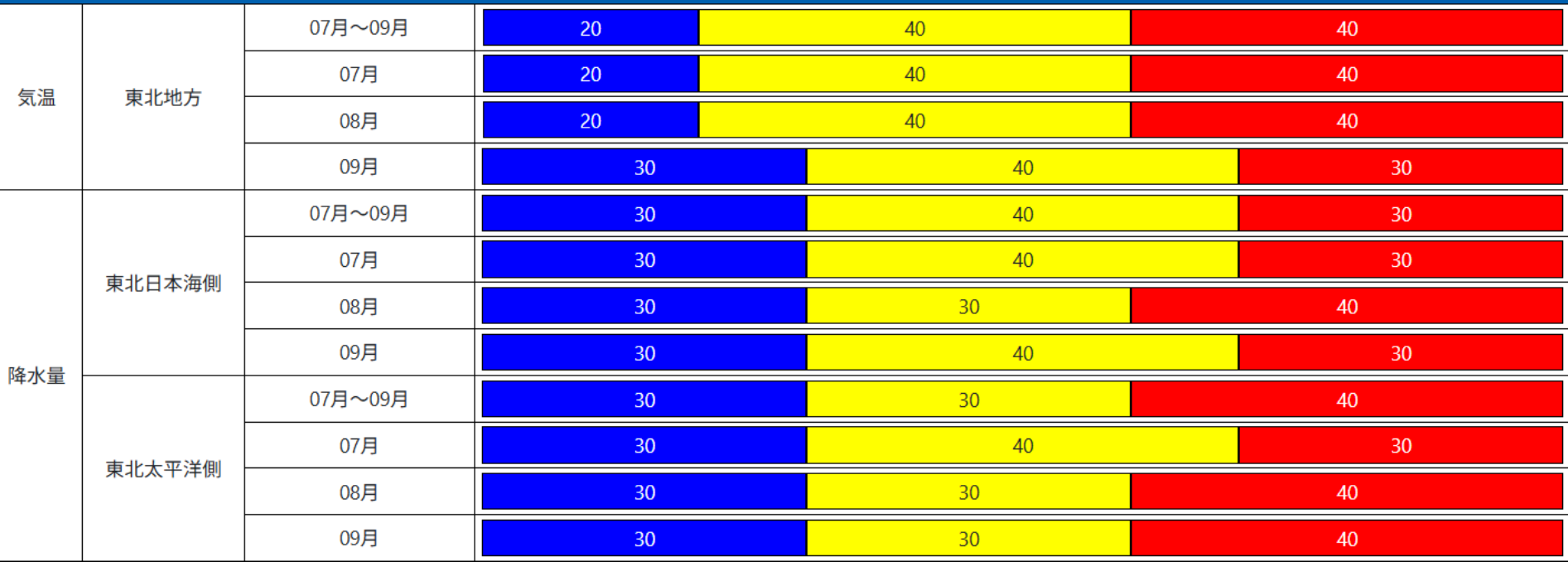


## 東北地方 3 か月予報 (07月～09月)

2026年06月23日14時00分 仙台管区气象台 発表

07月～09月	気温	平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
07月	天候	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
	気温	気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
08月	天候	東北日本海側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
	気温	気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
09月	天候	東北日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

### 気温、降水量の各階級の確率 (%)



■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

東北南部	今年 (速報値)	平年	昨年 (2025年)
梅雨入り	6月20日ごろ	6月12日ごろ	6月23日ごろ
梅雨明け		7月24日ごろ	7月18日ごろ

次回発表は7月21日 (火)

# 2 この先の見通し ～1か月予報 東北地方7/4～8/3



2026年7月2日 仙台管区气象台発表

予報のポイント

・暖かい空気に覆われやすいため、**向こう1か月の気温は高い**でしょう。  
**期間の前半は気温がかなり高くなる可能性**があります。



向こう1か月の天候

・平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

		平均気温 (向こう1か月)	降水量 (向こう1か月)	日照時間 (向こう1か月)
東北	日本海側	低10 並40 高50% <b>高い見込み</b>	少30 並30 多40% <b>ほぼ平年並の見込み</b>	少40 並30 多30% <b>ほぼ平年並の見込み</b>
	太平洋側	低10 並40 高50% <b>高い見込み</b>	少30 並30 多40% <b>ほぼ平年並の見込み</b>	少40 並30 多30% <b>ほぼ平年並の見込み</b>
数値は予想される出現確率 (%) です		平均気温 (1か月) 	降水量 (1か月) 	日照時間 (1か月) 
		低い確率 (50%以上) 40% 平年並も40% 40% 高い確率 (50%以上)	少ない確率 (50%以上) 40% 平年並も40% 40% 多い確率 (50%以上)	少ない確率 (50%以上) 40% 平年並も40% 40% 多い確率 (50%以上)



# 2 この先の見通し ～1か月予報 東北地方7/4～8/3

## 週別の天候と平均気温

2026年7月2日 仙台管区气象台発表

		1週目 7/4～7/10	2週目 7/11～7/17	3～4週目 7/18～7/31
天候		平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
平均気温	東北 日本海側	低10 並30 高60% <b>高い見込み</b>	低10 並30 高60% <b>高い見込み</b>	低20 並40 高40% <b>平年並か高い見込み</b>
	東北 太平洋側	低10 並40 高50% <b>高い見込み</b>	低10 並30 高60% <b>高い見込み</b>	低20 並40 高40% <b>平年並か高い見込み</b>
	平均気温	<p>平均気温（1週目）</p> <p>低い確率 (%) 50 40 40 50 高い確率 (%)</p> <p>平年並も40%</p>	<p>平均気温（2週目）</p> <p>低い確率 (%) 50 40 40 50 高い確率 (%)</p> <p>平年並も40%</p>	<p>平均気温（3～4週目）</p> <p>低い確率 (%) 50 40 40 50 高い確率 (%)</p> <p>平年並も40%</p>



# 2 この先の見通し ～1か月予報 東北地方7/4～8/3

2026年7月2日 仙台管区气象台発表



東北地方 1か月予報 (07/04～08/03)		
2026年07月02日14時30分 仙台管区气象台 発表		
特に注意を要する事項		期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。
向こう1か月 07/04～08/03	天候	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率50%です。
1週目 07/04～07/10	気温	1週目は、東北日本海側で高い確率60%、東北太平洋側で高い確率50%です。
2週目 07/11～07/17	気温	2週目は、高い確率60%です。
3～4週目 07/18～07/31	気温	3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北日本海側	向こう1か月 07/04～08/03	10 (低)   40 (平)   50 (高)
		1週目 07/04～07/10	10 (低)   30 (平)   60 (高)
		2週目 07/11～07/17	10 (低)   30 (平)   60 (高)
		3～4週目 07/18～07/31	20 (低)   40 (平)   40 (高)
	東北太平洋側	向こう1か月 07/04～08/03	10 (低)   40 (平)   50 (高)
		1週目 07/04～07/10	10 (低)   40 (平)   50 (高)
		2週目 07/11～07/17	10 (低)   30 (平)   60 (高)
		3～4週目 07/18～07/31	20 (低)   40 (平)   40 (高)
降水量	東北地方	向こう1か月 07/04～08/03	30 (低)   30 (平)   40 (高)
日照時間	東北地方	向こう1か月 07/04～08/03	40 (低)   30 (平)   30 (高)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

次回は2026年7月9日(木) 14時30分発表予定



## 2 この先の見通し ～1か月予報 東北地方7/4～8/3

### (参考) 東北地方の1か月予報 予報期間の平年値など 予報期間：7月4日～8月3日

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/sankou/tohoku1.html>



(1) 1991～2020年のデータに基づいた向こう1か月の各要素の平年値は次のとおりです。

	気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温1週目	気温2週目	気温3～4週目
福島	24.6	173.0	130.9	23.3	23.9	25.2
若松	24.4	187.6	166.7	23.0	23.7	25.0
小名浜	22.8	151.1	159.0	21.6	22.2	23.4
白河	23.0	226.2	127.3	21.9	22.5	23.6

(2) 1991～2020年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の各要素の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

(3) この予報期間の1週目、2週目、3～4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(°C)	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.4～+0.7	80～115	91～114
東北日本海側	-0.4～+0.7	76～111	87～113
東北太平洋側	-0.3～+0.8	78～116	88～117
東北北部	-0.3～+0.8	78～118	86～112
東北南部	-0.4～+0.7	78～118	86～115

	気温1週目	気温2週目	気温3～4週目
東北地方	-0.5～+0.6	-0.6～+0.8	-0.5～+0.9
東北日本海側	-0.4～+0.5	-0.6～+0.6	-0.5～+0.8
東北太平洋側	-0.6～+0.8	-0.7～+1.0	-0.4～+1.0
東北北部	-0.6～+0.7	-0.7～+0.8	-0.5～+1.1
東北南部	-0.5～+0.7	-0.7～+0.8	-0.4～+0.9

福島県は、東北南部  
中通りと浜通りは、東北太平洋側  
会津は、東北日本海側

# (参考) キーワード「出穂後20日間の日平均気温」



郡山 (アメダス) 左 (A) : 7/25からその日までの日平均気温の平均 (°C)  
 右 (B) : その日までの日平均気温の20日間平均 (°C)

A	2025年	2024年	2023年	平年値
7月26日	28.4	26.3	28.4	24.5
7月27日	28.3	26.5	28.3	24.5
7月28日	28.5	26.7	28.4	24.6
7月29日	28.5	27.0	28.6	24.7
7月30日	28.2	27.1	28.7	24.7
7月31日	27.7	27.0	28.7	24.8
8月1日	27.3	26.8	28.1	24.8
8月2日	27.3	26.8	28.0	24.9
8月3日	27.3	27.0	27.9	24.9
8月4日	27.4	27.1	27.8	24.9
8月5日	27.5	27.1	27.9	24.9
8月6日	27.5	27.1	28.0	25.0
8月7日	27.3	26.9	28.0	25.0
8月8日	27.1	26.9	27.9	25.0
8月9日	27.0	26.9	27.9	25.0
8月10日	26.8	26.8	27.9	25.0
8月11日	26.7	26.8	27.8	25.0
8月12日	26.6	26.8	27.7	25.0

B	2025年	2024年	2023年	平年値
8月13日	26.5	26.8	27.6	25.0
8月14日	26.4	26.9	27.5	25.0
8月15日	26.2	26.9	27.4	25.0
8月16日	26.1	26.9	27.4	25.0
8月17日	26.0	26.8	27.4	25.0
8月18日	25.9	26.8	27.3	24.9
8月19日	25.9	26.7	27.2	24.9
8月20日	26.0	26.7	27.1	24.9
8月21日	26.2	26.8	27.3	24.8
8月22日	26.2	26.7	27.4	24.8
8月23日	26.2	26.7	27.4	24.7
8月24日	26.2	26.6	27.5	24.6
8月25日	26.2	26.6	27.5	24.6
8月26日	26.2	26.6	27.4	24.5
8月27日	26.3	26.6	27.3	24.4
8月28日	26.4	26.6	27.3	24.3
8月29日	26.4	26.6	27.3	24.2
8月30日	26.6	26.5	27.3	24.1
8月31日	26.6	26.5	27.4	24.1
9月1日	26.9	26.5	27.5	24.0
9月2日	27.0	26.4	27.5	23.9
9月3日	26.9	26.2	27.5	23.8
9月4日	26.8	25.9	27.3	23.7
9月5日	26.7	25.8	27.3	23.6

出穂後20日間の日平均気温が26°C以上になると、光合成能力の低下等により白未熟粒の発生が増加します。  
 また、出穂後10日間の日最高気温の平均が33°Cを超えると胴割粒が増加します。

「こおりやまの米」通信 令和7年7月より

地域	主な品種の出穂期		「こおりやまの米」通信 令和7年9月より
	平坦部	7月28日	
8月2日		天のつぶ	
8月5日		コシヒカリ	

# (参考) キーワード「出穂後20日間の日平均気温」



猪苗代 (アメダス) 左 (A) : 7/25からその日までの日平均気温の平均 (°C)  
 右 (B) : その日までの日平均気温の20日間平均 (°C)

A	2025年	2024年	2023年	平年値
7月26日	26.9	24.6	26.5	22.8
7月27日	26.7	25.0	26.4	22.8
7月28日	26.8	24.9	26.5	22.9
7月29日	26.9	24.9	26.7	22.9
7月30日	26.7	24.9	26.8	23.0
7月31日	26.3	24.7	26.8	23.0
8月1日	26.1	24.5	26.4	23.1
8月2日	26.0	24.6	26.3	23.1
8月3日	26.1	24.8	26.2	23.1
8月4日	26.2	25.0	26.2	23.2
8月5日	26.2	25.0	26.3	23.2
8月6日	26.1	25.0	26.3	23.2
8月7日	25.9	24.9	26.3	23.2
8月8日	25.7	24.9	26.3	23.2
8月9日	25.5	24.9	26.2	23.2
8月10日	25.3	24.8	26.2	23.2
8月11日	25.3	24.8	26.1	23.2
8月12日	25.1	24.7	26.0	23.2

B	2025年	2024年	2023年	平年値
8月13日	25.0	24.8	26.0	23.2
8月14日	24.8	24.9	26.0	23.2
8月15日	24.6	24.9	25.9	23.2
8月16日	24.5	24.9	25.9	23.2
8月17日	24.4	24.9	25.8	23.2
8月18日	24.3	24.9	25.8	23.2
8月19日	24.3	25.0	25.7	23.2
8月20日	24.4	25.0	25.7	23.1
8月21日	24.4	25.1	25.8	23.1
8月22日	24.4	25.1	25.9	23.0
8月23日	24.4	25.1	25.9	23.0
8月24日	24.4	25.1	26.0	22.9
8月25日	24.3	25.1	25.9	22.8
8月26日	24.4	25.0	25.9	22.7
8月27日	24.4	25.1	25.8	22.7
8月28日	24.5	25.2	25.7	22.6
8月29日	24.5	25.1	25.7	22.5
8月30日	24.6	25.1	25.8	22.4
8月31日	24.7	25.2	25.8	22.3
9月1日	25.0	25.2	25.9	22.2
9月2日	25.1	25.1	25.8	22.1
9月3日	25.0	24.9	25.8	22.0
9月4日	25.0	24.7	25.7	21.9
9月5日	24.9	24.5	25.7	21.8

出穂後20日間の日平均気温が26°C以上になると、光合成能力の低下等により白未熟粒の発生が増加します。  
 また、出穂後10日間の日最高気温の平均が33°Cを超えると胴割粒が増加します。

「こおりやまの米」通信 令和7年7月より

地域	主な品種の出穂期	
湖南	7月25日	あきたこまち
	7月31日	里山のつぶ

「こおりやまの米」通信 令和7年9月より

# (参考) キーワード「出穂後10日間の日最高気温の平均」



郡山 (アメダス) 網掛け斜体は7/25からその日までの日最高気温の平均 (°C)  
 それ以外は、その日までの日最高気温の10日間平均 (°C)

	2025年	2024年	2023年	平年値
7月26日	35.7	31.0	33.9	29.2
7月27日	34.8	31.6	33.8	29.3
7月28日	34.9	31.1	34.3	29.4
7月29日	35.4	31.0	34.8	29.5
7月30日	35.3	30.9	34.7	29.6
7月31日	34.7	30.9	34.5	29.6
8月1日	33.9	30.9	34.0	29.7
8月2日	33.6	31.3	34.1	29.8
8月3日	33.6	31.6	34.2	29.8
8月4日	33.6	32.1	34.1	29.9
8月5日	33.3	32.1	34.5	30.0
8月6日	33.1	32.0	34.5	30.1
8月7日	32.5	32.2	34.3	30.2
8月8日	31.7	32.2	34.0	30.2
8月9日	31.3	32.3	33.8	30.2
8月10日	30.7	32.2	33.8	30.2
8月11日	30.9	32.1	34.0	30.2
8月12日	30.3	31.8	33.8	30.1
8月13日	30.1	31.8	33.5	30.1
8月14日	29.9	31.6	33.0	30.0
8月15日	29.5	31.8	32.5	29.9

	2025年	2024年	2023年	平年値
8月16日	29.5	31.6	32.3	29.9
8月17日	29.8	31.5	32.3	29.8
8月18日	30.1	31.7	32.6	29.7
8月19日	30.3	31.9	32.7	29.6
8月20日	31.0	32.3	32.8	29.5
8月21日	31.2	32.4	33.0	29.4
8月22日	32.0	32.2	33.2	29.3
8月23日	32.3	32.0	33.3	29.2
8月24日	32.6	32.0	33.8	29.1
8月25日	32.9	31.7	34.0	29.1
8月26日	33.1	32.1	34.3	29.0
8月27日	33.3	32.0	33.9	28.9
8月28日	33.3	31.7	33.6	28.7
8月29日	33.0	31.2	33.7	28.6
8月30日	33.0	30.7	33.6	28.5
8月31日	33.2	30.6	33.5	28.4
9月1日	33.3	30.9	33.4	28.3
9月2日	33.4	30.9	33.4	28.2
9月3日	32.9	30.3	33.2	28.1
9月4日	32.4	29.8	32.3	28.0
9月5日	31.5	29.7	32.1	27.9

出穂後20 日間の日平均気温が 26°C以上になると、光合成能力の低下等により白未熟粒の発生が増加します。  
 また、出穂後 10 日間の日最高気温の平均が 33°Cを超える  
 と胴割粒が増加します。

「こおりやまの米」通信 令和7年7月より

地域	主な品種の出穂期	
平坦部	7月28日	ひとめぼれ
	8月2日	天のつぶ
	8月5日	コシヒカリ

「こおりやまの米」通信  
 令和7年9月より

# (参考) キーワード「出穂後10日間の日最高気温の平均」



猪苗代 (アメダス) 網掛け斜体は7/25からその日までの日最高気温の平均 (°C)  
 それ以外は、その日までの日最高気温の10日間平均 (°C)

	2025年	2024年	2023年	平年値
7月26日	34.1	28.0	31.6	27.5
7月27日	33.1	28.8	31.7	27.6
7月28日	33.3	28.0	32.0	27.7
7月29日	33.5	28.1	32.2	27.8
7月30日	33.2	28.1	32.2	27.9
7月31日	32.7	28.1	32.1	27.9
8月1日	32.4	28.2	31.7	28.0
8月2日	32.2	28.5	31.6	28.0
8月3日	32.3	28.9	31.6	28.1
8月4日	32.3	29.5	31.6	28.2
8月5日	32.0	29.5	31.8	28.3
8月6日	31.7	29.5	31.6	28.4
8月7日	31.0	29.8	31.4	28.4
8月8日	30.3	29.9	31.0	28.4
8月9日	30.0	30.0	30.8	28.4
8月10日	29.5	30.1	30.6	28.4
8月11日	29.3	30.1	30.7	28.4
8月12日	28.5	29.8	30.5	28.4
8月13日	28.2	29.7	30.4	28.3
8月14日	27.7	29.5	30.2	28.3
8月15日	27.2	29.7	29.7	28.2

	2025年	2024年	2023年	平年値
8月16日	27.4	29.5	29.4	28.1
8月17日	27.7	29.6	29.5	28.0
8月18日	28.0	29.6	29.8	28.0
8月19日	28.3	29.7	30.0	27.9
8月20日	29.0	29.9	30.3	27.8
8月21日	29.2	30.1	30.4	27.7
8月22日	29.9	30.3	30.6	27.6
8月23日	30.2	30.4	30.5	27.5
8月24日	30.6	30.4	30.7	27.4
8月25日	31.0	30.3	31.0	27.3
8月26日	31.2	30.3	31.4	27.3
8月27日	31.3	30.3	31.1	27.2
8月28日	31.2	30.2	31.0	27.0
8月29日	30.8	29.7	30.9	26.9
8月30日	30.6	29.4	30.7	26.8
8月31日	30.9	29.4	30.7	26.7
9月1日	31.0	29.3	30.9	26.6
9月2日	31.1	29.2	30.9	26.5
9月3日	30.6	28.5	30.8	26.4
9月4日	30.2	28.1	30.3	26.2
9月5日	29.4	28.1	30.1	26.1

出穂後20 日間の日平均気温が 26℃以上になると、光合成能力の低下等により白未熟粒の発生が増加します。  
 また、出穂後 10 日間の日最高気温の平均が 33℃を超えると胴割粒が増加します。

「こおりやまの米」通信 令和7年7月より

地域	主な品種の出穂期	
湖南	7月25日	あきたこまち
	7月31日	里山のつぶ

「こおりやまの米」通信 令和7年9月より

# (参考) キーワード「出穂後20日間の平均気温」



## 気象庁HP→各種データ・資料→最新の気象データ→天候の状況

https://www.data.jma.go.jp/stats/data/mdrr/tenkou/indexTenkou.html?gazou=tem20d00&dhi=d

国土交通省 気象庁 Japan Meteorological Agency

ホーム 防災情報 **各種データ・資料** 地域の情報

最新の記事

コンテンツの閲覧方法について (よくお寄せいただくご質問)

気象庁ホーム > 各種データ・資料

### 各種データ・資料

気象庁が持つ様々なデータをご紹介します。  
防災情報は[こちら](#)からご確認ください。

- 全般
  - 数値データページリンク集
  - 災害をもたらした台風・大雨・地震・火山等のとりまとめ
  - 気象庁情報カタログ
  - 気象庁防災情報XMLフォーマット
- 気象
  - 気象観測データ
    - 最新の気象データ**
    - 過去の気象データ検索
- 地球環境・気候
  - 気候変動
    - 気候変動ポータル
    - 日本の気候変動2025

ホーム > 各種データ・資料 > 最新の気象データ

### 最新の気象データ

最新の統計データで見る現在の気象状況です。 ・地点ごとの最新値は防災気象情報[アメダス表形式](#)をご覧ください。

#### 気象の状況

各地の降水、風、気温、雪の状況を表示します。最近1週間分を日別にご覧になれます。

- 降水の状況** 10分ごとに更新  
各地の1時間降水量、24時間降水量などを表示します。
- 風の状況** 毎時50分頃に更新  
各地の日最大風速、日最大瞬間風速を表示します。
- 気温の状況** 毎時50分頃に更新  
各地の日最高気温、日最低気温を表示します。
- 雪の状況** 休止中  
「雪の状況」ページは11月頃から5月上旬に運用しています。

#### その他のデータ

- 特定期間の気象データ** 毎時35分頃に更新  
大雨や台風時に、降り始めからの降水量の合計値や風速の最大値などを表示します。
- 天候の状況** 毎日5時頃に更新  
低温・少雨・日照不足などの状況を、気温・降水量・日照時間の平均(合計)値で表示します。平均(合計)期間は10日、30日、90日などです。

全国観測値ランキング  
観測値を要素ごとに上位10位まで  
観測史上1位の値 更新状況  
観測史上1位の値を更新した観測所  
※観測値ランキングと観測史上1位の値はリンクしています。

今日の全国データ一覧表  
全国の気象台等の最高・最低気温を  
昨日より前のものは、[毎日の全国データ一覧表](#)

海洋の情報 波浪 / 海氷

# (参考) キーワード「出穂後20日間の平均気温」



## 気象庁HP→各種データ・資料→最新の気象データ→天候の状況

<https://www.data.jma.go.jp/stats/data/mdrr/tenkou/indexTenkou.html?gazou=tem20d00&dhi=d>

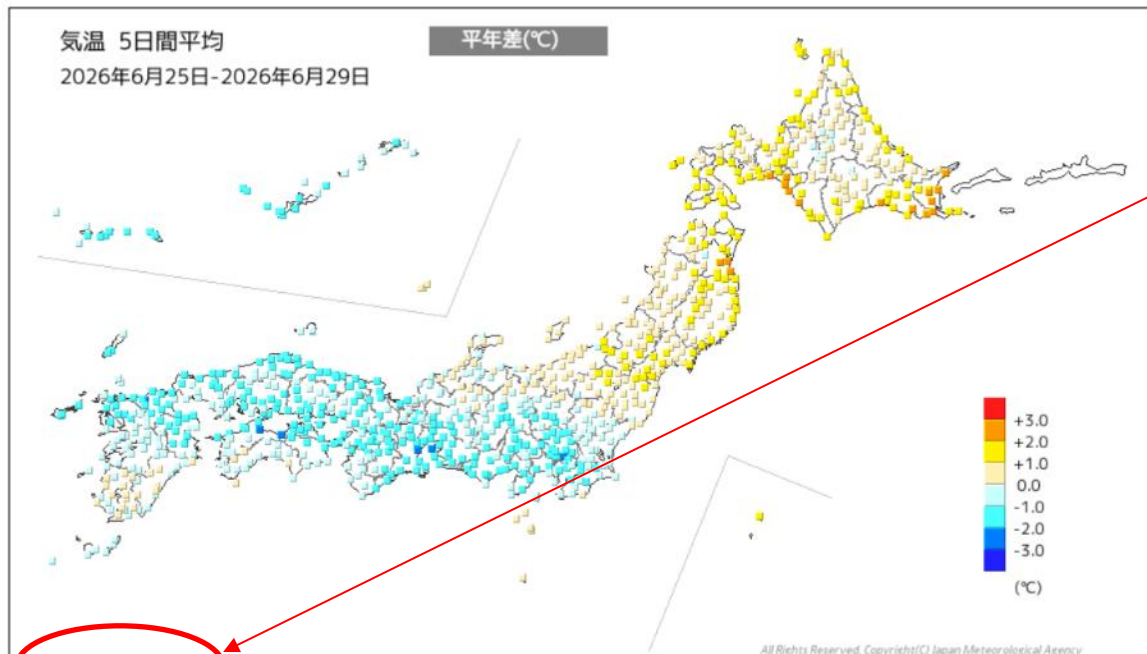
### 天候の状況

低温・少雨・日照不足などの状況を、全国各地の気温・降水量・日照時間の5日以上の前(合計)値やその平年差・平年比で見ることができます。

気温	昨日までの	5日平均	10日平均	20日平均	30日平均	45日平均	60日平均	90日平均	120日平均
降水量	昨日までの	10日合計	20日合計	30日合計	45日合計	60日合計	90日合計	120日合計	
日照時間	昨日までの	5日合計	10日合計	20日合計	30日合計	45日合計	60日合計	90日合計	120日合計

要素を選べます。

期間を選べます。



「地点別のデータ一覧表」で県を選択する画面になるので、福島県を選ぶと、データの一覧表が表示されます。

### 地点別データ一覧表

### 実況値

実況値を表示したいときはここをクリック。

都府県	地点	平均気温 2026年6月29日まで			
		前5日間平均 平均気温 (平年差) (°C)	前10日間平均 平均気温 (平年差) (°C)	前20日間平均 平均気温 (平年差) (°C)	前30日間平均 平均気温 (平年差) (°C)
福島県	茨城	20.9 (+0.9)	19.3 (-0.4)	19.0 (0.0)	18.1 (-0.1)
福島県	安田	22.5 (+1.1)	20.5 (-0.7)	20.5 (+0.1)	19.9 (-0.1)
福島県	松原	18.2 (+0.8)	16.9 (-0.1)	16.1 (-0.2)	15.8 (-0.2)
福島県	福島*	23.3 (+1.2)	21.0 (-0.7)	21.2 (+0.1)	20.7 (+0.1)
福島県	相馬	21.4 (+0.9)	19.6 (-0.5)	19.5 (0.0)	19.0 (-0.1)
福島県	喜多方	22.5 (+1.0)	21.4 (+0.3)	21.0 (+0.4)	20.6 (+0.6)
福島県	磐城	15.8 (+0.6)	14.2 (-0.6)	14.2 (+0.1)	13.7 (+0.2)
福島県	飯沼	20.1 (+1.0)	18.1 (-0.6)	18.0 (-0.1)	17.6 (+0.1)
福島県	西会津	22.0 (+1.1)	20.9 (+0.3)	20.4 (+0.4)	20.0 (+0.6)
福島県	猪苗代	20.4 (+0.8)	19.2 (0.0)	18.9 (+0.3)	18.4 (-0.4)
福島県	二本松	21.9 (+0.8)	19.9 (-0.9)	20.1 (-0.1)	19.5 (-0.2)
福島県	金山	20.8 (+0.6)	19.9 (+0.1)	19.3 (+0.2)	18.8 (+0.4)
福島県	若菜*	23.1 (+1.3)	21.9 (+0.4)	21.7 (+0.7)	21.2 (+0.8)
福島県	滝川	20.6 (+0.7)	18.9 (-0.7)	18.8 (-0.1)	18.3 (0.0)
福島県	霞川	21.0 (+0.7)	19.4 (-0.6)	19.3 (0.0)	19.0 (+0.3)
福島県	只見	20.8 (+0.7)	20.0 (+0.3)	19.2 (+0.1)	18.8 (+0.4)
福島県	朝山	22.2 (+0.8)	20.4 (-0.6)	20.4 (0.0)	19.9 (0.0)
福島県	川内	20.1 (+0.7)	18.5 (-0.5)	18.2 (0.0)	17.8 (-0.2)
福島県	南郷	20.7 (+0.9)	19.9 (+0.4)	19.2 (+0.4)	18.8 (+0.7)
福島県	湯本	18.8 (+0.6)	17.7 (-0.1)	17.1 (0.0)	16.5 (0.0)
福島県	玉川	20.8 (0.0)	19.2 (-1.3)	19.2 (-0.6)	18.8 (-0.3)
福島県	小野新町	20.4 (+0.5)	18.9 (-0.6)	18.6 (-0.2)	18.1 (0.0)
福島県	心野	20.7 (+0.1)	18.9 (-0.9)	18.7 (-0.4)	18.4 (-0.1)
福島県	雄勝	20.0 (+0.7)	19.4 (+0.3)	18.6 (+0.3)	18.1 (+0.3)
福島県	白河*	20.9 (+0.3)	19.4 (-0.8)	19.5 (-0.1)	19.1 (+0.1)
福島県	石川	21.2 (+0.3)	19.0 (-0.6)	19.7 (-0.2)	19.2 (-0.1)
福島県	楡樹緑	17.1 (-0.3)	16.8 (-0.2)	15.8 (-0.5)	15.5 (-0.2)
福島県	栗川	21.3 (+0.3)	20.4 (-0.3)	20.1 (+0.1)	19.7 (+0.3)
福島県	山田	20.9 (-0.3)	20.3 (-0.5)	19.7 (-0.4)	19.4 (-0.2)
福島県	小名浜*	20.5 (0.0)	20.1 (-0.1)	19.8 (0.0)	19.1 (+0.1)

# (参考) キーワード「出穂後20日間の平均気温」



「地点別のデータ一覧表」で福島県を選ぶと、前日までの、前5日間、前10日間、前20日間、前30日間、前45日間、前60日間、前90日間、前120日間の平均気温、降水量、日照時間などの一覧表が表示されます。

[気温](#)
[降水量](#)
[日照時間](#)
[降雪量](#)
[ページ先頭へ](#)

[平均気温](#)
 2026年6月29日まで

期間平均気温		前5日間平均		前10日間平均		前20日間平均		前30日間平均		前45日間平均		前60日間平均		前90日間平均		前120日間平均	
都道府県	地点	平均気温 (°C)	(平年差) (°C)	平均気温 (°C)	(平年差) (°C)	平均気温 (°C)	(平年差) (°C)	平均気温 (°C)	(平年差) (°C)	平均気温 (°C)	(平年差) (°C)	平均気温 (°C)	(平年差) (°C)	平均気温 (°C)	(平年差) (°C)	平均気温 (°C)	(平年差) (°C)
福島県	茂庭	20.9	(+0.9)	19.3	(-0.4)	19.0	(0.0)	18.3	(-0.1)	18.0	(+0.5)	17.1	(+0.6)	15.3	(+1.2)	12.8	(+1.4)
福島県	梁川	22.6	(+1.1)	20.5	(-0.7)	20.5	(-0.1)	19.9	(-0.1)	19.5	(+0.4)	18.7	(+0.5)	16.7	(+1.0)	14.1	(+1.0)
福島県	桧原	18.2	(+0.8)	16.9	(-0.1)	16.1	(-0.2)	15.8	(+0.2)	15.3	(+0.7)	14.2	(+0.7)	12.2	(+1.5)	9.4	(+1.6)
福島県	福島*	23.3	(+1.2)	21.0	(-0.7)	21.2	(+0.1)	20.7	(+0.1)	20.5	(+0.7)	19.7	(+0.9)	17.7	(+1.2)	15.0	(+1.2)
福島県	相馬	21.4	(+0.9)	19.6	(-0.5)	19.5	(0.0)	19.0	(+0.1)	18.5	(+0.4)	17.9	(+0.7)	16.1	(+1.2)	13.6	(+1.0)
福島県	喜多方	22.5	(+1.0)	21.4	(+0.3)	21.0	(+0.4)	20.6	(+0.6)	20.1	(+1.2)	18.9	(+1.1)	16.7	(+1.7)	13.9	(+1.9)
福島県	鷺倉	15.8	(+0.6)	14.2	(-0.6)	14.2	(+0.1)	13.7	(+0.2)	13.5	(+0.9)	12.6	(+1.0)	10.6	(+1.7)	7.7	(+1.7)
福島県	飯館	20.1	(+1.0)	18.1	(-0.6)	18.0	(-0.1)	17.6	(+0.1)	17.3	(+0.7)	16.5	(+0.8)	14.6	(+1.3)	12.0	(+1.3)
福島県	西会津	22.0	(+1.1)	20.9	(+0.3)	20.4	(+0.4)	20.0	(+0.6)	19.4	(+1.1)	18.3	(+1.1)	16.2	(+1.7)	13.5	(+2.0)
福島県	猪苗代	20.4	(+0.8)	19.2	(0.0)	18.9	(+0.3)	18.4	(+0.4)	18.0	(+1.0)	16.9	(+1.0)	14.9	(+1.7)	12.2	(+1.9)
福島県	二本松	21.9	(+0.8)	19.9	(-0.9)	20.1	(-0.1)	19.5	(-0.2)	19.4	(+0.6)	18.6	(+0.8)	16.7	(+1.3)	13.9	(+1.1)
福島県	金山	20.8	(+0.6)	19.9	(+0.1)	19.3	(+0.2)	18.8	(+0.4)	18.3	(+0.9)	17.2	(+0.9)	15.1	(+1.8)	12.1	(+1.6)
福島県	若松*	23.1	(+1.3)	21.9	(+0.4)	21.7	(+0.7)	21.2	(+0.8)	20.8	(+1.4)	19.6	(+1.4)	17.5	(+2.0)	14.6	(+2.0)
福島県	船引	20.6	(+0.7)	18.9	(-0.7)	18.8	(-0.1)	18.3	(0.0)	18.1	(+0.7)	17.3	(+0.9)	15.4	(+1.4)	12.6	(+1.2)
福島県	浪江	21.0	(+0.7)	19.4	(-0.6)	19.3	(0.0)	19.0	(+0.3)	18.7	(+0.8)	18.2	(+1.2)	16.4	(+1.5)	13.9	(+1.3)
福島県	只見	20.8	(+0.7)	20.0	(+0.3)	19.2	(+0.1)	18.8	(+0.4)	18.4	(+1.1)	17.2	(+1.2)	14.8	(+1.8)	11.8	(+1.7)
福島県	郡山	22.2	(+0.8)	20.4	(-0.6)	20.4	(0.0)	19.9	(0.0)	19.7	(+0.7)	18.8	(+0.8)	16.8	(+1.4)	14.1	(+1.3)
福島県	川内	20.1	(+0.7)	18.5	(-0.5)	18.2	(0.0)	17.8	(+0.2)	17.5	(+0.8)	16.7	(+0.9)	14.9	(+1.5)	12.2	(+1.3)
福島県	南郷	20.7	(+0.9)	19.9	(+0.4)	19.2	(+0.4)	18.8	(+0.7)	18.4	(+1.3)	17.2	(+1.3)	15.0	(+2.0)	12.0	(+1.9)
福島県	湯本	18.8	(+0.6)	17.7	(-0.1)	17.1	(0.0)	16.5	(0.0)	16.2	(+0.7)	15.3	(+0.8)	13.5	(+1.4)	11.0	(+1.6)
福島県	玉川	20.8	(0.0)	19.2	(-1.3)	19.2	(-0.6)	18.8	(-0.3)	18.6	(+0.4)	17.8	(+0.6)	16.0	(+1.3)	13.4	(+1.2)
福島県	小野新町	20.4	(+0.5)	18.9	(-0.6)	18.6	(-0.2)	18.1	(0.0)	17.9	(+0.7)	17.0	(+0.8)	15.0	(+1.3)	12.5	(+1.4)
福島県	広野	20.2	(+0.1)	18.9	(-0.9)	18.7	(-0.4)	18.4	(-0.1)	18.0	(+0.3)	17.6	(+0.8)	16.1	(+1.3)	13.8	(+1.1)
福島県	田島	20.0	(+0.7)	19.4	(+0.5)	18.6	(+0.3)	18.1	(+0.5)	17.7	(+1.1)	16.6	(+1.0)	14.6	(+1.7)	12.0	(+2.0)
福島県	白河*	20.9	(+0.3)	19.4	(-0.8)	19.5	(-0.1)	19.1	(+0.1)	19.0	(+0.8)	18.1	(+0.9)	16.3	(+1.4)	13.7	(+1.4)
福島県	石川	21.2	(+0.3)	19.9	(-0.6)	19.7	(-0.2)	19.2	(-0.1)	19.1	(+0.7)	18.2	(+0.8)	16.4	(+1.4)	13.8	(+1.4)
福島県	桧枝岐	17.1	(-0.3)	16.8	(-0.2)	15.8	(-0.5)	15.5	(-0.2)	15.4	(+0.7)	14.2	(+0.6)	12.4	(+1.5)	9.6	(+1.5)
福島県	東白川	21.3	(+0.3)	20.4	(-0.3)	20.1	(+0.1)	19.7	(+0.3)	19.4	(+0.9)	18.5	(+1.0)	16.6	(+1.5)	14.0	(+1.5)
福島県	山田	20.9	(-0.3)	20.3	(-0.5)	19.7	(-0.4)	19.4	(-0.2)	19.0	(+0.2)	18.3	(+0.4)	16.7	(+1.0)	14.5	(+1.0)
福島県	小名浜*	20.5	(0.0)	20.1	(-0.1)	19.6	(0.0)	19.1	(+0.1)	18.8	(+0.6)	18.4	(+1.0)	16.9	(+1.5)	14.8	(+1.4)



# (参考) キーワード「出穂後20日間の平均気温」



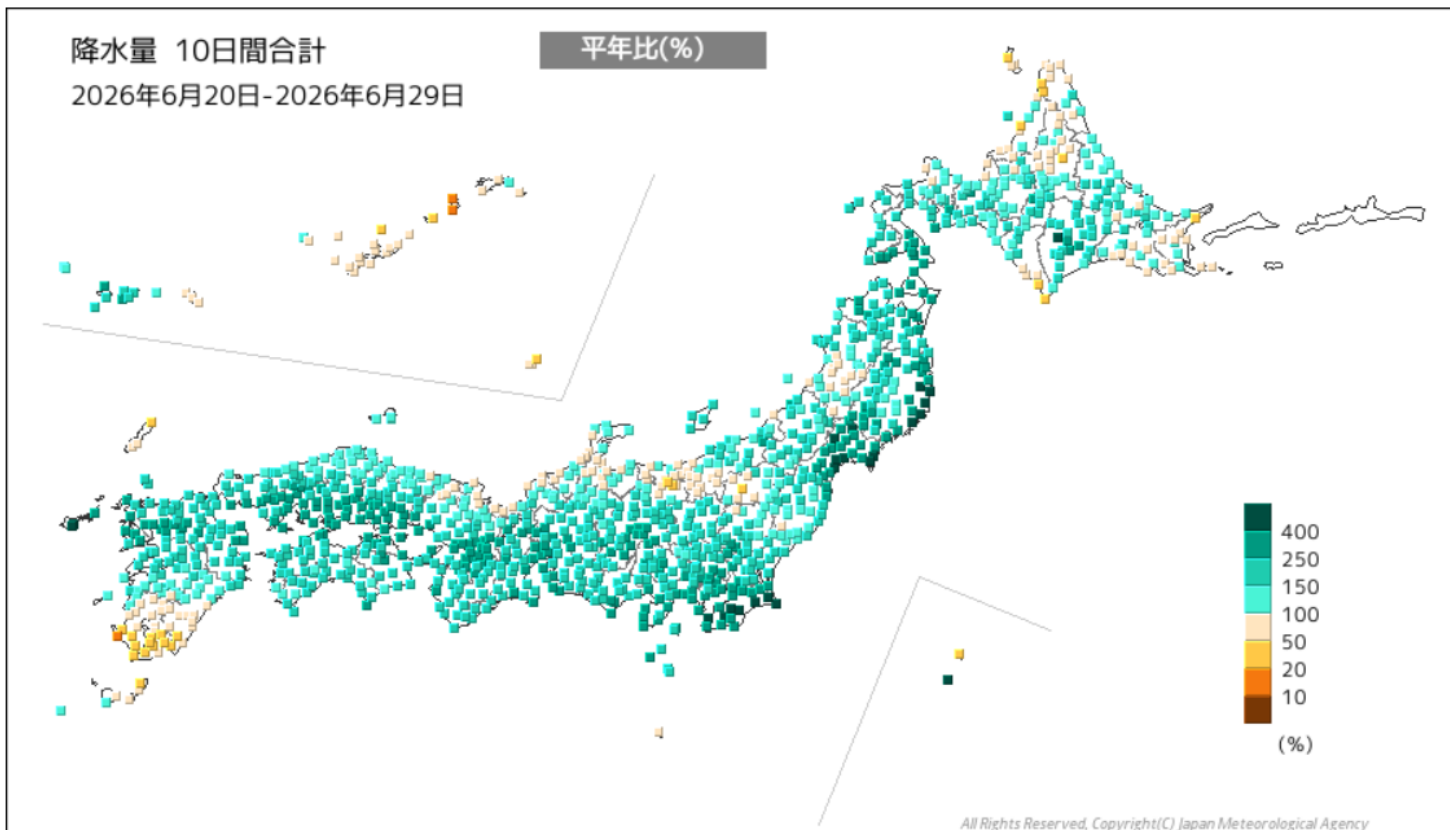
## 気象庁HP→各種データ・資料→最新の気象データ→天候の状況

<https://www.data.jma.go.jp/stats/data/mdrr/tenkou/indexTenkou.html?gazou=tem20d00&dhi=d>

### 天候の状況

低温・少雨・日照不足などの状況を、全国各地の気温・降水量・日照時間の5日以上平均(合計)値やその平年差・平年比で見ることができます

気温	昨日までの	▶ 5日平均	▶ 10日平均	▶ 20日平均	▶ 30日平均	▶ 45日平均	▶ 60日平均	▶ 90日平均	▶ 120日平均
降水量	昨日までの		▶ 10日合計	▶ 20日合計	▶ 30日合計	▶ 45日合計	▶ 60日合計	▶ 90日合計	▶ 120日合計
日照時間	昨日までの	▶ 5日合計	▶ 10日合計	▶ 20日合計	▶ 30日合計	▶ 45日合計	▶ 60日合計	▶ 90日合計	▶ 120日合計



# 降水量

# (参考) キーワード「出穂後20日間の平均気温」

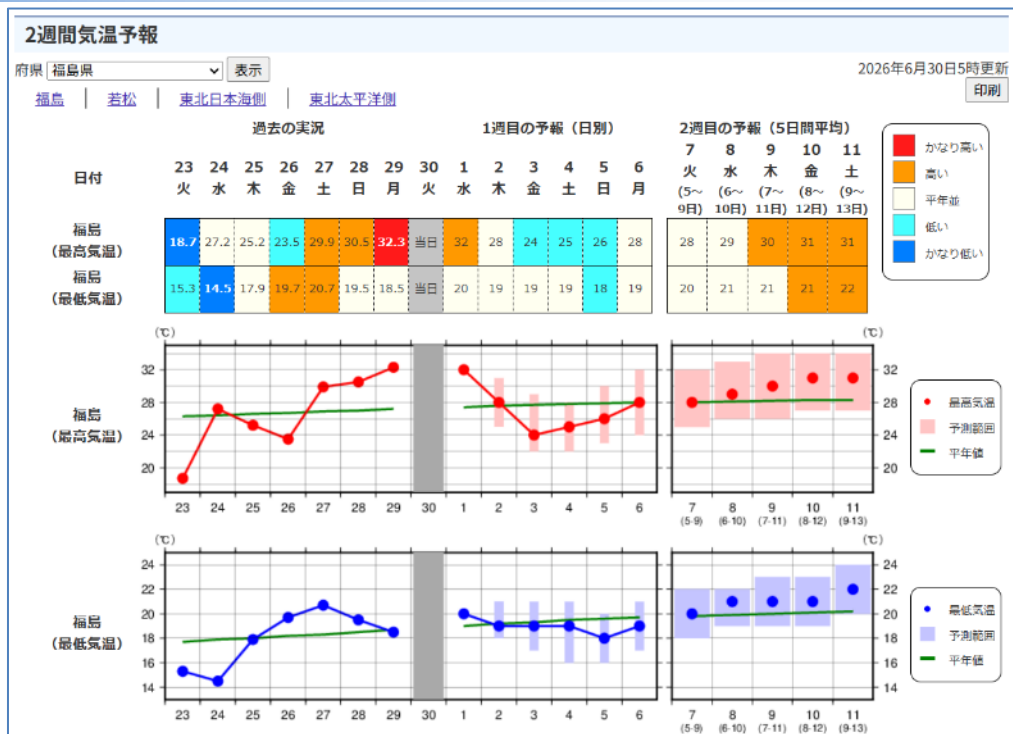


## 2週間気温予報

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/twoweek/?fuk=36>

週間予報の先、2週間先までの気温を、5日間平均で予想します。

対象地点は、福島と若松です。



## 確率予測資料 (2週間気温予報) のダウンロード

[https://www.data.jma.go.jp/risk/probability/guidance/csv\\_k2w.php?n=47595#about\\_data](https://www.data.jma.go.jp/risk/probability/guidance/csv_k2w.php?n=47595#about_data)

2週間気温予報の基礎資料となる確率予測資料 (データ) をダウンロードできます。

対象地点は、福島、若松、白河、小名浜です。



# 令和 8 年度病害虫発生予察情報 発生予報第 4 号(6 月)

令和 8 年 6 月 3 0 日

発表：福島県病害虫防除所

## 【注意が必要な病害虫】

普通 作物	■ 水稲：斑点米カメムシ類 -②
果樹	■ リンゴ：キンモンホソガ -② ■ ナシ：黒星病 -②
野菜 花き	■ キク：アザミウマ類（令和 8 年 5 月 26 日付け防除情報参考）-①



病害虫防除所  
HP は  
←こちらから



病害虫に関する  
防除対策の  
ページは  
←こちらから

※ 上記の表に記載された病害虫は、下記の①～③に該当します。

- 注) ①現状において、注意報レベルの防除を要すると判断された病害虫  
 ②「1 主な病害虫の発生予報」のうち、予察調査の結果、発生時期が「やや早い」、発生量が「やや多い」と予測された病害虫の中で特に懸念される病害虫  
 ③「1 主な病害虫の発生予報」以外で調査の結果、今後、県全域的に発生が多く問題になると判断した病害虫

## 1 主な病害虫の発生予報

## (1) 普通作物

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
水 稲	いもち病 (葉いもち)	全 域	平年並	平年並	天候予報（6 月 25 日発表 1 か月予報）によると、向こう 1 か月の降水量は平年並と予想されている（±）。	発生の早期発見、早期防除に努める。特に多肥田では発生しやすいため、注意する。 置苗は、葉いもちの発生源となるため、水田内に放置せず早急に処分する。
	紋枯病	全 域	平年並	やや多	昨年の発生はやや多く、天候予報によると、向こう 1 か月の気温は高いと予想されている（+）。	前年の発生が多かった場合は、薬剤散布を実施する。 気温が高いと上位葉鞘への伸展が早まるため、注意する。
	斑点米 カメムシ類	全 域	-	やや多	6 月中下旬の畦畔での発生地点割合は浜通りでやや高く、中通り及び会津は平年並であった。天候予報によると向こう 1 か月の気温は高いと予想されている（+）。	畦畔や水田周辺のイネ科雑草の穂は斑点米カメムシ類の増殖源になるため、草刈りを励行し、イネの出穂 10 日前までに終了させる。

注) 予報の根拠の中で（+）は多発要因、（-）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

(2) 果樹

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
リンゴ	斑点落葉病	全 域	—	平年並	6月中下旬の新梢葉での発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	
	褐斑病	全 域	—	平年並	6月中下旬の新梢葉での発生は確認されず、発生ほ場割合は、平年並であった(±)。 果そう葉での発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	梅雨期は二次感染を繰り返す恐れがあるため、発生が認められる園地では防除対策を徹底する。 薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、散布間隔があきすぎないように注意する。
	黒星病	全 域	—	平年並	6月中下旬の新梢葉及び果実での発生は確認されず、発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	発病部位は見つけしだい除去し、園外に持ち出すなど適切に処分する。 薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、散布間隔があきすぎないように注意する。
	キンモンホソガ	県 北 県中・県南、会津	— —	やや多 平年並	<b>県北の6月中下旬の新梢葉での発生ほ場割合は、平年よりやや高かった(+)</b> 。県中・県南、会津では平年並であった(±)。	農作物病害虫防除指針や地域の防除暦を参考に防除を徹底する。
	ハダニ類	全 域	—	やや少	6月中下旬の新梢寄生の発生ほ場割合は平年よりやや少なかった(-)。	要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達した場合は、殺ダニ剤を散布する。
モモ	灰星病	県 北	—	平年並	6月中下旬の果実での発生ほ場割合は平年並であった(±)。	薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、散布間隔があきすぎないように注意する。
	せん孔細菌病	県 北	—	やや少	6月の新梢葉及び果実での発生は確認されず、発生ほ場割合は平年よりやや低かった(-)。	梅雨期は発病が急増するおそれがあるため、引き続き注意が必要である。 罹病部位は見つけしだい除去し、園外へ持ち出すなど適切に処理する。
	モモハモグリガ	県北	—	やや少	6月中下旬の新梢葉被害の発生ほ場割合は平年よりやや低かった(-)。	本種の発生には放任園や無防除のハナモモ園が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣に存在する園地では、今後も発生に注意する。

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
モモ	ハダニ類	県北	—	平年並	6月中下旬の新梢葉寄生の発生ほ場割合は平年並であった(±)。	要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達した場合は、殺ダニ剤を散布する。
ナシ	<b>黒星病</b>	<b>県北、県中・県南 浜通り</b>	— —	<b>やや多</b> 平年並	<b>県北、県中・県南での6月中下旬の果実での発生ほ場割合はやや高かった(+)</b> 。 浜通りでは平年並であった(±)。 <b>県中・県南での新梢葉での発生ほ場割合は平年よりやや高かった(+)</b> 。県北・浜通りでは平年並であった(±)。	<b>梅雨期は二次感染により黒星病の発病が急増するおそれがあるため、罹病部位は見つけしだい取り除くなど、耕種的防除を徹底する。</b> <b>「幸水」では本病に対する果実の感受性が高まる時期(満開後50~90日)なので、防除を徹底する。</b> <b>薬剤散布は降雨前の実施を心掛け、散布間隔があきすぎないように注意する</b>
	ハダニ類	全域	—	平年並	6月中下旬の新梢葉寄生の発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達した場合は、殺ダニ剤を散布する。
果樹共通	カメムシ類	全域	—	平年並	6月中下旬において、調査ほ場への飛来は平年並であった(±)。	園内をこまめに見回り、成虫の飛来状況をよく確認する。成虫が次々に飛来し被害が懸念される場合には速やかに薬剤防除を実施する。

注) 予報の根拠の中で (+) は多発要因、(—) は少発要因、(±) は平年並要因であることを示す。

### (3) 野菜、花き

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
夏秋トマト(被覆栽培)	灰色かび病	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	発病葉は摘除し、防除を徹底する。 多湿条件で発生が多くなるので換気を十分に行う。
	葉かび病	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	多湿条件で発生が多くなるので換気を十分に行う。
	アブラムシ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
夏秋トマト(被覆栽培)	コナジラミ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。 県内の一部ほ場では、トマト黄化葉巻病の発生が確認されている。薬剤による防除を徹底し、葉裏まで薬剤がしっかりとかかるように防除する。
夏秋キュウリ(露地栽培)	べと病	全域	—	やや少	発生ほ場割合は、平年より低かった(-)が、天候予報によると向こう1か月は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている(+)	多湿条件が続くと発病しやすくなるので、発生初期から防除を実施する。
	うどんこ病	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	まん延すると防除が困難となるので、発生初期から防除を実施する。
	炭疽病	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	発病葉は摘除し、発生初期から防除を実施する。 排水対策の徹底、過湿防止、資材の消毒に努める。
	斑点細菌病	全域	—	やや多	発生ほ場割合は、平年並であった(±)が、天候予報によると向こう1か月は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている(+)	被害茎葉をほ場外に処分する。発病後の防除は難しいため、予防散布を行う。
	モザイク病	全域	—	やや多	発生ほ場割合は、平年よりやや高かった(+)	ウイルスを媒介するアブラムシ類の防除を行う。また、ほ場周辺の除草を行い、発病株はできるだけ早く除去する。
	アブラムシ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、すみやかに防除を実施する。 ウイルス感染株が発生している場合は、速やかに抜き取る。
	ハダニ類	全域	—	やや多	発生ほ場割合は、平年よりやや高かった(+)	ほ場をよく観察し、低密度時から防除を実施する。薬剤抵抗性の発達が懸念されるため、異なる系統のローテーション散布を実施する。

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
キク(露地栽培)	白さび病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	多湿条件が続くと発病しやすくなるので、予防散布に努める。 品種により発病に差があるので、発病しやすい品種では防除を徹底する。
	アブラムシ類	全 域	—	やや少	発生ほ場割合は、平年よりやや低かった(-)。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。
	ハダニ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	気温が高くなると、急激に発生量が増えるため、低密度時から防除を実施する。 抵抗性の発達が懸念されるため、防除薬剤の選択に注意する。
	アザミウマ類	全 域	—	やや多	発生ほ場割合は、平年よりやや高かった(+)	ほ場をよく観察し、葉裏まで薬剤がかかるように防除を徹底する。
	ハモグリバエ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	上位葉での発生に注意し、低密度時から防除を実施する。
リンドウ	葉枯病	全 域	—	やや多	発生ほ場割合は、平年よりやや高かった(+)	多湿条件で発生が多くなるので、予防散布に努める。
	ハダニ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	気温が高くなると、急激に発生量が増えるため、ほ場をよく観察し、低密度時から防除を実施する。
	リンドウホソハマキ	全 域	-	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は速やかに防除を実施する。
野菜・花き共通	タバコガ類	全 域	-	平年並	発生ほ場割合は、平年よりやや低かった(-)が、県北地域では、フェロモントラップの誘殺数が増加傾向である(+)	キクでは生長点付近、トマトでは果実等をよく観察し、寄生や被害が見られた場合は、速やかに防除を行う。

注) 予報の根拠の中で (+) は多発要因、(-) は少発要因、(±) は平年並要因であることを示す。

## 2 発生が懸念される病害虫

リンゴ ・モモ・ ナシ等	<p>■ <b>ナシヒメシンクイ</b></p> <p>ナシヒメシンクイ第2世代成虫の誘殺盛期は、気温が2℃高く推移した場合、7月3半旬頃と予測され、第3世代の防除適期は7月5半旬頃と推定されます。(農業総合センター果樹研究所(福島市)、6月25日現在)。</p> <p>本種は主にモモなどの核果類の新梢伸長が停止するとナシ果実への寄生が増加します。例年、ナシでの果実被害が多い地域では、近隣のモモなどにおける防除も徹底してください。なお、薬剤による防除を実施する場合には、使用基準を遵守してください。</p> <p>■ <b>カイガラムシ類</b></p> <p>ナシマルカイガラムシ第2世代ふ化開始は、今後の気温が2℃高く推移した場合、7月5半旬頃と予想され、ふ化盛期は8月1半旬頃と推定されます(農業総合センター果樹研究所(福島市)、6月25日現在)。</p> <p>カイガラムシ類はふ化期の防除が重要であるため、防除適期を逃さないように防除を徹底してください。</p>
ブドウ	<p>■ <b>晩腐病</b></p> <p>幼果期の防除終了後速やかにカサ掛けを行ってください。カサは雨もりを防ぐように丁寧に行いましょう。また袋かけ前の防除終了後は、速やかに袋掛けを行いましょ。</p>
トマト	<p>■ <b>トマト黄化葉巻病 (TYLCV)</b></p> <p>夏秋トマトほ場において、トマト黄化葉巻病の発生が確認されています。発生が確認されたら、コナジラミ類の防除を徹底してください。また、発病が疑われる株については、速やかに抜き取り処理を行ってください。</p> <p>病害虫防除所ホームページでも情報を掲載しているため、下記の URL も参考にしてください。 病害虫防除所 HP でも情報を掲載しているため、下記の URL も参考にしてください。</p> <p>【注意喚起～トマト黄化葉巻病 (TYLCV) のまん延防止対策～】 <a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/544337.pdf">https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/544337.pdf</a></p> <p>【トマト黄化葉巻病 (TYLCV) 対策 チラシ】 <a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/648953.pdf">https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/648953.pdf</a></p> <p>【トマト黄化葉巻病 (TYLCV) 対策 パンフレット】 <a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/648954.pdf">https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/648954.pdf</a></p> <p>■ <b>トマトキバガ</b></p> <p>県内の夏秋栽培ほ場の複数地点で、幼虫による葉や果実の被害が確認されています。ほ場をよく観察し、被害の早期発見・防除に努めましょう。また、被害葉や被害果実は摘み取ってビニール袋等に入れて蒸し込みし、完全に死滅させてください。</p>
キク	<p>■ <b>わい化ウイルス (CSVd)</b></p> <p>県内の複数ほ場においてわい化ウイルスの症状が発生しています。葉が淡緑化し、草丈が短いまま生育が停止します。また、特徴として、節間が短縮してわい化することで見分けることができます。</p> <p>感染株の抜き取り、健全苗の親株選抜、作業に使用するハサミの消毒を実施し、感染拡大に努めましょう。</p>

## 現地の各作物の生育状況と今後の管理について

### 【県全体の概要】

#### 1 水稲

##### (高温・小雨の影響や、渇水の状況)

- ・ 育苗期間の高温により、もみ枯細菌病が平年より多く発生した地域があった。
- ・ 水稲作柄概況調査によると、県全体の田植え作業の始期 5/7 (平年 5/8)、盛期 5/16 (平年 5/15)、終期 5/29 (平年 5/27) であり、ほぼ平年並みに進んだ。
- ・ 一部地域では水不足により移植時期の遅れや移植不能田が発生したが、県全体としての影響は少なかった。
- ・ 移植後の生育は、高温・少雨の影響が少なく、概ね順調。
- ・ 農業総合センターの「コシヒカリ」の生育調査 (6月23日時点) では、本部 (郡山市) は草丈が 40.1 cm (平年比 96%)、茎数が 645 本/m<sup>2</sup> (平年比 112%)、葉齢は 8.9 葉 (平年差+0.2 葉) であった。会津地域研究所 (会津坂下町) は草丈が 42.0 cm (平年比 91%)、茎数が 718 本/m<sup>2</sup> (平年比 107%)、葉齢が 8.5 葉 (平年差-0.8 葉) であった。浜地域研究所 (相馬市) は草丈が 43.7 cm (平年比 87%)、茎数が 703 本/m<sup>2</sup> (平年比 95%)、葉齢が 9.0 葉 (平年差-0.2 葉) であった。

表 1 農業総合センターにおける水稲「コシヒカリ」の生育状況

調査場所	移植期 (月・日)	6月23日調査			
		草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	主稈葉数 (枚)	葉色 (SPAD502 値)
本部	5.15	40.1 (96%)	645 (112%)	8.9 (+0.2)	44.1 (+5.0)
会津地域研究所	5.20	42.0 (91%)	718 (107%)	8.5 (-0.8)	41.7 (+0.7)
浜地域研究所	5.11	43.7 (87%)	703 (95%)	9.0 (-0.2)	43.9 (+2.3)

注 1) 調査場所は、本部が郡山市、会津地域研究所が会津坂下町、浜地域研究所が相馬市

注 2) 括弧内の数字は、会津地域研のコシヒカリでは前 4 年平均 (2021, 2023~2025 年)、それ以外では前 5 年平均 (2021~2025 年) との比較

##### (今後の管理)

- ・ 水管理 (飽水管理等)、出穂期追肥の判断、斑点米カメムシ類の適期防除を指導する。

#### 2 畑作物

##### (高温・小雨の影響や、渇水の状況)

- ・ 麦は高温・少雨による影響は少ない。
- ・ 大豆の出芽は良好。
- ・ 農業総合センターの大豆 (標播) の生育調査 (6月24日現在) によると、出芽日数

は、本部（郡山市）は平年並、会津地域研究所（会津坂下町）は平年より1日早く、浜地域研究所（相馬市）は平年より2日遅かった。

表2 農業総合センターにおける大豆（標播）の生育状況（6月24日現在）

調査場所	品 種	播種期 (月.日)	出芽期 (月.日)	出芽日数 (日)
本 部	タチナガハ	6. 1 (−1)	6.10 (−1)	9 (±0)
	里のほほえみ	6. 1 (−1)	6.10 (−1)	9 (±0)
会津地域 研 究 所	あやこがね	6. 1 (±0)	6. 8 (−1)	7 (−1)
	里のほほえみ	6. 1 (±0)	6. 8 (−1)	7 (−1)
浜 地 域 研 究 所	タチナガハ	6.11 (+4)	6.19 (+6)	8 (+2)
	里のほほえみ	6.11 (+4)	6.19 (+6)	8 (+2)

注1) 調査場所は、本部が郡山市、会津地域研究所が会津坂下町、浜地域研究所が相馬市

注2) 括弧内の数字は、前5年平均（2021～2025年）との比較

#### (今後の管理)

- ・ 大豆について、開花期以降の畝間かん水の実施を指導。

### 3 野菜

#### (高温・小雨の影響や、渇水の状況)

- ・ 現時点では大幅な減収となるような高温・乾燥による障害はなく、概ね平年並みの生育となっている。
- ・ 軽微な影響については、5月中旬や6月中下旬の梅雨入り前の高温時に、施設きゅうりやトマトの葉焼け、いちご苗の萎れやランナー先枯れなどが発生した。比較的会津地域で発生が多く、浜通りでは一部葉茎菜類に影響が見られたが、果菜類への高温・乾燥による影響は無かった。
- ・ 害虫の発生が平年よりやや早い傾向で、特にアブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類が増加傾向であり、高温に転じた際の発生増加が懸念される。

#### (今後の管理)

- ・ かん水や施肥による草勢維持や遮光・遮熱資材の活用、病虫害防除の徹底を指導する。

### 4 果樹

#### (高温・小雨の影響や、渇水の状況)

- ・ 春先の高温により、全域的に開花が平年より1週間から10日程度前進した。生育初期は果実肥大が伸び悩んだ地域もあるが、現在は概ね解消された。
- ・ 果樹研究所における7月1日付けの果実肥大を暦日で比較すると、もも「あかつき」

は縦径が 57.4mm で平年比 114%、側径が 60.1mm で平年比 121%、なし「幸水」は縦径が 36.7mm で平年比 105%、横径が 45.8mm で平年比 110%、りんご「ふじ」は縦径が 49.6mm で平年比 107%、横径が 52.9mm で平年比 107%といずれも平年より大きい状況である。満開後の日数で比較すると、「あかつき」は平年よりやや大きく、「幸水」「ふじ」は平年並である。

表3 農業総合センター果樹研究所における果実肥大状況

品目	果実肥大			
	縦径(mm)	平年比(%)	横径※(mm)	平年比(%)
もも「あかつき」	57.4	114	60.1	121
なし「幸水」	36.7	105	45.8	110
りんご「ふじ」	49.6	107	52.9	107

※ももは側径

#### (今後の管理)

- ・かん水や草刈り、マルチ等による土壌水分の保持、適期収穫、適切な病虫害防除の実施、日焼け対策を指導する。ハウスぶどうにおける換気など暑熱対策の実施を指導する。

## 5 花き

#### (高温・小雨の影響や、渇水の状況)

- ・生育のばらつきがあり、コギク、トルコギキョウ、宿根カスミソウでは、生育や開花が前進傾向だが、全体としては、現時点では高温・少雨の影響は少ない。
- ・害虫の発生は平年よりやや早い傾向。アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類、リンドウホソハマキ等の発生が見られるが、大きな被害とはなっていない。

#### (今後の管理)

- ・かん水の実施、ハウスにおける遮光・遮熱資材の活用、病虫害防除の徹底、カルシウム剤の散布等について指導する。

## 1 水稻（6月26日現在）

農林事務所 普及部・所	生育、病害虫発生状況等、今後の管理（高温対策）
<p>県北 農業振興普及部</p>	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6/19 現在の作柄判定ほの生育調査の結果は以下のとおり 草丈:44.7cm (107%)、茎数:598本/m<sup>2</sup> (137%)、葉数:9.0 (+0.5) 葉色 (SPAD 値) : 39.3 (-3.3) ※ ( ) 内は平年差・比</li> <li>・高温・少雨となった場合、白未熟粒の発生や斑点米カメムシ類・紋枯病等の病害虫の多発による減収、品質の低下が懸念される。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管内全体の田植えの進捗は平年並であったが、一部の地区では代かき、移植のための十分な用水がなく、移植時期が遅くなった。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飽水管理、出穂期頃の追肥</li> </ul>
<p>伊達 農業普及所</p>	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育苗期間の高温により、細菌性病害（もみ枯細菌病）が平年より多く発生し、2,000枚程度まき直しが行われたため、一部では田植えが計画より遅くなった。</li> <li>・田植え後の高温により、藻類・表層はく離が多く発生している。また、ガスわきによる初期生育の抑制が一部で発生している。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月中旬の少雨により、小河川から取水している水田、天水田で、代かき作業を遅らせた事例があった。現在は渇水の影響は見られない。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水管理等基本技術の徹底。葉色の極端な低下が見られる場合の追肥、出穂後の飽水管理の実施。</li> </ul>
<p>安達 農業普及所</p>	<p>○高温・少雨の影響 (安達農業普及所)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水稻の生育は概ね順調で、茎数は平年並み。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一部地域では用水量が減少し、降雨に頼る比率が高まっているが、降水量が少なく配水に苦慮していたが、現在は渇水の影響は見られない。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無効分けつの発生を抑制するため有効茎数が確保でき次第、中干しを実施するよう指導する。</li> </ul>

農林事務所 普及部・所	生育、病虫害発生状況等、今後の管理（高温対策）
県中 農業振興普及部	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・草丈が長く、分けつはやや多いなど旺盛な生育となっている。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点では影響なし。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・追肥（ケイ酸資材、穂肥）、葉色低下に応じた追肥、斑点米カメムシ類の適期防除、高温時の飽水管理の徹底、適期刈取</li> </ul>
須賀川 農業普及所	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育苗期の高温により、籾枯れ細菌病の発生が多い傾向。</li> <li>・箱処理剤の使用により、被害は甚大ではないが、例年よりもイネミズゾウムシやイネドロオイムシの発生が多い傾向。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・須賀川市西部の一部地域で、移植期に水不足により移植が遅れた事例がある。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水管理（飽水管理）、ケイ酸追肥、斑点米カメムシ類対策</li> </ul>
田村 農業普及所	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月～6月中旬まで、水不足により生育の遅れ、葉先枯れが散見された。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・用水不足により、山間ほ場で田植作業の遅れ、作付不能水田が散見された。（作付不能となった水田は10～20ha程度見込み）</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生育に応じた施肥、登熟期の飽水管理、病虫害防除対策の徹底を周知する。</li> </ul>

農林事務所 普及部・所	生育、病虫害発生状況等、今後の管理（高温対策）
<p>県南 農業振興普及部</p>	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移植栽培の生育は平年並み （草丈：平年並、茎数：平年より多い、葉齢は平年並）</li> <li>・乾田直播：入水開始</li> <li>・羽鳥ダム(6/15 時点の貯水率 46.8%)水系は水量が不足し、一部で中干状態の水田がみられる。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6/15 時点の貯水率(羽鳥ダム46.8%、西郷ダム51.3%、犬神ダム69.3%、赤坂ダム95.6%)いずれも平年より少ない。羽鳥ダム水系では、用水不足の影響が一部見られる。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・追肥やケイ酸資材の散布、水管理による登熟促進、適期刈取の実施。</li> </ul>
<p>会津 農業振興普及部</p>	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育苗期の高温や強風などの影響により、籾枯れ細菌病や苗立枯病などが管内全域で見られた。</li> <li>・表層はく離や藻の発生が目立っている。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点で、渇水の情報が入っていない。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水管理の徹底</li> <li>・出穂期追肥の実施判断</li> </ul>
<p>喜多方 農業普及所</p>	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移植時期や土壌還元等により生育のバラツキが大きい。</li> <li>・藻類や表層剥離の発生が多かった。 また、ヒエやコナギの生育が早く残草も多い</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在のところ影響はない。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水管理：出穂期の湛水管理、登熟期の飽水管理、落水時期等</li> <li>・追肥：生育診断に基づくつなぎ肥や実肥</li> <li>・斑点米カメムシ対策：出穂前の草刈や適期防除</li> </ul>

農林事務所 普及部・所	生育、病害虫発生状況等、今後の管理（高温対策）
会津坂下 農業普及所	<p><b>○高温・少雨の影響</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・草丈は平年より長く、茎数もやや多い状況であり、今後の生育状況により倒伏に注意が必要である。</li> <li>・ガス湧きや、表層剥離等で生育が抑制されているほ場もある。</li> </ul> <p><b>○渇水の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新宮川ダムの貯水率は平年を下回っているが、計画水位は上回っており、現段階では大きな問題はない。</li> </ul> <p><b>○今後の管理（高温対策等）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飽水管理の実施（水源の有効活用）</li> <li>・必要に応じた穂肥の実施（栄養凋落の防止）</li> <li>・斑点米カメムシの防除実施</li> </ul>
南会津 農業振興普及部	<p><b>○高温・少雨の影響</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高温、少雨の影響は特になし。</li> <li>・田植え盛期は5月24日（平年比＋1日）、終期は5月31日（平年比＋1日）となった。5月下旬に移植したほ場の生育は平年並みで、目立った病害等の発生は見られない</li> </ul> <p><b>○渇水の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul> <p><b>○今後の管理（高温対策等）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飽水管理の徹底。</li> </ul>
相双 農業振興普及部	<p><b>○高温・少雨の影響</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育苗期の靱枯れ細菌病、移植後の藻類・表層剥離の発生が多かった。</li> </ul> <p><b>○渇水の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p><b>○今後の管理（高温対策等）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飽水管理の実施</li> <li>・凋落防止のための追肥の実施</li> </ul>

農林事務所 普及部・所	生育、病虫害発生状況等、今後の管理（高温対策）
双葉 農業普及所	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ数年同様、最高気温で25℃を超えるような高温日が見られ、異常還元による根傷みや藻類の発生が多くのは場で見られる。一方で、最高気温が15℃～17℃程度の低温日も見られ、分けつ増加は、連続する高温日により旺盛だった近年と比較して緩慢である。</li> <li>・定期的な降雨があり、現時点で少雨の影響は見られない。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な降雨があり、現時点で渇水の影響は見られない。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・節水および高温対策として、分けつ確保後は基本的には飽水管理とする。</li> </ul>
いわき 農業振興普及部	<p>○高温・小雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登熟期間中の飽水管理や出穂期頃に葉色の低下が見られた場合には窒素追肥を指導する。</li> <li>・斑点米カメムシ類対策を指導する。</li> </ul>

## 2 畑作物（6月26日現在）

農林事務所 普及部・所	生育、病害虫発生状況等、今後の管理（高温対策）
<p>県北 農業振興普及部</p>	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大豆：播種は概ね終了。夏季の高温・小雨となった場合、落花、落莢や不稔莢の発生が懸念される。</li> <li>・そば：7月下旬より播種が開始される見込みである。</li> <li>・畑作物全般：高温となった場合、雑草の生育が旺盛になり、雑草防除がより難しくなることが懸念される。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大豆については高温・小雨への対策として畝間かん水を周知しているが、水稻との用水の競合が生じるために実施が難しい地区がある。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畝間かん水</li> </ul>
<p>伊達 農業普及所</p>	<p>○高温・少雨の影響</p> <p>（小麦）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼穂形成期や出穂期が早まった。出穂期に降雨がなく、赤かび病の発生は少なかった。収穫作業は6月中旬頃に終了した。</li> </ul> <p>（大豆）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月下旬に出芽を確認した。出芽は良好である。現時点では目立った病害虫の発生は見られていない。帰化アサガオ類の発生が目立っている。</li> <li>・開花期頃に高温・少雨になると、昨年同様、着莢数の減少、子実肥大不良が懸念される。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <p>（大豆）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・渇水の影響は見られない。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大豆：開花期以降の畝間かん水の実施。薬剤による病害虫防除の実施。</li> </ul>
<p>安達 農業普及所</p>	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・麦は高温の影響により、収穫適期が早まっている。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・麦は、適期収穫を指導する。</li> <li>・大豆は、晩播と狭畦播種の組合せや摘心、開花期前後の灌水等、各生産者の実施可能な技術を指導する。</li> </ul>

農林事務所 普及部・所	生育、病虫害発生状況等、今後の管理（高温対策）
県中 農業振興普及部	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大豆は、降雨の影響により播種が遅れている。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現時点では影響なし。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保水ポリマー資材の実証（大豆）</li> </ul>
須賀川 農業普及所	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大豆：播種は概ね終了し、苗立ちも良好であるが、開花期以降の花落ちや子実の肥大不良、吸実性カメムシによる被害が懸念される。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中耕培土の徹底、畦間灌水、虫害対策</li> </ul>
田村 農業普及所	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小麦、大豆では特に影響は見られていない。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特に影響は見られていない。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大豆の中耕培土、追肥、病虫害防除の適期実施を周知する。</li> </ul>
県南 農業振興普及部	<p>○高温・少雨の影響</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>小麦 収穫期。登熟は緩慢であった。赤かび病の発生が見られる。</li> <li>大麦 6月上旬から収穫開始。6割収穫終了。 雑草繁茂・倒伏により収穫を断念したほ場一部あり。</li> <li>大豆 播種時期は6月中旬。湿害等の影響は少なく、出芽は順調</li> </ol> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在のところ、渇水の影響はない。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大豆：少雨時は畦間かん水</li> </ul>

農林事務所 普及部・所	生育、病虫害発生状況等、今後の管理（高温対策）
会津 農業振興普及部	<p><b>○高温・少雨の影響</b></p> <p>&lt;麦類&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大麦・小麦の生育が1週間程度早まり、6月中旬に収穫が行われた。</li> </ul> <p>&lt;大豆&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・播種作業は平年並みに進み（6月4半旬で播種作業終了）、出芽も良好。</li> </ul> <p><b>○渇水の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点で、渇水の情報は入っていない。</li> </ul> <p><b>○今後の管理（高温対策等）</b></p> <p>&lt;大豆&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開花期以降のかん水</li> <li>・高温少雨時の暗渠の閉鎖</li> </ul>
喜多方 農業普及所	<p><b>○高温・少雨の影響</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大豆：6月中旬から播種作業が始まったが、出芽は良好。</li> <li>・夏ソバ：出芽・生育ともに良好。</li> </ul> <p><b>○渇水の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在のところ影響はない。</li> </ul> <p><b>○今後の管理（高温対策等）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大豆：開花期以降の畝間灌水</li> <li>・夏ソバ：適期播種・収穫</li> </ul>
会津坂下 農業普及所	<p><b>○高温・少雨の影響</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・麦類は、前年より成熟が10日程度早まっている（成熟期、大麦；6月10日頃～、小麦；6月20日頃～）。赤かび等の病虫害の発生はみられず、また、イタリアンライグラスが優先化（雑草化）した圃場を除いて、生育収量は概ね良好である。</li> <li>・大豆は、平年並みの6月上旬より播種が行われている。</li> </ul> <p><b>○渇水の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul> <p><b>○今後の管理（高温対策等）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・麦類；適期の刈り取り（梅雨時期の刈遅れ防止）</li> <li>・大豆；かん水可能なほ場では、積極的なかん水の実施</li> </ul>

農林事務所 普及部・所	生育、病虫害発生状況等、今後の管理（高温対策）
南会津 農業振興普及部	<p>○高温・少雨の影響 （大豆）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> <li>・播種は終了。出芽、初期生育とも良好。連作ほ場でアレチウリや帰化アサガオ類の発生が目立つ。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <p>【大豆】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水不足（乾燥）時の畝間かん水の実施。</li> </ul> <p>【そば】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・播種時期の移動による、高温時期の回避。</li> </ul>
相双 農業振興普及部	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大豆では開花期の畝間かん水の実施</li> </ul>
双葉 農業普及所	<p>○高温・少雨の影響</p> <p>【麦類】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水稻同様、高温の影響はここ数年間と比較して少ない。6月に入ってから気温は過去5年平均と比べて低く、子実の成熟および乾燥が緩慢である。</li> <li>・定期的な降雨があり、現時点で小雨の影響は見られない。今後も雨天が見込まれ、適期収穫の難航が予想される。</li> </ul> <p>【大豆】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6/中旬～6/下旬に播種予定であり、麦類と同様、作業の難航が予想される。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な降雨があり、現時点で渇水の影響は見られない。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・麦類：刈遅れにならないように収穫する。高温によって子実水分が急速に減少することは指導会にて生産者に伝達済み。</li> <li>・大豆：適期播種、適期防除を指導する。夏季に高温が想定される場合、水利が確保できるほ場では畝間湛水を指導する。</li> </ul>

農林事務所 普及部・所	生育、病害虫発生状況等、今後の管理（高温対策）
いわき 農業振興普及部	<p><b>○高温・小雨の影響</b></p> <p><b>【麦・そば】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p><b>【大豆】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月下旬の小雨の影響により、一部地域で播種を遅らせた生産者が見られた。</li> </ul> <p><b>○渇水の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul> <p><b>○今後の管理（高温対策等）</b></p> <p><b>【大豆】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・除草剤や中耕による雑草対策や発生予察情報を参考に病害虫対策を指導する。</li> <li>・畝間かん水や明渠への通水を指導する。</li> </ul>

### 3 野菜（6月26日現在）

農林事務所 普及部・所	生育、病害虫発生の状況等、今後の管理（高温対策）
<p>県北 農業振興普及部</p>	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きゅうり、ミニトマト、いちごのいずれも、現時点で、高温・少雨等の影響はみられない。</li> <li>・露地きゅうり：5月下旬及び6月上旬の苗配付時期に低温に遭い定植後の活着が遅れ、萎れた株が散見されたが、現在は回復している。現在19節程度。（6/19現在）</li> <li>・いちご：数は多くないが鱗翅目の幼虫が早くから出現している。収穫はほぼ終了し、現在は次作用の苗取りを実施中。ランナーは現在1株あたり16本ほど出ている。炭疽病防除を重点的に指導。</li> <li>・ミニトマト：生育は概ね順調。4月中旬定植苗は、7段花房が開花し、一部では収穫が始まっている。目立った病害虫の発生は見られない。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かん水、適期収穫、草勢維持（不良果の摘果、追肥・かん注の適期実施等）、遮光・遮熱資材の活用、害虫防除等</li> </ul>
<p>伊達 農業普及所</p>	<p>○高温・少雨の影響</p> <p>（きゅうり）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウス栽培（雨よけ）では、5月18,19日の高温により、一部で芯焼けや葉焼けが発生した。アブラムシ類が多く、特に露地栽培では、ウイルス病に起因する急性萎ちょう症の発生が懸念されている。</li> </ul> <p>（いちご）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親株のランナー数は現在30本前後、2～3番苗まで発生していて例年並の生育。高温による子苗の萎れや枯れ、ランナー先枯れの発生が散見される。また、定植期前後の高温により、花芽分化の遅れにつながる懸念がある。</li> </ul> <p>（ミニトマト）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウス内の高温により、花落ちをはじめ、日焼け果、着色不良果等の発生が懸念される。</li> </ul> <p>（アスパラガス）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウス内の高温により、曲がり、穂先の開き等の不良茎の発生が懸念されたが大きな問題とはなっていない。</li> <li>・少雨により害虫類の発生には注意が必要である（アザミウマ類、ハダニ類、アブラムシ類等）。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <p>（きゅうり、いちご、ミニトマト、アスパラガス）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・渇水の影響は見られない。</li> </ul>

農林事務所 普及部・所	生育、病害虫発生の状況等、今後の管理（高温対策）
伊達 農業普及所	<p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きゅうり：ハウス栽培においては、遮光・遮熱シート設置、白黒マルチによる地温上昇軽減、簡易ノズルによる細霧冷房装置の活用等。（きゅうり後作のシュンギクは、播種時期を調節し、高温の影響を低減する。）</li> <li>・いちご：育苗床における遮光・遮熱資材の活用、適期定植に向けた頂花房の花芽検鏡、耕種的防除や化学的防除による重要病害虫防除の徹底。</li> <li>・ミニトマト：妻窓、サイド換気の実施、施設天井への遮光シート（遮光率 30 %）の展張</li> <li>・アスパラガス：妻窓、サイド換気の実施、施設天井への塗布剤散布</li> </ul>
安達 農業普及所	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・果菜類全般において、アザミウマ類、アブラムシ類、カメムシ類等の発生が平年より多い。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高温時期のかん水・かん注を実施するよう指導する。</li> <li>・遮光・遮熱資材の設置や高温対策資材（葉面散布剤、バイオスティミュラント資材、吸水ポリマー等）の導入を指導する。</li> </ul>
県中 農業振興普及部	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トマトは、平坦部では第 6 花房開花・第 1 果房収穫開始、山間部では第 3 花房開花で、生育は順調。現時点では高温・小雨の影響なし。平坦部ではアザミウマ類、コナジラミ類の発生が見られる。</li> <li>・アスパラガスでは、施設栽培では夏芽収穫中、露地栽培では立茎中であり、生育は例年通り。アザミウマ類、アブラムシ類の発生が見られる。一部で茎枯病が発生している。</li> <li>・きゅうりでは、梅雨入り前、一時の高温の影響で、夏秋（雨よけ）栽培の一部ほ場で芯やけが見られたが、現在では、特に高温、少雨の影響はなし。 5月下旬～6月上旬の高温の影響で、夏秋（雨よけ）きゅうり等でアザミウマ類の発生ほ場が多い。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点では影響なし。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生育及び天候に応じた小まめなかん水（少量多回数）の実施</li> <li>・遮光資材の有効活用</li> </ul>

農林事務所 普及部・所	生育、病害虫発生状況等、今後の管理（高温対策）
須賀川 農業普及所	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月の高温・乾燥により施設きゅうりで一部葉やけが発生した。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月の高温・小雨により、露地きゅうり、露地なすの定植後の活着がやや遅れたが、現在は回復している。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設きゅうり、トマトについては、白黒ダブルマルチ、遮光・遮熱資材、外気導入、ミスト等による高温対策を行う。</li> <li>・露地きゅうり、なすについては灌水、カルシウム資材による高温対策を行う。</li> </ul>
田村 農業普及所	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月上旬～6月中旬ピーマンの尻腐れが散見された。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に影響は見られていない。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少量多回数かん水、高温障害対策としてカルシウム剤施用の推進を行う。</li> <li>・遮光遮熱資材や自動かん水装置導入の推進を行う。</li> </ul>
県南 農業振興普及部	<p>○高温・少雨の影響</p> <p>(1) トマト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黄化葉巻病耐病性品種の導入により、果実着色が緩慢。収穫開始期は平年より1週間程度遅い。</li> <li>・6月上旬から収穫本格化(4月定植:7～8段目、5月定植:4～5段目開花)</li> <li>・コナジラミ類の発生は例年より少ないが、黄化葉巻病の発生は例年より早く、6月中旬から徐々に増加している。</li> <li>・梅雨明け以降、高温が続くと、耐病性が打破され、黄化葉巻病の被害が急激に拡大する恐れがある。</li> </ul> <p>(2) キュウリ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・露地の定植は5月中旬～6月上旬。出荷は6月下旬から開始。生育は順調だが、べと病、アザミウマ類、ウリハムシ、ネコブセンチュウの発生が出始めている。</li> </ul> <p>(3) ブロッコリー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・春ブロッコリーは6月末まで出荷。一部空洞化が発生。</li> <li>・梅雨明け後、秋ブロッコリーの定植期に高温・乾燥が続くと活着、生育不良の被害拡大が懸念される。</li> </ul> <p>(4) イチゴ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親株のランナー鉢受作業は、6月中旬から開始。</li> </ul>

農林事務所 普及部・所	生育、病虫害発生状況等、今後の管理（高温対策）
<p>県南 農業振興普及部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生育は概ね順調だが、一部ほ場で炭疽病が少発している。「ふくはる香」、「ゆうやけベリー」で発生が多い傾向。</li> <li>・うどんこ病は「ふくはる香」、「紅ほっぺ」で中発。</li> </ul> <p>○<b>渇水の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、渇水の影響は見られてないが、梅雨明け以降、かん水量が増加するため、用水の確保は重要。</li> </ul> <p>○<b>今後の管理（高温対策等）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トマト、キュウリ：かん水、追肥、遮光、換気、病虫害防除の徹底。</li> <li>・ブロッコリー：定植時期を遅らせる。定植後の灌水、保水資材の活用</li> <li>・イチゴ：育苗中の病虫害防除（特に炭疽病防除）の徹底。</li> </ul>
<p>会津 農業振興普及部</p>	<p>○<b>高温・少雨の影響</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定植時期における高温の影響により、一部のハウス栽培において葉焼けが発生した（ばんだイトマト）。</li> </ul> <p>○<b>渇水の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点で、渇水の情報は入っていない。</li> </ul> <p>○<b>今後の管理（高温対策等）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な灌水の実施</li> <li>・遮光・遮熱資材の使用</li> </ul>
<p>喜多方 農業普及所</p>	<p>○<b>高温・少雨の影響</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アスパラガス：半促成栽培で夏芽の収穫中、露地栽培で立茎中。病虫害はアザミウマ類の発生が平年より多い。</li> <li>・きゅうり：高温の影響で葉焼けが発生している。小雨による影響で乾燥気味のは場が多く、一部ほ場でうどんこ病が見られた。</li> <li>・ミニトマト：4月上旬定植で9～10段開花、1～3段目収穫中で生育は平年並。アザミウマ類の発生が一部で見られる。</li> </ul> <p>○<b>渇水の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在のところ影響はない。</li> </ul> <p>○<b>今後の管理（高温対策等）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かん水：こまめなかん水</li> <li>・草勢維持：不良果の摘果や追肥、葉面散布による草勢維持</li> <li>・遮光等：遮光・遮熱資材の設置、ハウス換気</li> <li>・病虫害防除：発生状況に応じた適期防除</li> </ul>

農林事務所 普及部・所	生育、病虫害発生状況等、今後の管理（高温対策）
会津坂下 農業普及所	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きゅうりは、生育・出荷量ともに概ね平年並。平年より病害は少ないが、べと病、うどんこ病が一部で発生。害虫の発生は平年より早まっており、アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類、ウリノメイガが、定植初期から見られる。</li> <li>・トマトは、生育は概ね平年並みで、6月下旬より出荷開始。高温により多くのは場で葉焼けが見られ、セル苗定植したところでは定植直後に葉焼けが発生し生育が遅れが見られた。目立った病害はなく、アザミウマ類、オオタバコガの発生が見られる。</li> <li>・さやいんげんは、平年並～数日程度生育が早まっている。目立った病害の発生はなく、害虫は定植直後からハダニ類、アブラムシ類の発生が目立つ。</li> <li>・アスパラガスは、概ね平年並の生育で、春芽の出荷量も平年並。6月上旬より夏芽の出荷が開始された。高温乾燥のため茎枯病等の病害は平年より見られず、害虫ではアザミウマ類、ハダニ類が早くから見られる。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かん設備が整っていないところでは、水分不足による葉焼け・樹勢低下等が見られる</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遮光資材等を利用した高温対策の実施</li> <li>・こまめなかん水の実施</li> </ul>
南会津 農業振興普及部	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高温、少雨の影響は特になし。</li> </ul> <p>【トマト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定植が早いほ場で4段目が開花している。出荷開始は7月5日頃の見込み（平年比－3）。生育は平年並みか少し早まっている。</li> <li>・一部ほ場でかいよう病、アブラムシ類の発生が見られる。</li> </ul> <p>【アスパラガス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウス栽培は、夏芽の収穫が始まった（ほぼ平年並み）。</li> <li>・露地栽培は立茎中。</li> <li>・ハウス栽培でアザミウマ類、ハダニ類、斑点病が見られる。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遮光、遮熱資材・塗布剤の使用。</li> </ul>

農林事務所 普及部・所	生育、病虫害発生状況等、今後の管理（高温対策）
相双 農業振興普及部	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・果菜類では、少量多回数のかん水、遮光・遮熱資材の活用やミスト散布、不良果の摘果、葉面散布等による草勢維持</li> <li>・ブロッコリーやネギ等の露地野菜では必要に応じてかん水実施を誘導</li> </ul>
双葉 農業普及所	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タマネギ：生育は順調である。春先の高温の影響により、アザミウマ類が発生しているが生育への影響は少ない。</li> <li>・カンショ：生育は平年並みで順調に生育している。5/中旬～イモキバガの発生が確認されているが、高温による生育への影響はみられない。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いちご：遮熱剤の塗布・ヒートポンプの利用・ミスト噴霧</li> <li>・トマト：ミスト噴霧、裂果しにくい品種への変更</li> <li>・ピーマン：白色寒冷紗によるハウス被覆</li> </ul>
いわき 農業振興普及部	<p>○高温・小雨の影響</p> <p>【いちご】【トマト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>【ねぎ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・播種後の高温多湿の影響により、一部生産者において発芽不良が見られた。また、育苗期においても苗焼けの症状が一部で発生した。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <p>【いちご】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遮光資材の活用や、換気・通風の徹底を指導する。</li> </ul> <p>【ねぎ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高温期の土寄せ作業を避けることや、病虫害の早期防除を徹底するため、作業スケジュールについて指導する。</li> </ul> <p>【トマト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜かん水や被覆資材へ遮熱剤の塗布を提案する。</li> </ul>

#### 4 果樹（6月26日現在）

農林事務所 普及部・所	生育、病虫害発生状況等、今後の管理（高温対策）
<p>県北 農業振興普及部</p>	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もも・なしでは、4月2半旬から5月4半旬までの少雨で新梢の伸びが抑えられている。</li> <li>・もも：「あかつき」の果実肥大は平年より大きく推移している。硬核期間中の降雨の影響等により、変形果、核障害が増えてきている状況である。早生品種「はつひめ」の収穫は昨年より早い。</li> <li>・なし：「幸水」の果実肥大は満開日数比較でやや小さく推移している。ナシ黒星病の発生は収まっているものの、今後は、雨天日の日数が多くなると見込まれ、生育後半の発生がやや懸念される。</li> <li>・りんご：花芽分化率が低く、最終着果量が少なくなる園地が見られる。そのため、長果枝にも着果させ、樹勢の維持を行っている。青実果等の発生が多く見られているが、病虫害の発生は少ない傾向で推移している。</li> <li>・ぶどう：「巨峰」等はジベレリン処理が適期に行われたが、「シャインマスカット」等の開花が遅い品種では、開花期に低温になったため、生育遅延が見られ、ジベレリン処理が遅れ、花振るいしている園地が散見される。また、強風等の影響により、果実のスレ傷等が発生している。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乾燥が続く場合はかん水を行う。</li> </ul>
<p>伊達 農業普及所</p>	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・春季の高温により、「もも」で生育が平年よりも6～8日程度早まり、作業の遅延が多く見られる。</li> <li>・「りんご」では、結実不良の園地が散見される。昨年7月の高温が花芽分化に影響した可能性がある。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・渇水の影響は見られない。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌の乾燥防止（かん水、稲わらマルチ、草刈り）</li> <li>・適期収穫の実施</li> <li>・病虫害防除の徹底（カメムシ類第1世代、モモハモグリガ、ナシヒメシンクイ）</li> </ul>
<p>安達 農業普及所</p>	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウスブドウの開花状況にばらつきが大きく、早い園地では5月中旬に開花したところがある。</li> <li>・ナシ、リンゴの果実の肥大には今のところ影響は出ていない。</li> </ul>

農林事務所 普及部・所	生育、病虫害発生状況等、今後の管理（高温対策）
安達 農業普及所	<p>○<b>渇水の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・露地栽培ではほ場近くに水源がない園地が多く、元々かん水を実施していない生産者も多い。</li> </ul> <p>○<b>今後の管理（高温対策等）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高温乾燥が続く場合はかん水を実施する。</li> <li>・ハウスブドウにおいては換気を行う。</li> </ul>
県中 農業振興普及部	<p>○<b>高温・少雨の影響</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本ナシ、ブドウともに平年より1週間程度生育が早い。着果数・着房数は確保できている。肥大状況は満開後日数で平年並。現時点では高温の影響なし。</li> </ul> <p>○<b>渇水の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点では影響なし</li> </ul> <p>○<b>今後の管理（高温対策等）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かん水、適期収穫徹底（樹種共通）</li> <li>・ナシ「豊水」のみつ症軽減を目的とした、カルシウム資材の葉面散布の実施（今年度から防除暦に掲載）</li> </ul>
須賀川 農業普及所	<p>○<b>高温・少雨の影響</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月の高温・小雨により結実が多かったニホンナシを中心に、やや肥大に遅れが見られたものの、現在は解消している。</li> </ul> <p>○<b>渇水の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>○<b>今後の管理（高温対策等）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かん水が可能なほ場ではかん水、かん水が難しいほ場では草刈り、早めの摘果作業を実施する。</li> <li>・日焼けの可能性を考慮し、着果位置を調節する。</li> </ul>

農林事務所 普及部・所	生育、病虫害発生状況等、今後の管理（高温対策）
田村 農業普及所	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>りんごは暦日比較で平年よりやや大きい。ただし、果台枝新梢は6月1日の時点でほぼ100%停止しており、平年と比較し葉数は少ない傾向にある。今後、梅雨期間中の降雨により二次伸張すると思われる。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>りんごは、梅雨期前までは、乾燥状態が続いていたが、現在は回復傾向にある。</li> <li>ハウスぶどうは、気候に関わらずかん水しており影響はない。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>りんごは、梅雨期以降、SSを使用し園内へのかん水を啓発する。</li> <li>ぶどうは、大型のカサをかけることを啓発する。</li> </ul>
県南 農業振興普及部	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ナシ、モモ、リンゴともに開花が平年より早く、暦日比較の場合、果実肥大は平年より進んでいる。(満開後日数比較は平年並み。)</li> <li>カメムシ類(特にチャバネカメムシ)の発生が多く、5月中旬以降、食害の被害が見られる。</li> <li>ナシは、黒星病の発生が見られるが、多発はしていない。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>断続的に降雨があり、土壌水分も適度にある状況。</li> <li>梅雨明け以降、高温・乾燥が続くと、用水を確保できない場合は、灌水不足の恐れがある。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かん水、病虫害防除の徹底</li> </ul>
会津 農業振興普及部	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高温の影響により、1週間～10日程度生育が早まっている。</li> <li>カキ「会津身不知」のごく一部で葉焼けに似た症状がみられている。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現時点で、渇水の情報は入っていない。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かん水、草刈り</li> <li>傘かけ、袋かけ（ぶどう）、ハウスぶどうの場合はハウスの換気</li> <li>新梢管理（カキ）</li> </ul>

農林事務所 普及部・所	生育、病虫害発生状況等、今後の管理（高温対策）
喜多方 農業普及所	<p><b>○高温・少雨の影響</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・春先から気温が高く推移したことで生育が1週間程度早まっているが、大きな影響は出ていない。</li> </ul> <p><b>○渇水の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在のところ影響はない。</li> </ul> <p><b>○今後の管理（高温対策等）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かん水：土壌乾燥時のかん水</li> <li>・草刈り：5～7cm程度の草丈を目安にした適切な草生管理</li> <li>・病虫害防除：高温時の葉焼け等薬害防止の為、早朝等の防除実施</li> </ul>
会津坂下 農業普及所	<p><b>○高温・少雨の影響</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リンゴでは、満開日が平年より12日早まっている。目立った病虫害の発生はみられていない。生育が早まっているため摘果作業が遅れている園地が散見される。</li> <li>・カキでは、満開日が平年より11日早まっている。目立った病虫害の発生はみられていない。</li> </ul> <p><b>○渇水の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul> <p><b>○今後の管理（高温対策等）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・草生管理やかん水の実施</li> </ul>
南会津 農業振興普及部	<p><b>○高温・少雨の影響</b> (リンゴ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高温、少雨の影響は特になし。</li> <li>・リンゴの果実肥大は良好であるが、一部で霜によるさび果発生。</li> </ul> <p><b>○渇水の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul> <p><b>○今後の管理（高温対策等）</b> (リンゴ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乾燥状態が続く場合は、かん水を指導する。</li> <li>・夏期せん定、着色管理等については、状況に応じ指導する。</li> <li>・ハダニ類の発生について確認し、適期防除について指導する。</li> </ul>

農林事務所 普及部・所	生育、病虫害発生状況等、今後の管理（高温対策）
相双 農業振興普及部	<p>○高温・少雨の影響 （日本なし）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期肥大がやや小さい傾向にあったが、5月下旬以降は十分な降雨があり、平年並～大きくなっている。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高温・乾燥時におけるかん水や新梢管理の徹底</li> <li>・早期収穫による日焼け果・過熟果の発生抑制</li> <li>・病虫害の発生状況や予察に基づいた適期防除</li> </ul>
双葉 農業普及所	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生育が平年よりも数日前進しており、害虫の発生が散見されるが、今のところ高温による影響はほとんどない。</li> <li>・定期的に降雨があるため、小雨の影響はほとんどない。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な降雨があり、現時点で渇水の影響は見られない。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウスブドウ：寒冷紗・遮光幕や循環扇の設置、ハウス内の換気など</li> </ul>
いわき 農業振興普及部	<p>○高温・小雨の影響 【日本なし】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開花期の高温により、条溝果が散見される。</li> </ul> <p>○渇水の状況 【日本なし】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等） 【日本なし】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月から日焼け防止資材として果面を保護するカルシウム剤の散布を実施するよう指導する。</li> <li>・株元への稲わらマルチにより、乾燥防止対策に努める。</li> <li>・条溝果への対策は、仕上げ摘果や修正摘果の中で積極的に間引くように指導する。</li> </ul>

## 5 花き（6月26日現在）

農林事務所 普及部・所	生育、病虫害発生状況等、今後の管理（高温対策）
<p>県北 農業振興普及部</p>	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コギク：8月咲き品種は、定植期以降の降水量が前年よりもやや少なく、生育はやや停滞気味となっている。9月咲き品種は、前年よりもやや草丈が短い。</li> <li>・アザミウマ類、アブラムシ類の発生が見られている。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かん水、適期管理、草勢維持、害虫防除等、涼しい時間帯の防除と収穫</li> </ul>
<p>伊達 農業普及所</p>	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（きく）秋植え作型（6月出荷）で開花が10日程度早まった。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（きく）かん水設備のないほ場で生育の遅れが見られる。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シクラメン等の鉢花においては、遮光資材の活用</li> </ul>
<p>安達 農業普及所</p>	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アザミウマ類の発生が平年より多い。</li> <li>・コギクの一部の品種が平年より開花がやや早まる見込み。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者は降雨が少ない時期において、各自畝間かん水や散水等を実施している。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高温時期における適期かん水を指導する。</li> <li>・高温対策資材（葉面散布材等）の導入や遮光・遮熱資材の設置を指導する。</li> </ul>

農林事務所 普及部・所	生育、病虫害発生状況等、今後の管理（高温対策）
<p>県中 農業振興普及部</p>	<p>○高温・少雨の影響 （トルコギキョウ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月下旬の急な高温により、チップバーンが発生しているほ場が昨年より多く散見されたが、現時点では発生は少なくなっている。</li> <li>・アザミウマ発生ほ場が多い（5月下旬～6月上旬の高温の影響か）。</li> <li>・ハウスのため小雨の影響はなし。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点では影響なし</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遮光・遮熱資材等の利用によりハウス内の気温低下を図る（品目共通）</li> <li>・ロゼットした株についてはジベレリン処理による生育促進を図る（トルコギキョウ）</li> <li>・ピンチを実施し、開花時期の調整を図る（トルコギキョウ）</li> </ul>
<p>須賀川 農業普及所</p>	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月の高温の影響によりコギクにはアザミウマ類による生長点のケロイド症状や葉裏のかすり傷がみられた。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・虫害対策</li> <li>・高温、乾燥時における灌水</li> </ul>
<p>田村 農業普及所</p>	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キク類は5月中下旬定植の9月出しで下葉焼けが多発したが、現在の生育は概ね良好である。</li> <li>・りんどうでは、萌芽や生育のバラつき（4月）、葉先枯れの発生（4～5月）、一部ほ場でハダニ類やリンドウホソハマキの発生前進（5月上中旬）がみられた。現在は害虫の発生は抑えられ、生育も概ね順調である。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に影響はない。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病虫害防除対策、カルシウム剤散布、かん水の徹底を周知する。</li> </ul>

農林事務所 普及部・所	生育、病虫害発生状況等、今後の管理（高温対策）
<p>県南 農業振興普及部</p>	<p>○高温・少雨の影響</p> <p>(1) ダリア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・露地の定植は6月上旬完了。4月～5月定植株の生育は、例年より7日程度早い。概ね順調。(3月定植(施設)：二番花収穫中、4月定植(露地)：一番花収穫、5月定植(露地)：一番花発雷)</li> <li>・オオタバコガ、アザミウマ類、ハムシ類は小発生。</li> </ul> <p>(2) シクラメン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五寸、六寸ともに定植は6月末に完了。順次鉢上げ。</li> <li>・病虫害の発生は少ない。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、渇水の影響は見られない。</li> <li>・梅雨明け以降、高温・乾燥が続くとダリア(露地)への生育に影響が出る恐れあり。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かん水、草勢管理、病虫害防除の徹底</li> </ul>
<p>会津 農業振興普及部</p>	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高温の影響により、冬越しのトルコギキョウ及び宿根カスミソウで生育が前進している</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点で、渇水の情報が入っていない。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遮光・遮熱資材の使用</li> <li>・循環扇や目の粗い防虫ネットの使用による換気の改善</li> </ul>
<p>喜多方 農業普及所</p>	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トルコギキョウ：無加温半促成の出荷は6/1から始まり、例年よりやや遅い出荷となっている。</li> <li>・その他花き：高温・少雨による影響はでていない。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在のところ影響はない。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かん水：こまめなかん水</li> <li>・草勢維持：葉面散布による草勢の維持</li> <li>・遮光等：遮光シート等の被覆、ハウスの換気</li> <li>・病虫害防除：発生状況に応じた適期防除</li> </ul>

農林事務所 普及部・所	生育、病害虫発生状況等、今後の管理（高温対策）
会津坂下 農業普及所	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・露地ギクの8月咲き5月小雨の影響で平年に比べ草丈が短い。</li> <li>・宿根カスミソウは、平年より10日程早い開花となっている。</li> <li>・アザミウマ類、ハモグリバエ類は5月上旬頃から発生している。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・露地ギクでは、積極的な畝間かん水の実施</li> <li>・宿根カスミソウでは、積極的なかん水の実施を基本に、遮光・遮熱資材の設置や目合いが広い防虫ネットへの転換等の実施</li> </ul>
南会津 農業振興普及部	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高温、少雨の影響は特になし。</li> </ul> <p>【リンドウ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生育は順調であり、平年並みとなっている。極早生品種は6月12日より出荷開始、前年より1週間ほど早い。</li> <li>・一部ほ場で葉枯病、リンドウホソハマキ、アザミウマの発生が見られる。</li> </ul> <p>【宿根カスミソウ】・東部地区</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・越冬株は6月5日より出荷開始。</li> <li>・新植株の生育は順調に進んでいる。</li> <li>・越冬株ほ場を中心にハスモンヨトウ、ハモグリバエ、ハダニ類、アザミウマ類の発生が見られる。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <p>【リンドウ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遮光幕設置の実証ほを設けるとともに、畝間かん水を指導する。</li> </ul> <p>【宿根カスミソウ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遮光幕の導入推進、高温に強い品種の導入推進を行う。</li> </ul>

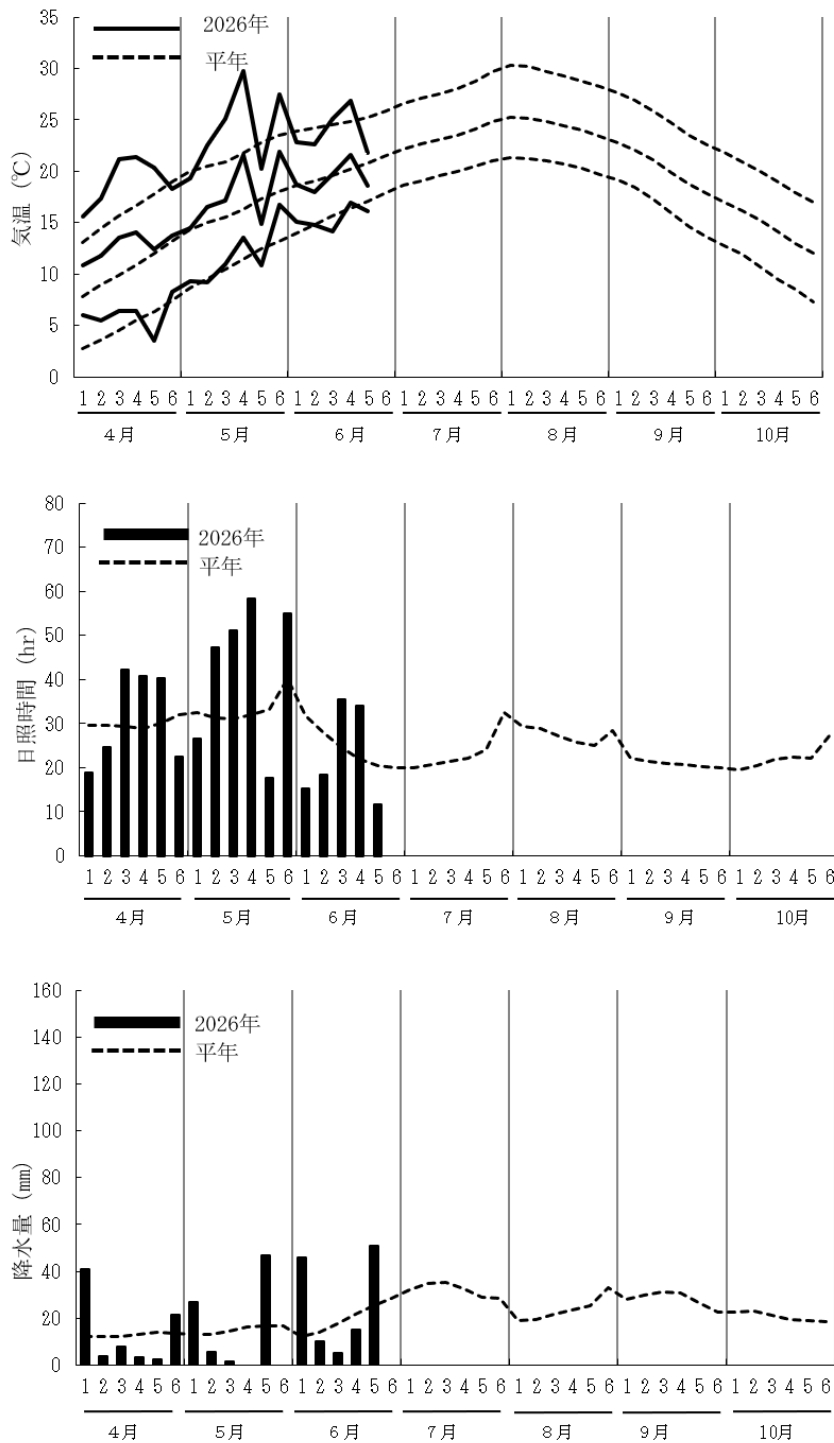
農林事務所 普及部・所	生育、病害虫発生状況等、今後の管理（高温対策）
相双 農業振興普及部	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コギクにおいてアブラムシ類やアザミウマ類の発生が多い。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遮光、遮熱資材の活用</li> <li>・循環扇等を活用した換気の実施</li> <li>・ミストかん水装置等を活用した気化冷却</li> </ul>
双葉 農業普及所	<p>○高温・少雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トルコギキョウ：春先に高温となったことから、アザミウマ類の発生が目立つが、高温による生育への影響はほとんどみられていない。</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トルコギキョウ：遮光・遮熱資材、循環扇の設置、高温条件ではほ場が乾燥しやすいため、気象条件に応じた灌水管理の実施。</li> </ul>
いわき 農業振興普及部	<p>○高温・小雨の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>○渇水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>○今後の管理（高温対策等）</p> <p>【リンドウ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遮光資材の活用、配布した防除暦をもとに病害虫防除を指導する。</li> </ul> <p>【トルコギキョウ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウスへの遮熱資材被覆、換気、循環扇の設置を促す。</li> </ul>

令和8年度の気象経過、水稻生育状況及び今後の高温対策について

令和8年7月8日  
 福島県農業振興課  
 農業総合センター  
 作物園芸部稲作科

1 気象の経過

(1) 郡山市の気象経過



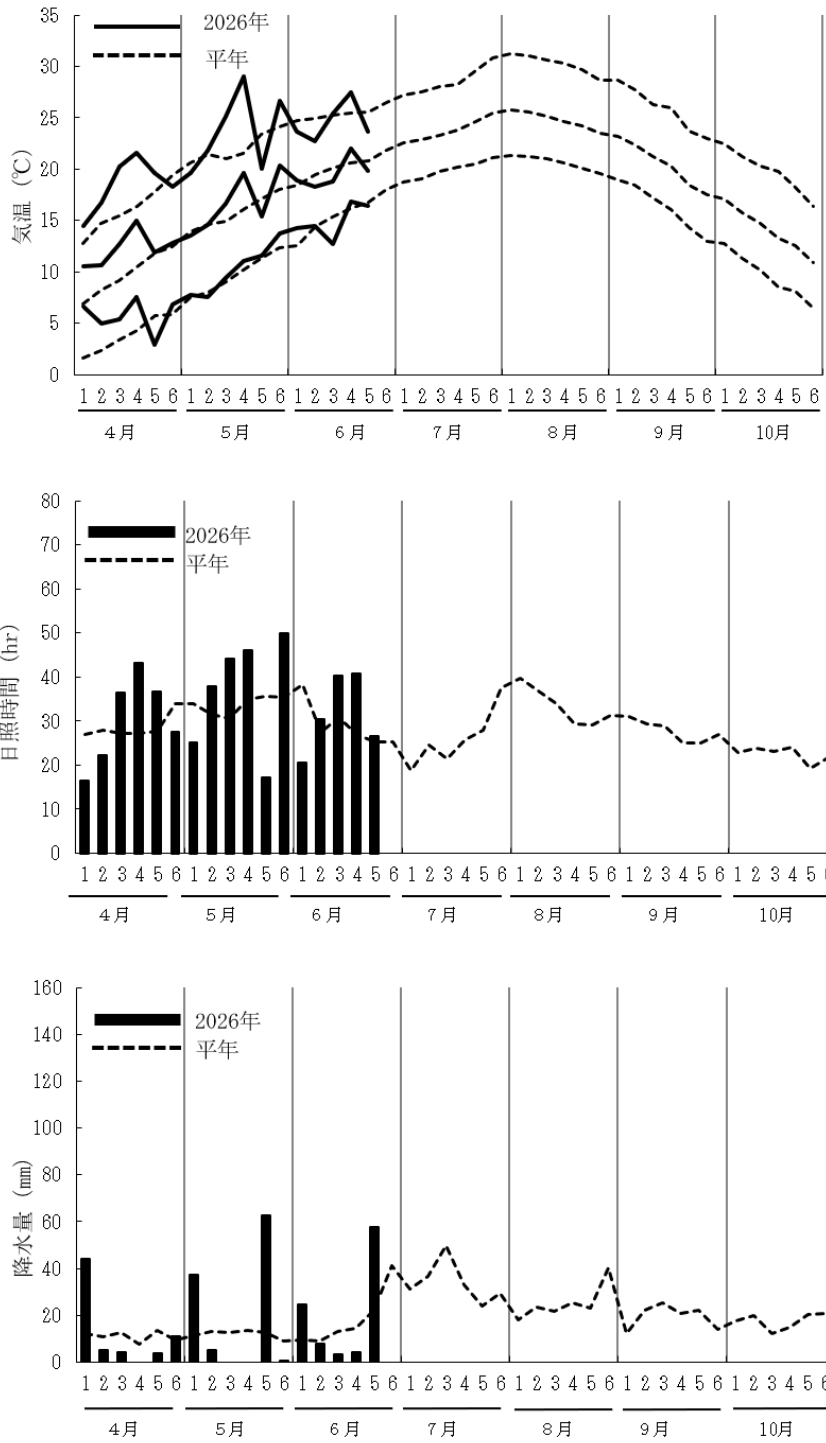
4月：気温について、1～4半旬は平年より高かった。

5月：気温について、1～4半旬及び6半旬は平年並～高く、5半旬は低かった。5半旬の日照時間が平年より短く、降水量が多かった。

6月：気温について、4半旬を除き概ね平年並～低かった。5半旬の降水量が平年より多かった。

図1 気象図（アメダス郡山）（平年値：1991～2020年の観測値から算出）

(2) 会津坂下町の気象経過



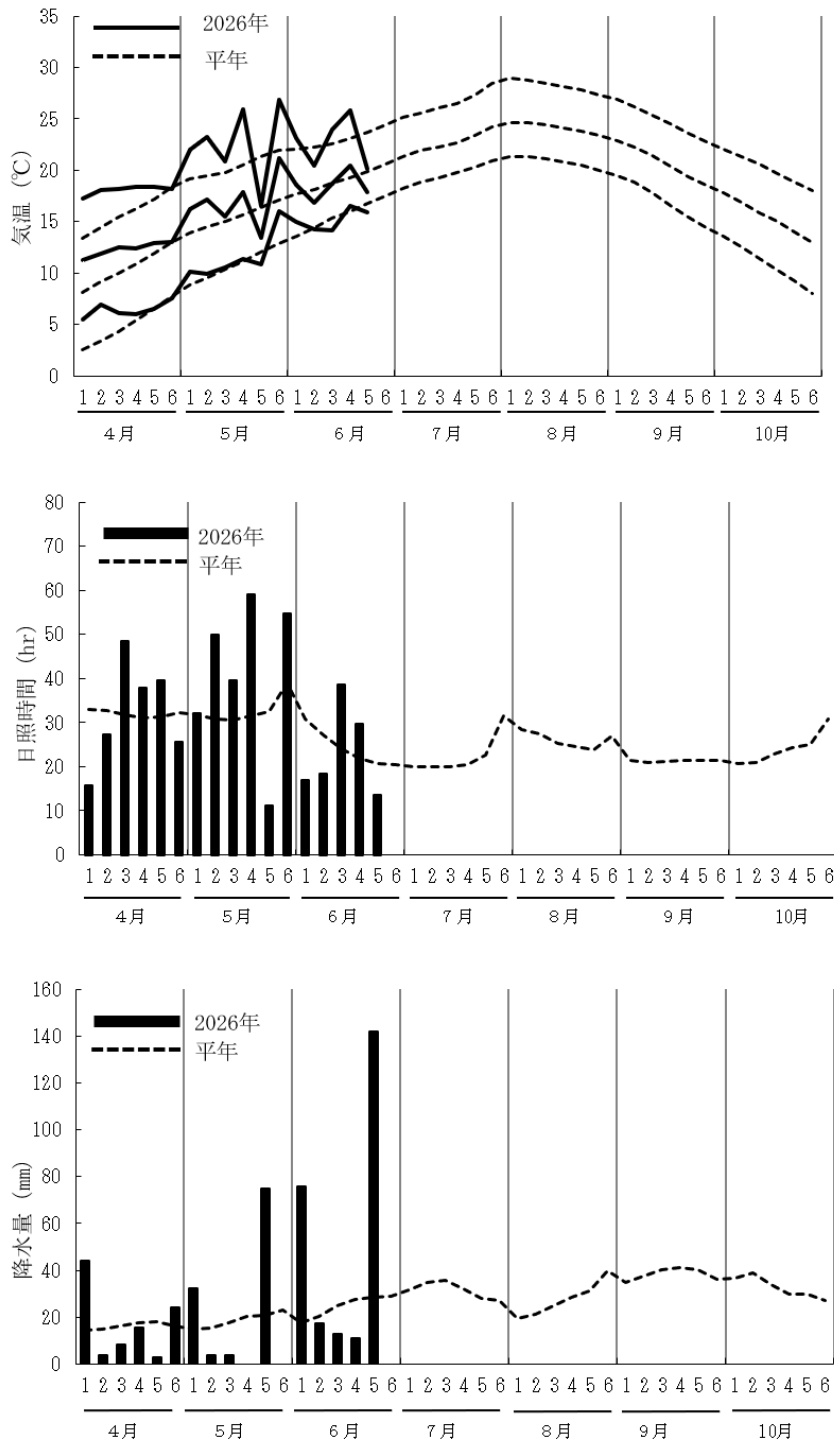
4月：気温について、1～4半旬は平年より高かった。

5月：気温について、3、4、6半旬は平年より高く、5半旬は低かった。5半旬を除き、日射量が平年より多く、降水量が少なかった。

6月：気温について、4半旬を除き概ね平年並～低かった。5半旬の降水量が平年より多かった。

図2 気象図（会津地域研究所）  
 （気温及び降水量の平年値：1991～2020年の観測値から算出、  
 日照時間の平年値：2006～2020年の観測値から算出）

### (3) 相馬市の気象経過



4月：気温について、1～5半旬は平年より高かった。

5月：気温について、1～4半旬及び6半旬は平年並～高く、5半旬は低かった。5半旬の日照時間が平年より短く、降水量が多かった。

6月：気温について、4半旬を除き概ね平年並～低かった。5半旬の降水量が平年より多かった。

図3 気象図（アメダス相馬）（平年値：1991～2020年の観測値から算出）

## 2 水稻の生育状況

### (1) 苗の生育と活着

苗の草丈は福笑いを除き平年並～長く、葉齢は平年差が-0.2～0.1 葉であった。天のつぶを除き、苗の乾物重は重く、充実度は高かった。移植 10 日後の発根量について、コシヒカリでは平年より少なく、他の品種では平年並～多くなった（表 1）。

表 1 苗の生育と発根状況（令和 8 年度 農総セ本部、5/15 移植）

品種	年次	苗の生育（4/24播種）				発根量（10日後）			
		草丈a (cm)	葉齢 (葉)	乾物重b (g/100本)	充実度(b/a) (mg/cm・本)	発根数c (本)	最長根長d (cm)	小根数 (本)	発根量 c*d
ひとめぼれ	本年	12.1	2.5	1.55	1.28	8.2	7.7	0.4	63.1
	前年	11.6	3.0	1.42	1.22	10.7	7.7	0.7	82.4
	平年	11.6	2.7	1.42	1.22	9.2	6.8	0.7	63.6
	平年比・差	104	-0.2	109	0.06	89	113	-0.3	-0.5
天のつぶ	本年	12.1	2.3	1.50	1.24	9.1	7.3	0.5	66.4
	前年	10.9	2.5	1.46	1.34	9.1	6.6	0.5	60.1
	平年	11.4	2.4	1.54	1.35	8.2	7.4	0.7	59.1
	平年比・差	106	-0.1	97	-0.11	111	99	-0.2	7.3
コシヒカリ	本年	12.3	2.6	1.50	1.22	5.6	6.5	0.2	36.4
	前年	11.8	2.8	1.50	1.27	6.9	7.0	0.7	48.3
	平年	12.5	2.5	1.43	1.14	6.7	6.5	0.7	44.4
	平年比・差	98	0.1	105	0.08	84	100	-0.5	-8.0
福笑い	本年	11.5	2.7	1.47	1.28	6.6	8.8	0.5	58.1
	前年	11.5	3.0	1.30	1.13	6.2	5.9	0.7	36.6
	平年	12.1	2.7	1.43	1.18	6.3	6.2	0.5	40.6
	平年比・差	95	0.0	103	0.10	105	142	0.0	17.5

注) 平年はR3～R7の平均値。

### (2) 生育状況

6/23 時点の草丈は平年より短く、茎数はセンター本部及び会津地域研究所において平年並～多く、浜地域研究所において平年並～少なかった。6/23 時点の葉齢は本部において平年並～0.2 葉進んでおり、会津・浜において 0.2～0.8 葉遅れていた。6/23 時点の葉色は本部・浜において平年並～濃く、会津において平年並～淡かった（表 2、3、4）。

本部の 8、9 葉目の主幹出葉日はひとめぼれを除き 1～2 日平年より早かった（表 5）。

本部のコシヒカリでは、葉齢から見た茎数は平年より多く、葉色は濃く推移している（図 4）。

表 2 生育経過（令和 8 年度 農総セ本部、5/15 移植）

品種	年次	6/16				6/23			
		草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉齢 (葉)	葉色 (SPAD)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉齢 (葉)	葉色 (SPAD)
ひとめぼれ	本年	27.8	393	7.4	39.2	37.1	601	8.6	46.0
	前年	31.5	460	7.8	44.7	45.4	651	9.0	40.9
	平年	30.3	460	7.6	42.3	40.0	615	8.7	41.4
	平年比・差	92	85	-0.2	-3.1	93	98	-0.1	4.6
天のつぶ	本年	29.9	387	7.4	38.3	39.1	551	8.5	46.3
	前年	33.7	418	7.3	41.7	48.8	586	8.6	40.8
	平年	33.6	385	7.2	41.0	43.7	523	8.3	41.6
	平年比・差	89	101	0.2	-2.7	89	105	0.2	4.7
コシヒカリ	本年	29.1	462	7.6	36.8	40.1	645	8.9	44.1
	前年	32.0	419	7.8	41.8	46.1	592	9.2	39.5
	平年	31.8	414	7.6	39.1	41.6	576	8.7	39.1
	平年比・差	92	112	0.0	-2.3	96	112	0.2	5.0
福笑い	本年	28.0	385	7.6	41.6	38.4	580	8.9	46.6
	前年	31.0	428	7.8	44.0	44.1	578	9.2	40.1
	平年	29.3	417	7.6	41.2	38.9	558	8.8	40.1
	平年比・差	96	92	0.0	0.4	99	104	0.1	6.5

注) 草丈と茎数は平年比（%）、葉数と葉色は平年差。平年はR3～R7の平均値。

表3 会津地域研究所の生育 (5/20 移植)

品種	年次	6/23			
		草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉齢 (葉)	葉色 (SPAD)
ひとめぼれ	本年	41.3	778	8.6	44.2
	前年	46.7	719	9.0	43.6
	平年	42.9	656	9.2	43.6
平年比・差		96	119	-0.6	0.6
天のつぶ	本年	42.1	695	8.5	44.1
	前年	50.6	687	8.9	44.4
	平年	46.0	588	8.8	44.1
平年比・差		92	118	-0.3	0.0
コシヒカリ	本年	42.0	718	8.5	41.7
	前年	50.9	760	9.4	39.3
	平年	46.0	670	9.3	41.0
平年比・差		91	107	-0.8	0.7
福笑い	本年	38.8	691	8.5	41.5
	前年	44.1	690	9.4	40.2
	平年	41.8	621	9.3	42.7
平年比・差		93	111	-0.8	-1.2

注) 会津コシヒカリの平年はR4データが欠測のため、R3, 5, 6, 7の4か年の平均値。

表4 浜地域研究所の生育 (5/11 移植)

品種	年次	6/23			
		草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉齢 (葉)	葉色 (SPAD)
ひとめぼれ	本年	42.7	768	9.1	45.8
	前年	55.4	783	9.3	43.6
	平年	50.1	797	9.3	44.6
平年比・差		85	96	-0.2	1.2
天のつぶ	本年	42.9	657	8.5	46.2
	前年	58.9	716	8.8	46.0
	平年	52.2	666	8.8	45.3
平年比・差		82	99	-0.3	0.9
コシヒカリ	本年	43.7	703	9.0	43.9
	前年	55.8	798	9.5	40.9
	平年	50.5	743	9.2	41.6
平年比・差		87	95	-0.2	2.3
福笑い	本年	42.1	657	8.9	43.7
	前年	55.0	718	9.4	41.7
	平年	48.6	706	9.2	42.3
平年比・差		87	93	-0.3	1.4

表5 主幹出葉日と生育ステージ (令和8年度 農総セ本部、5/15 移植)

品種	年次	主幹出葉日											幼穂形成始期	出穂期	成熟期		
		4L	5L	6L	7L	8L	9L	10L	11L	12L	13L						
ひとめぼれ	本年	5/20	5/27	5/31	6/07	6/14	6/20										
	前年	5/17	5/24	6/01	6/08	6/13	6/18	6/24	7/02	7/11							
	平年	5/20	5/27	6/03	6/09	6/14	6/20	6/26	7/05	7/15							
平年差		0	0	-3	-2	0	0										
天のつぶ	本年	5/21	5/27	5/31	6/09	6/15	6/20										
	前年	5/21	5/27	6/03	6/10	6/15	6/20	6/27	7/07	7/16							
	平年	5/21	5/28	6/04	6/11	6/16	6/22	6/30	7/10	7/18							
平年差		0	-1	-4	-2	-1	-2										
コシヒカリ	本年	5/18	5/26	5/30	6/06	6/14	6/19										
	前年	5/18	5/25	6/02	6/08	6/13	6/18	6/23	7/01	7/10							
	平年	5/20	5/27	6/04	6/10	6/15	6/20	6/26	7/05	7/15							
平年差		-2	-1	-5	-4	-1	-1										
福笑い	本年	5/20	5/27	5/31	6/08	6/14	6/19										
	前年	5/18	5/24	5/31	6/08	6/13	6/18	6/23	6/29	7/08	07/17						
	平年	5/20	5/27	6/03	6/09	6/15	6/20	6/26	7/04	7/13	07/22						
平年差		0	0	-3	-1	-1	-1										

注) 平年はR3~R7の平均値。

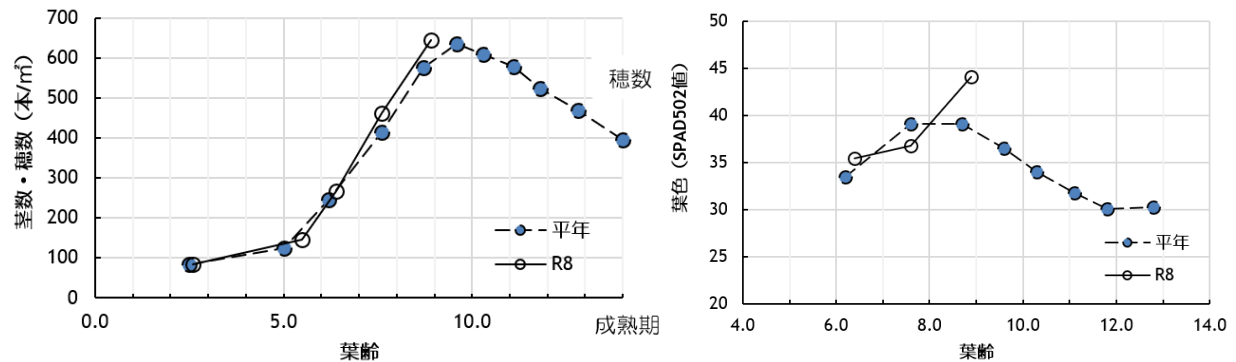


図4 葉齢と茎数、葉色の推移 (令和8年度 農総セ本部、コシヒカリ、5/15 移植)

### 3 今後の気象予報、技術対策

#### (1) 今後の気象予報

○東北地方1か月予報（6月25日 仙台管区气象台発表）

東北地方（太平洋側・日本海側 6月27日から7月26日までの天候見通し）

「暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。」

平均気温：高い、降水量：ほぼ平年並、日照時間：ほぼ平年並

○東北地方3か月予報（6月23日 仙台管区气象台発表）

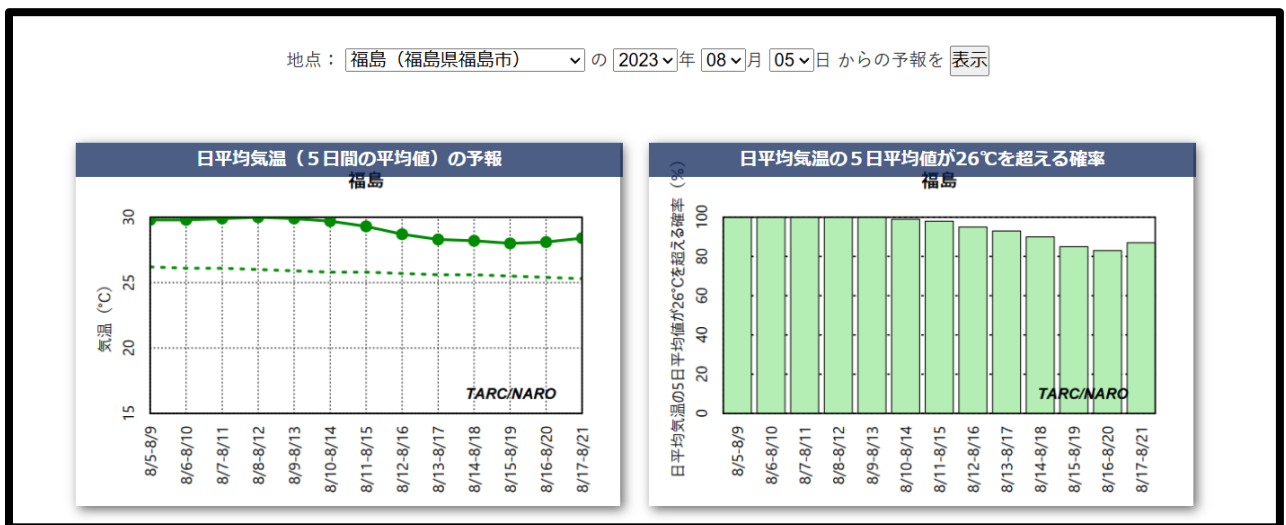
東北地方（太平洋側・日本海側 7月～9月までの天候見通し）

平均気温：平年並か高い、降水量：ほぼ平年並

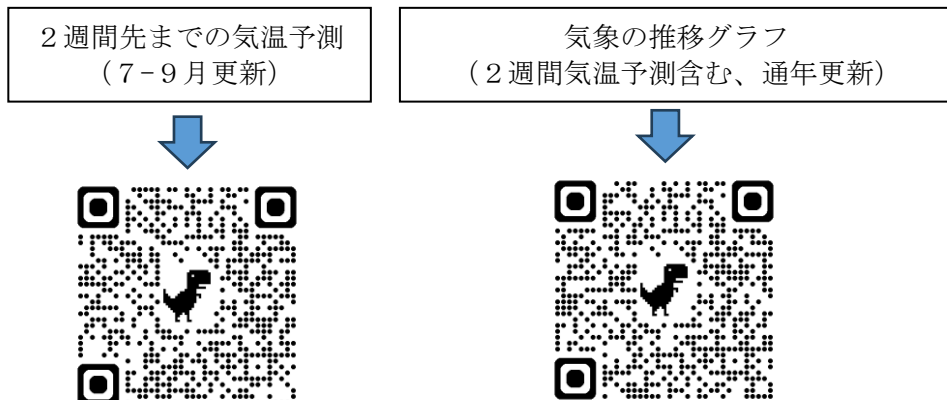
仙台气象台では、7月～9月にかけて気温が平年並～高くなると予想しており、それに応じて水稻の生育も平年より早まる可能性がある。

○東北農業研究センターの東北農業気象「見える化」システムについて

これまで気象予報については、気象庁による「2週間気温予報」、「1か月予報」、「3か月予報」が主に活用されてきたが、東北農業研究センターの東北農業気象「見える化」システムにて、2025年8月から「2週間先までの気温予測」データ提供が開始された。7-9月にかけて「日平均気温の5日平均値が26℃を超える確率」も毎日更新されるため、高温対策として追肥や水管理を判断する際のツールとして利用する。表示地点は福島、若松、白川、小名浜の4地点である。



参考例：福島における2023年8月5日からの予報値（気温予報の破線は平年値）



(2) 技術対策  
ア 水管理

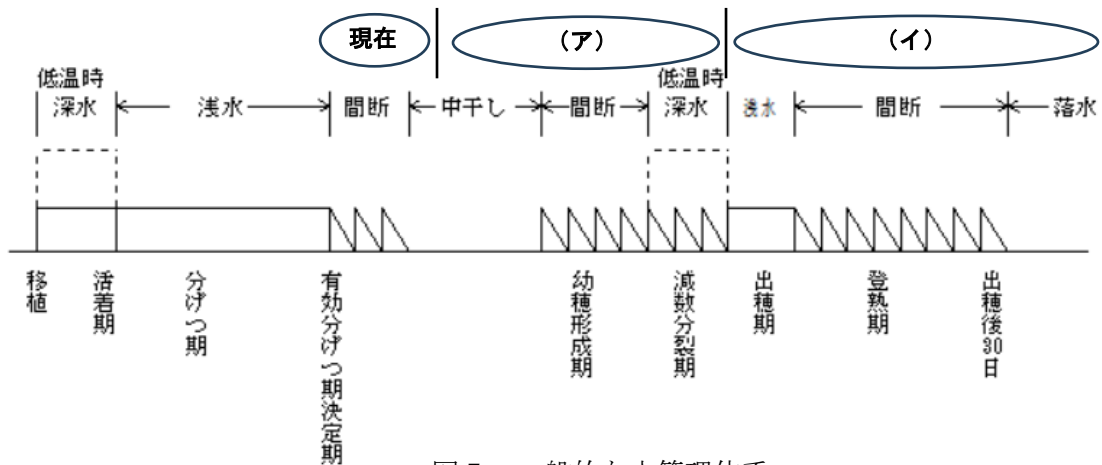


図5 一般的な水管理体系

(ア) 中干し～中干し後の水管理

中干しを行うことで、無効分けつの抑制と根の健全化、また地耐力の向上を図る。中干しの実施時期は遅くとも**幼穂形成始期前まで**とする。作溝は降雨時の排水を助けるため、中干し期間中に雨が続く場合には有効である。

中干し後は田面の亀裂にしみわたる程度の水を入れてなじませたのち**間断かんがい**を行い、**急激な還元によって根が酸素不足になることを防ぐ**。その後は、間断かんがいを継続して、根の活性を高く維持する。

(イ) 出穂前後の水管理

穂ばらみ期から出穂期にかけては、稲体の水分が開花受精に影響するので水分補給を目的に**湛水管理**とする。また、出穂直後に台風やフェーン現象に遭遇すると褐変粳や不稔粳が発生しやすいので深水管理とする。

登熟期間中、特に高温時は「**昼間湛水-夜間落水**」や「**飽水管理（ひたひた水状態）**」をおこなうことで水田の水温、地温を下げ、根の活力維持を図り、玄米の品質低下を抑制する。落水時期は、機械収穫時の地耐力や水利を考慮して出穂後30日を目安とする。

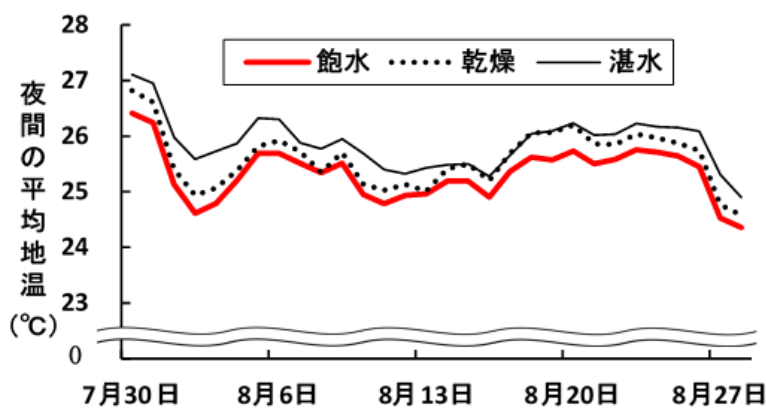


図6 水管理期間中の夜間平均地温の推移（令和5年度）

注）夜間平均地温は、1日のうち、0:00～5:50、18:00～23:50の平均値。  
右写真は実際の飽水管理の様子。



足跡に水が溜まる程度。

イ 肥培管理

(ア) 品種毎の生育目標と穂肥

生育目標や穂肥量については地域の栽培歴を参照する。

平年並の生育であれば、平坦部でのひとめぼれ、天のつぶの穂肥適期は7月上～中旬頃、コシヒカリは7月下旬頃であるが、今後の生育状況に応じて実施する。参考として、中通りにおける各品種の追肥の診断基準を表6に示した。

追肥量は生育に応じて窒素成分で1～2 kg/10a の範囲で加減する。

表6 移植栽培における幼穂形成期の生育目標と施肥法（中通り）

品種	幼穂形成期の生育目標			穂肥時期	窒素量 (kg/a)	目標収量 (kg/a)
	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (SPAD)			
ひとめぼれ	60	700	38～40	幼穂形成期	0.2	60
コシヒカリ	60～65	630～730	36～40	減数分裂期	0.15～0.2	60
天のつぶ	(70以下)	520～560	38～40	幼穂形成期	0.2	60～63
福笑い	70以下	500～550	35以下	幼穂形成期	0～0.2	55～60

※) 栽植密度 70株/坪程度

(イ) 夏季高温時における追肥の効果

令和5年度は6月～9月にかけて記録的な高温となり、水稻の生育ステージが大幅に早まるとともに登熟期間中の高温により玄米品質が大きく低下した。

出穂期以降、気象庁の予報などにより高温が予想されている場合には、白未熟粒の発生による品質低下を防ぐため、生育診断に基づき出穂期頃に窒素追肥を行う（図7、令和5年度普及に移しうる成果「ひとめぼれ」における高温登熟条件下の出穂期追肥の効果と幼穂形成期生育の目安）。

特に出穂期葉色の著しい低下が予想される場合は、基肥一発肥料を使用している場合でも追肥を行うことを推奨する（参考）。

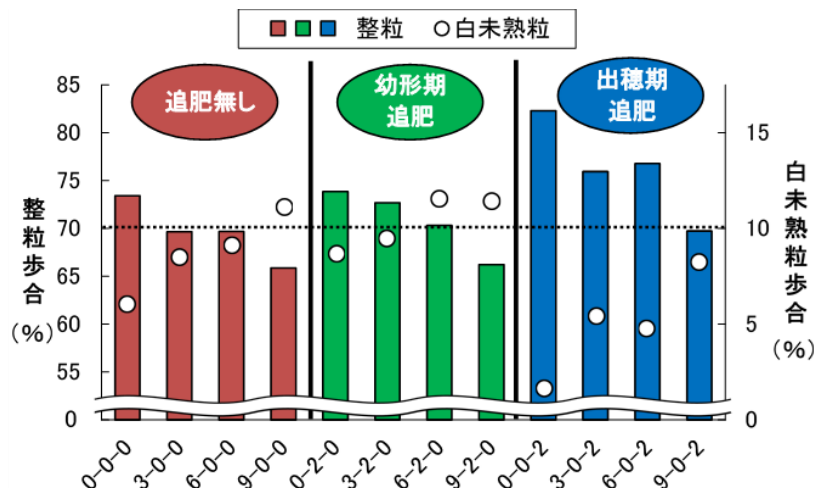


図7 施肥体系別の整粒歩合と白未熟粒歩合（試験年次：令和5年度、ひとめぼれ）

注1) 横軸は窒素施肥量 (kg/10a) で、基肥－幼形期追肥－出穂期追肥を示す。

(参考) 新潟県におけるコシヒカリの追肥判断基準 ※化学肥料体系 (令和6年3月1日「異常気象に負けないリスク軽減対策」より引用)

栽培体系	判断時期・ 葉色 (SPAD) 値の目安	施肥時期・ 施肥窒素量の目安
基肥＋追肥体系	出穂期3日前・ 葉色値31以下	出穂期3日前・ 1 kg/10a 上限
基肥一発	出穂期の葉色が32～33を 下回ると予想される場合	出穂期10日前・ 1 kg/10a 目安

ウ 適期収穫

刈取時期は玄米品質に大きく影響するため、適期に刈取を行う必要がある。刈取適期の目安はおおむね出穂後 40～50 日で、出穂後の積算気温が早生：950℃、中生：1000℃、晩生：1050℃に達し、籾の黄化率が 80～90%になった時期である。

積算気温が 1200℃を超えると急激に胴割粒が発生し、落等の原因となる（図 8）。

また過去の研究より、積算気温が 1200℃を超えると、味度値も低下することが判明している（図 9）。高温年は成熟期が早まる可能性があるため、各地域の気象経過を確認し、適期刈取を励行する。

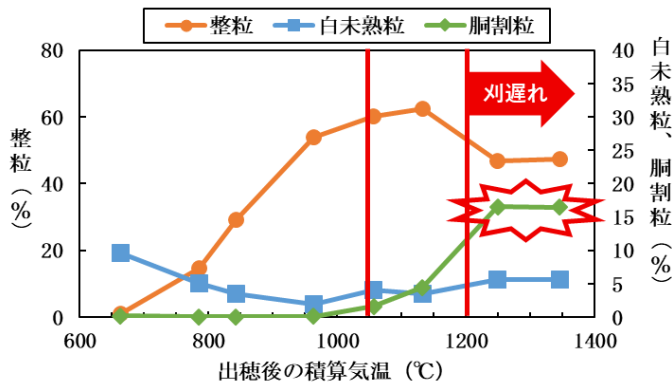


図 8 積算気温に応じた玄米品質推移 (令和 3 年度、センター本部、福笑い)

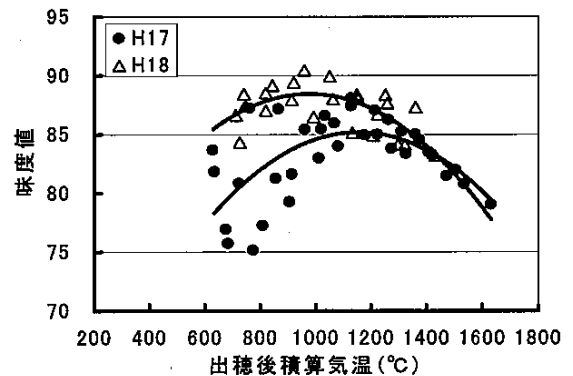


図 9 積算気温と味度値の関係 (平成 19 年度、古川農試、ひとめぼれ)

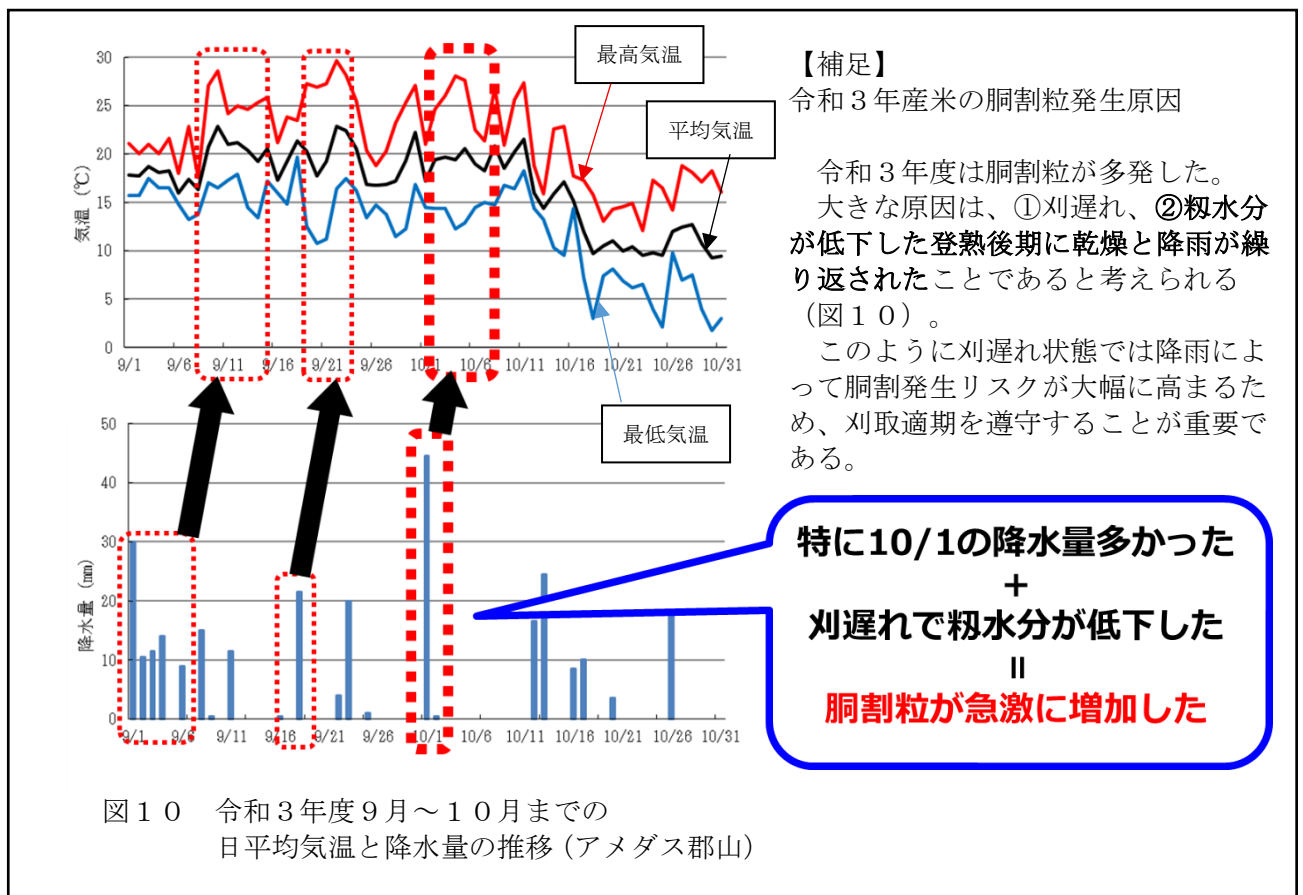


図 10 令和 3 年度 9 月～ 10 月までの日平均気温と降水量の推移 (アメダス郡山)

【補足】

令和 3 年産米の胴割粒発生原因

令和 3 年度は胴割粒が多発した。大きな原因は、①刈遅れ、②籾水分が低下した登熟後期に乾燥と降雨が繰り返されたことと考えられる（図 10）。

このように刈遅れ状態では降雨によって胴割発生リスクが大幅に高まるため、刈取適期を遵守することが重要である。

特に10/1の降水量多かった  
+  
刈遅れで籾水分が低下した  
||  
胴割粒が急激に増加した

# 大豆における高温対策について

資料5-2

## I 大豆作柄解析試験(令和8年産)

福島県農業総合センター  
令和8年6月24日現在

- ・出芽日数について、標播は本部（郡山）で平年並、会津地域研究所（会津坂下）で1日早く、浜地域研究所（相馬）で2日遅い。
- ・6月下旬の降雨により湿害が発生することが見込まれる。

表1 生育ステージ

場所	播種時期	品種名	年次	播種期 (月/日)	出芽期 (月/日)	出芽 日数 (日)	5葉期 (月/日)	開花期 (月/日)	開花まで 日数 (日)	成熟期 <sup>2)</sup> (月/日)	結実 日数 <sup>2)</sup> (日)	
本部 (郡山)	標	タチナガハ	本年	6/1	6/10	9						
			前年	5/29	6/8	10	6/28	7/19	51	10/26	99	
			平年	6/2	6/11	9	7/4	7/25	53	10/25	91	
			平年差	-1	-1	0						
	播	あやこがね	本年	6/1	6/10	9						
			前年	5/29	6/8	10	6/28	7/17	49	10/18	93	
			平年	6/2	6/11	9	7/3	7/24	52	10/17	85	
			平年差	-1	-1	0						
	晩	里のほほえみ	本年	6/1	6/10	9						
			前年	5/29	6/8	10	6/29	7/20	52	10/23	95	
			平年	6/2	6/11	9	7/4	7/24	52	10/24	90	
			平年差	-1	-1	0						
会津地域 研究所 (会津 坂下)	標	タチナガハ	本年	6/19								
			前年	6/20	6/28	8	7/20	8/2	43	10/30	89	
			平年	6/20	6/28	8	7/19	8/3	44	10/29	85	
			平年差	-1								
	播	里のほほえみ	本年	6/19								
			前年	6/20	6/28	8	7/20	8/3	44	10/26	84	
			平年	6/20	6/27	7	7/18	8/3	44	10/28	85	
			平年差	-1								
	標	あやこがね	本年	6/1	6/8	7						
			前年	5/29	6/6	8	6/27	7/15	47	10/19	96	
			平年	6/1	6/9	8	7/4	7/22	51	10/22	92	
			平年差	0	-1	-1						
播	里のほほえみ	本年	6/1	6/8	7							
		前年	5/29	6/7	9	6/29	7/16	48	11/7	114		
		平年	6/1	6/9	8	7/4	7/22	52	11/1	102		
		平年差	0	-1	-1							
晩	あやこがね	本年	6/18									
		前年	6/20	6/28	8	7/17	8/2	43	10/20	79		
		平年	6/21	6/28	8	7/19	8/2	43	10/24	83		
		平年差	-3									
播	里のほほえみ	本年	6/18									
		前年	6/20	6/28	8	7/18	8/2	43	11/11	101		
		平年	6/21	6/28	7	7/19	8/2	43	11/4	94		
		平年差	-3									
浜地域 研究所 (相馬)	標	タチナガハ	本年	6/11	6/19	8						
			前年	5/29	6/3	5	7/4	7/19	51	11/4	108	
			平年	6/7	6/13	6	7/9	7/28	51	10/30	94	
			平年差	4	6	2						
	播	里のほほえみ	本年	6/11	6/19	8						
			前年	5/29	6/3	5	7/4	7/19	51	10/28	101	
			平年	6/7	6/13	6	7/8	7/27	50	10/25	90	
			平年差	4	6	2						
	晩	タチナガハ	本年	6/25								
			前年	6/20	6/28	8	7/13	8/1	42	11/4	95	
			平年	6/23	6/29	6	7/20	8/5	43	11/2	89	
			平年差	2								
播	里のほほえみ	本年	6/25									
		前年	6/20	6/28	8	7/13	8/1	42	10/28	88		
		平年	6/23	6/29	6	7/22	8/7	45	10/30	84		
		平年差	2									

1) 平年値は過去5カ年の数値を使用

2) 本部の「成熟期」及び「結実日数」の平年値は青立による著しい成熟期遅れが生じた令和5年度を除いた値(令和10年度まで同様)

## II 大豆栽培の高温対策について 高温条件下でも安定的に大豆生産するために

### <ポイント>

#### ☞ 開花以降の乾燥ストレスをいかに回避するか

開花期から子実肥大初期にかけて土壌が乾燥すると落花、落莢が多くなり減収します。子実肥大期中期の高温で裂皮粒、子実肥大期後期の高温で青立ちが増加し、収穫時の品質に影響します。

#### 1 暗渠の管理

地下水位を維持するため、高温少雨時には暗渠を閉め、地下水位の低下を防ぐ。雨天時には暗渠を開き、速やかに排水し、停滞水が発生しないようにする。

#### 2 灌漑

畝間灌漑、または暗渠を閉じてほ場周囲の明渠への通水を実施する。灌漑は夕方に実施し、ほ場全体に水が行き渡ったら水を止め、速やかに排水する。

※①「開花以降で1週間以上降雨がないとき」、②「日中に葉の反転が50%以上見られるとき」③「地下水位60~70cmより低下したとき」のいずれか一つでもあったときに実施の目安

### <高温少雨年（令和5年）における大豆の畝間灌漑の効果（山形県）>

表 収量及び品質

区名	収量調査				粒厚分布(%)				品質
	全重 (kg/a)	子実重 (kg/a)	稔実莢数 (莢/m <sup>2</sup> )	百粒重 (g)	~5.5mm	5.5~ 7.3mm	7.3~ 7.9mm	7.9mm~	検査等級
灌水区	67.8	36.5	700.2	29.8	0.1	5.2	25.5	69.2	3中
無灌水区	39.8	19.4	438.3	27.6	0.2	25.6	57.3	16.9	規格外
(無灌水区比・差)	170	188	160	108	-0.1	-20.4	-31.8	+52.3	

令和5年山形県農業総合研究センター成果引用

#### 【耕種概要】

品種：「シュウリュウ」、栽植密度：10.4本/m<sup>2</sup>、土壌分類：礫質普通灰色低地土  
播種日：6/6、播種量：4.5kg/10a、基肥：発酵鶏糞(2.0kgN/10a)、中耕培土日：6/26、  
7/11、灌水日：7/28、8/12、8/31

#### 3 現在実施中の試験

「里のほほえみ」を、標播（6/1 頃）、晩播（6/20 頃）、極晩播（7/10、7/30）条件で播種時期、播種密度を変更した試験を実施中。

## 野菜類の高温・少雨対策について

令和 8 年 7 月 8 日  
農業総合センター  
作物園芸部野菜科

**1 野菜類における高温・乾燥の影響**

- (1) 直播き野菜における発芽不良
- (2) 萎れ、葉焼け、落花
- (3) 果実品質低下（トマトの放射状裂果・尻腐果、キュウリの曲がり果・尻細果・フケ果、ピーマンの日焼け果等）
- (4) 病害虫の発生拡大（ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病等）
- (5) 薬剤散布時の薬害の発生 等

**2 高温・乾燥への対策について****(1) かん水**

朝夕の気温が低い時間に行うのが理想だが、日中でも水分不足が疑われる際には積極的にかん水する。果菜類では、かん水チューブを用いた少量多回数が望ましい。また、畦間かん水を行う場合は、長時間水をためないように注意する。

**(2) 施設における換気、遮光、ミスト噴霧**

側面と妻面を開放して換気を図り、遮光・遮熱資材や塗布剤を利用する。また、ミスト噴霧は、気温上昇を抑制し、作業環境を改善するとともにトマトやキュウリでは品質向上効果がある。

**(3) 敷きわら、白色資材の利用**

敷きわら、白黒マルチ、白色防草シートは地温上昇抑制効果がある。

**(4) 草勢の維持**

果菜類やマメ類は、不良果や不良莢を早めに摘み取り、株への負担を軽減させ、葉面散布、液肥やペースト肥料の土壌かん注を行う。

**(5) 薬剤散布**

高温時は薬害の発生が心配されるので、早朝または夕方に散布することを徹底する。

**(6) 収穫物の鮮度保持**

キュウリのフケ果（ス入り果・先膨れ果）の発生が懸念されるため、収穫物を直射日光に当てない等、品温の上昇を防ぐ。

**(7) 遅植え栽培、遅播き栽培の導入**

7～8月に定植や播種するキュウリの遅植え栽培やサヤインゲンの遅播き栽培は、春植えの作型に収量は劣るものの春に植えた株の品質が低下してくる頃に良品が収穫できる。

**3 農業総合センターにおける高温対策に関する成果について****(1) 夏秋トマトの夏期遮光による裂果軽減効果（H20 普及成果）**

遮光率 50%の遮光幕を使用して 9:00～16:00 の時間帯で遮光すると、裂果が軽減し、可販果収量が増加する。

- (2) 夏秋雨よけキュウリに適した遮光資材の設置方法 (R2 参考成果) 定植後から遮光資材を屋根部分に外張り展張し、梅雨時期に一度撤去した後、再度展張する方法が適している。
- (3) トマト品種「りんか 409」のミスト噴霧を利用した高温対策 (R5 参考成果)  
「りんか 409」の夏秋栽培において、ミスト噴霧によりパイプハウス内の気温と飽差上昇が抑制され、放射状裂果の発生が抑えられる。
- (4) 夏秋雨よけキュウリにおけるミストと日射制御型遮光の併用による高温対策 (R6 普及成果)  
夏秋雨よけキュウリにおいて、ミストと高温時期遮光 (高温時期のみ遮光資材を常時展張) を併用すると減収するが、ミストと日射制御型遮光 (設定した日射量以上で自動遮光) を併用すると収量を確保しつつ施設内環境を改善できる。
- (5) 夏季高温期の収穫作業が軽減でき、翌春の収量が増加するアスパラガスの夏季追加立茎法 (R6 普及成果)  
「ふくきたる」を用いたアスパラガスのハウス半促成栽培において、春どり後の立茎に加え 7 月中下旬に追加立茎を行うと、その後の若茎数が減少し、高温期の収穫作業を軽減できる。また、翌春の春どり収量は増加し、年間収量は慣行栽培と同程度となる。

## 高温条件下における果樹の栽培管理について

令和8年7月8日  
農業振興課  
農業総合センター果樹研究所

## 1 気象経過

農業総合センター果樹研究所（福島市）の平均気温は3月が6.3℃（平年差+0.4℃）、4月が13.1℃（同+1.5℃）、5月が17.9℃（同+1.0℃）、6月が20.0℃（同-0.8℃）となっており、6月を除き平年よりもやや高温で経過した。

また降水量は、3月が35.0mm（平年比49.9%）、4月が70.0mm（同89.7%）、5月が86.5mm（同101.9%）、6月が164.0mm（同142.2%）であった。梅雨入りは6月20日ごろとみられ、平年より8日遅い状況となっている。

## 2 土壌水分

果樹の発芽期以降、定期的にまとまった降雨があり、6月30日時点の土壌水分（pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無灌水）は、深さ20cmで2.2、深さ40cmで1.9、深さ60cmで1.8となっており、概ね適湿状態である（図1）。

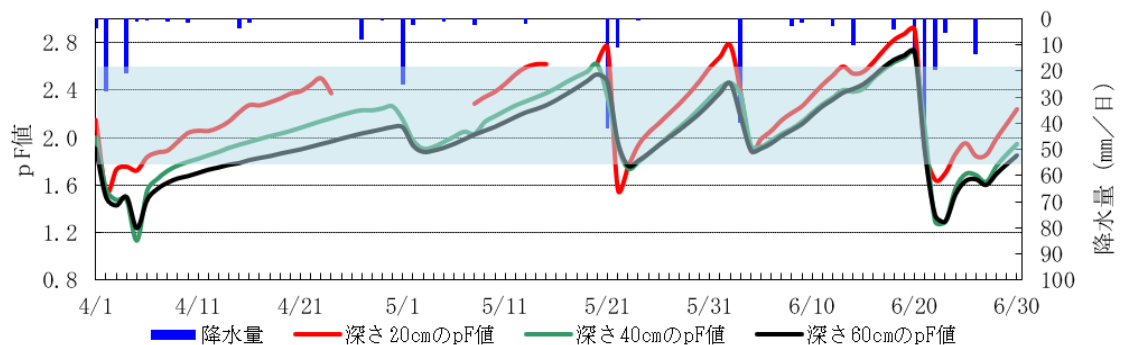


図1 土壌 pF 値の推移（果樹研究所なしほ場：草生・無かん水）

図中の網掛け部は、適湿の範囲（pF1.8-2.6）

## 3 今後の気象の見通し

仙台管区气象台が令和8年6月23日に発表した3か月予報では、向こう3か月（7～9月）の平均気温は平年並または高い確率が40%であり、降水量は多い確率が40%となっている。

## 4 果樹における高温・乾燥の影響

過去の高温・乾燥年の記録に基づく主要果樹への影響は表1のとおり。

表1 高温・乾燥による果樹への影響

(◎：影響大、○：影響あり、令和7年追加)

	影響	もも	なし	りんご	ぶどう	かき
品質	肥大不良	◎	◎	◎	○	
	着色不良	○		◎	◎	
	酸の減少				○	
	蜜入り不良			◎		
	異常成熟果 (生理落果・青実果)			◎		
	果肉障害	○	○			
	日焼け		○	◎	○	○
	横ヒビ・裂果			○	◎	○
	軟質果の発生	○	○	○	○	○
樹体	樹勢衰弱・枯死	○	○	○		
	黄変落葉	○	○	○		
	葉焼け		◎		○ハウス	
病害虫	ハダニ類	○	◎	◎		
	ナシヒメシクイ (晩生種)	○	○			
	ナシマルカガラムシ	○	○	○		

## 5 今後の技術対策のポイント

梅雨明け後の急激な気温上昇と高温乾燥により、生育に影響がでる可能性が高まるため、以下の対応により適切な栽培管理に努める。

### (1) 土壌の水管理

乾燥が続く場合にはかん水を実施する。葉色の低下、葉の萎れや黄変落葉が見られる場合は早急な対策が必要である。

1回のかん水は25～30mm程度(10a当たり25～30t)を目安とし、5～7日間隔で実施する。

ももでは、収穫5～7日前以降のかん水は糖度など品質の低下につながりやすいので、かん水が必要な場合は早めに実施する。

なしでは、夏季の土壌乾燥により「あきづき」「王秋」でコルク状果肉障害が発生しやすいことから、状態に応じてかん水を実施する。

ぶどう等の裂果は、土壌水分の急激な変化で誘発されやすいことから、園地の状態に応じて定期的なかん水を行う。

### (2) 草刈りの実施

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行う(地表面からの

蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされる)。

### (3) 新梢管理

新梢管理は樹冠内部の徒長枝を中心に、通常よりも軽めの夏季せん定を行うなど、骨格枝背面の日焼け防止や樹勢を落とさない管理を心がける。

樹勢が弱い樹では、発生した発育枝等は全て切除せず適宜残して配置し、適正な樹勢の維持を図る。

なお、りんごやぶどうでは、果実の成熟期に樹勢が旺盛な場合、果実の着色が劣りやすいことから樹勢の適正化に努める。

### (4) 着果管理

りんごでは、果実に直射日光が当たると日焼け果が発生しやすくなるため、葉で隠れるような果実を残すなど着果位置に留意する。

ぶどうでは、着房過多が着色不良を助長させることから、適正な着房数に調整する。

### (5) 適期収穫

ももでは、高温下で果肉の軟化が停滞し、さらに極端な高温条件下では着色が遅れる場合がある。また、気温が下がり適温条件域に入ることや乾燥条件から急な降雨により土壌水分が大きく変化した場合には、急激に軟化が進む可能性があるため、成熟状況に注意し適期収穫に努める。核や胚に障害を持つ果実では特に成熟が早まる傾向があるので、収穫が遅れないように注意する。

なしでは、熟度の進んだ果実で果肉が水浸状となる（みつ症）の発生が多くなることから、収穫が遅れないように注意する。

りんごでは、特に早生品種から中生品種にかけて、着色が不十分でも地色の変化や果肉硬度等の果実の成熟状況に注意し、収穫が遅れないよう適期収穫に努める。

ぶどうでは酸の減少が早まることから、食味を確認して適期収穫に努める。

また、いずれも収穫時の果実温度が高いと果実が軟化しやすい傾向にあるため、収穫は気温が低い時間帯に行い、収穫後は直射日光を避けて涼しい場所に保管する。

### (6) 害虫防除

高温乾燥条件下ではハダニ類の発生が増加し、葉焼け等の被害を助長させることから、発生状況をこまめに確認し適期防除を実施する。また、ナシヒメシンクイやナシマルカイガラムシの発生世代数が増加し、特にナシヒメシンクイは9月以降でも、ももやなしの果実に被害を及ぼす可能性があることから、発生予察情報等を参考に防除を追加する。

## 6 参考資料

- (1) 平成 22 年の高温による農作物等への影響と技術対策
- (2) 平成 30 年高温・少雨対策の記録
- (3) 令和 5 年高温・少雨の影響

## 花き類の高温対策について

令和 8 年 7 月 8 日  
農 業 振 興 課  
農業総合センター作物園芸部花き科

## 1 花き類における高温の影響等

## (1) 前進開花及び短茎開花

トルコギキョウ、宿根カスミソウ、アスター、デルフィニウムなど

## (2) 開花遅延

キク類、リンドウ、シクラメンなど

※リンドウは早生～中生品種で開花前進、晩生品種で開花遅延となりやすい。

## (3) 生育障害や生育不良、品質低下等

リンドウ(花弁の着色不良)、宿根カスミソウ(奇形花)、パンジー(生育不良・徒長)など

## (4) その他

葉焼け、花弁の退色、花弁数の減少、病害虫の発生拡大、などが考えられる。

## 2 高温障害等の対策について

※梅雨明け後の急激な強い日差しと高温乾燥は、土壌や株元からの急激な水分蒸発や植物体の水分不足等で生育が著しく阻害される危険性が高まるため、以下の対応により適切な栽培管理に努める。

※品目等により「最高気温や日平均気温が高い」ことによる影響と「夜温が高い」ことによる影響が想定され、それぞれに対応した対策を取ることが求められる。

## (1) 適切なかん水管理

キク、リンドウ等の露地栽培では、土の乾き具合を確認しながら必要に応じて畦間かん水等を実施。特に定植後間もない場合は適湿を保つようにする。かん水は、朝夕の気温が低い時間に行い、日中の暑い時間帯に畝間等に水たまりが残らないように注意する。

## (2) 施設における換気

側面と妻面を開放して換気を図る。

## (3) 地温上昇を抑えるマルチ資材の活用など

敷きわらや白黒ダブルマルチの積極的な活用により、地温上昇を抑制する。土壤乾燥を抑制する効果も期待できる。

## (4) 遮光

施設においては、適宜、遮熱、遮光資材を活用し、気温や地温の昇温抑制に努める。施設では、内部遮光と比較して外部遮光の方が効果が高い。

リンドウ等では高温や強日射による開花遅延や花弁焼け等が懸念されるので、寒冷紗や遮光資材を利用(30～50%程度の遮光を)し、開花の遅れや品質低下を防止する。

※近年は、遮熱効果の高い素材を使った遮光資材も開発されており、明さを維持したまま気温を低下させるような資材も増えてきている。また、赤外線をカットする屋根フィルムも市販されている。

※遮光は比較的導入しやすい技術であるが、遮光率によっては徒長しやすくなるなど、生育に影響を及ぼす可能性があるので注意が必要である。遮熱効果の高い資材を用い遮光率をできるだけ下げる、曇天時は遮光資材を外す、などの方法で実施するのが望ましい。

#### (5) 葉面散布

高温期は、カルシウム欠乏による葉先枯れ症状（トルコギキョウ、リンドウ、ユリ等）や鉄欠乏による葉色の退色（ユリ等）といった生理障害が生じやすくなる。生育状況に応じて液肥の葉面散布による養分補給を行う。

#### (6) 病虫害防除

アブラムシ類、ハダニ類等は、高温乾燥条件で発生しやすくなる。発生状況をこまめに把握するとともに、適期防除に努める。

#### (7) 品質保持

日中の収穫は、切り花の品温上昇を招くことに加え、蒸散が盛んな状態にあるため、萎れやすく、水揚げし難くなる可能性がある。朝夕の涼しい時間帯（できれば早朝が望ましい）に収穫することを徹底する。

#### (8) 品種の検討

耐暑性のある品種を選定し栽培することで、高温の影響を回避する。

例1) 夏秋ギクの開花遅延対策として、高温でも到花日数が安定している品種の選定が進められている。

例2) リンドウ花の高温障害（花卉の色抜け）は発生程度に品種間差があり、発生しにくい品種を選定することができる。

#### (9) 降温処理技術

細霧冷房、パッドアンドファン、ヒートポンプによる冷房などにより、積極的に栽培環境の気温を下げる技術。ただし、十分な効果が期待できる設備を導入する場合、設備投資の負担が大きくなる可能性が高く、ヒートポンプなどでは電気代等のランニングコストも考慮する必要がある。

### 3 農業総合センターにおける花き類の高温対策に関する試験について

#### (1) リンドウ着色不良発生抑制対策技術の確立

リンドウの高温障害である花卉の着色不良対策についての試験を実施しており、令和5～6年度にはリンドウ露地栽培ほ場における遮光処理の効果について調査した。その結果、遮光により着色不良花の発生割合が大きく低減されることが示唆された（データ省略）。

令和7年度は遮光に加え、積極的なかん水の実施が高温障害の発生に及ぼす影響に

ついて調査した結果、遮光とかん水を組み合わせることで着色不良花の発生がより低く抑えられた（表1）。

表1 遮光に加えてかん水の有無がリンドウの花の高温障害及ぼす影響（R7年度）

品種	かん水	調査茎数 (本)	総着花数 <sup>1)</sup> (花)	障害程度割合 <sup>2)</sup> (%)				着色不良花 <sup>3)</sup> 割合 <sup>4)</sup> (%)	障害度 <sup>5)</sup>
				0	1	2	3		
ふくしまほのか	あり	193	2,116	87.9	4.9	7.0	0.2	12.1	6.5
	なし	176	1,822	74.4	6.6	11.4	7.6	25.6	17.3
かせん彼岸	あり	155	4,020	93.7	3.5	1.8	1.0	6.3	3.4
	なし	163	3,589	89.3	4.8	2.6	3.3	10.7	6.6

1) 調査茎数の総着花数：調査茎数において一部でも着色している花を着色花としてカウントした

2) 障害程度割合：各障害程度の着色不良花数/総着花数×100

※障害程度 0=障害なし、1(軽度)=着色不良部がわずかに認められる

2(中度)=着色不良部の花卉面積が3分の1未満、3(重度)=着色不良部の花卉面積が3分の1以上

3) 着色不良花：一部でも着色が不良な花

4) 着色不良花割合：着色不良花数/総着花数×100

5) 障害度： $\sum$ (障害程度の指数)×指数別花数×100/3×総着花数

## (2) コギク品種の高温開花性の調査

近年新たに品種化された優良品種について、福島県における到花日数および高温開花性を明らかにする試験を実施した。

試験の方法は、高温で管理する施設（消灯後 35°C 換気設定）内と露地で到花日数を調査し比較・検討することとし、令和6～7年度は開花遅延に対して品種間差や年次変動があることが確認された。また、開花遅延日数が少なく、開花遅延しにくいと考えられる品種もいくつか明らかとなった（表2）。今年度も継続して同様の試験を実施している。

表2 小ギクの高温開花遅延日数

花色	品種名	高温開花遅延日数 (高温区-通常区)	
		2024	2025
		赤	精こうめ
精ゆつき	16.7		
秀あさみ			15.5
精ひさな	23.0		7.0
黄	精なつか		1.8
	精かなん		11.8
	精こまき	39.7	22.1
	精はぎの	34.7	26.7
白	精てんせい	54.7<	
	精しゆう	30.3	
	精しはく	13.3	11.7
	精しらたき	21.7	14.5
	精しらあや		2.6

### (3) 宿根カスミソウ栽培における高温対策技術の開発

産地では高温対策の一つとして、施設内の風通しを改善するため防虫ネットの除去、または目合いの大きなものに変更することが検討されているが、それにより微細な害虫類の侵入の増加が予想される。

その対策として屋根にUVカットフィルムを展

張し、アザミウマ類の誘殺数を調査し通常フィルムと比較・検討するとともに、UVカットフィルムが宿根カスミソウの生育に及ぼす影響についても併せて比較・検討した。

その結果、UVカットフィルムを展張することでアザミウマ類の侵入が抑制されることが明らかとなった(図1)。また、生育については、やや節間が伸びるものの今回栽培した作型や品種においては大きな影響は見られなかった。

### (4) 鉢物栽培における高温対策技術の開発

シクラメン等の鉢物類においても切り花類と同様に近年の夏の高温により、品質低下や開花遅延等の影響が表れている。そこで、今年度は鉢物類の生産現場における高温対策の内容や効果について調査を行った結果、遮光や換気等の一般的な暑熱対策に加え、調査対象の内約半数で葉水を実施しており、効果を実感していることが明らかとなった。今年度からはシクラメンを対象として葉水の効果について試験を実施する。

表3 鉢物生産者が実施している高温対策

調査ほ場	換気(側面、天窓開放)	送風(循環扇等)	遮光幕	遮熱塗の塗布	品種選定	葉水	灌水頻度等の変更	作業時期の変更	発根促進剤の施用	施肥管理の変更	培土の物理性改善
1 須賀川市	○		○				○				
2 矢祭町	○	○	○							○	○
3 矢祭町	○	○	○		○						
4 川俣町	○	○	○			○		○			
5 福島市	○	○	○	○		○			○		
6 南相馬市	○	○	○								
7 相馬市	○	○	○			○	○				
8 相馬市	○	○	○	○	○	○					
9 会津若松	○	○	○		○	○		○	○		
10 桑折町	○	○	○	○	○			○			
11 伊達市	○	○	○		○	○	○				

※4川俣町の生産者のみパンジー・ビオラで、それ以外はシクラメン生産者

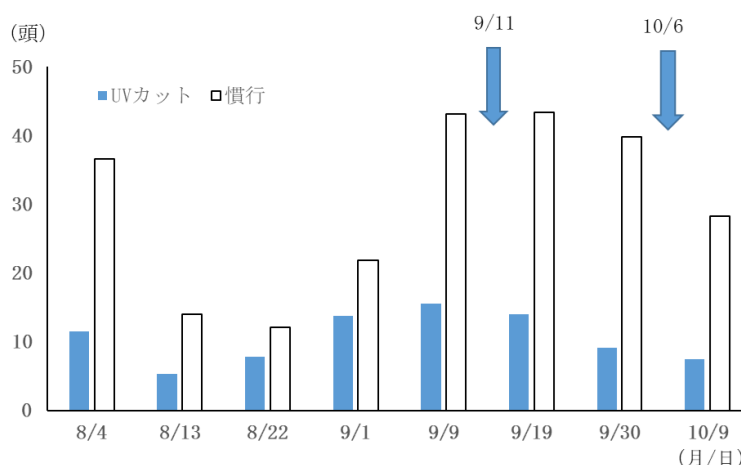


図1 屋根フィルムの違いによるアザミウマ類誘引数  
※矢印は薬剤散布を実施した日を示す。※1枚あたりの合計頭数

# 「ひとめぼれ」における高温登熟条件下の 出穂期追肥の効果と幼穂形成期生育の目安

福島県農業総合センター 作物園芸部 稲作科

部門名 水稻－水稻－施肥法

担当者 鈴木寛人、新妻和敏、鈴木幸雄

## I 新技術の解説

### 1 要旨

近年、水稻の出穂期が前進し、登熟期間が高温条件となる年次が発生しており、白未熟粒の増加による玄米品質の低下が問題となっている。本県主力品種の中で出穂期が早く高温の被害を受けやすい「ひとめぼれ」について、高温登熟条件下における出穂期追肥の被害軽減効果及び追肥を行うための幼穂形成期の生育量（草丈×莖数×葉色）の目安を明らかにした。

- (1) 高温登熟条件下では、出穂期追肥により整粒が増加し、白未熟粒が減少した（図1）。
- (2) 施肥体系にかかわらず、幼穂形成期の生育量が大きいと整粒歩合が低く（図2左）、玄米タンパク質含有率が高くなる（図2右）傾向が見られた。
- (3) 出穂期追肥により品質（整粒歩合70%以上）や食味（玄米タンパク質含有率6.5%以下）を維持できる、幼穂形成期の生育量の限界値は $1.5 \times 10^6$ であった（表1）。

### 2 期待される効果

- (1) 幼穂形成期に生育量を適正に保ちつつ、高温登熟条件（出穂後20日間の日平均気温 $26^{\circ}\text{C}$ 以上）となった場合には、出穂期追肥を実施することで玄米品質が向上し、県内の1等米比率を向上させることができる。

### 3 適用範囲

- (1) 県内の農業技術指導者
- (2) 適用できる品種「ひとめぼれ」

### 4 普及上の留意点

- (1) 本試験は2023年度（出穂期後20日間の日平均気温 $27.2\sim 27.4^{\circ}\text{C}$ ）の試験結果である。
- (2) 登熟期間の気温は、気象庁などの気象情報にて判断する。高温登熟条件下でない場合の出穂期追肥は、玄米タンパク質含有率を高めて食味が低下するので、高温が予想されない場合は、通常の出穂期追肥とする。
- (3) 高温登熟条件下では、施肥管理だけでなく、水管理などを組み合わせて玄米品質維持に努めることが重要である。

## II 具体的データ等

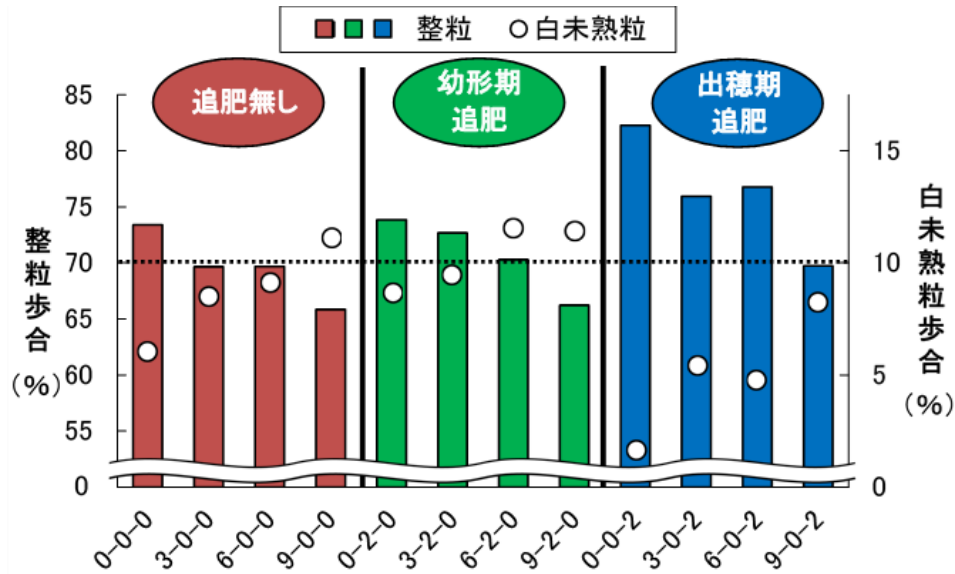


図1 施肥体系別の整粒歩合と白未熟粒歩合(2023年度実施)  
 ※横軸は窒素施肥量(kg/10a)で、基肥 - 幼形期追肥 - 出穂期追肥を示す。

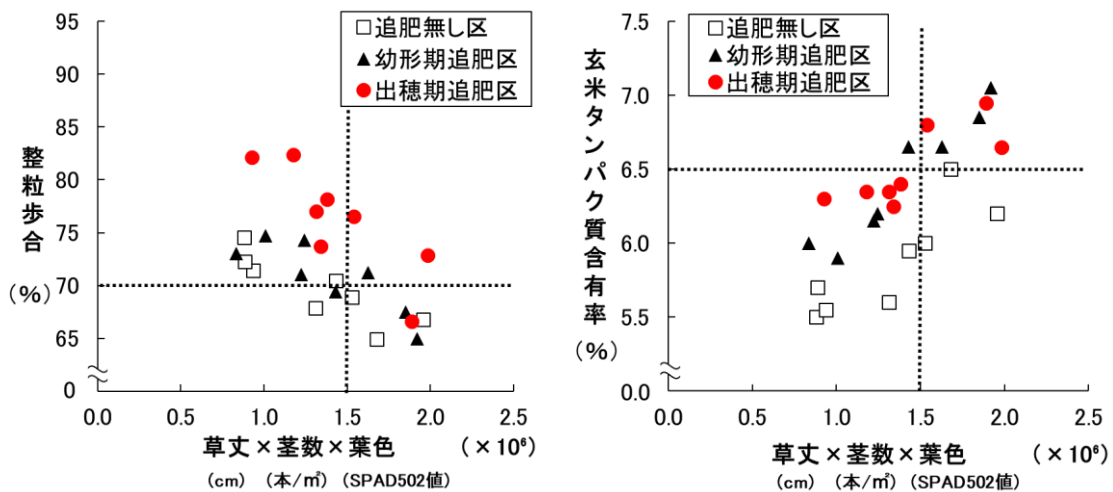


図2 幼穂形成期生育量と整粒歩合、玄米タンパク質含有率の関係  
 ※2023年度実施、各区 n=8、施肥は図1参照。

表1 「ひとめぼれ」における幼穂形成期生育量の目安

草丈(cm) × 茎数(本/㎡) × 葉色(SPAD502値)
1.5 × 10 <sup>6</sup>

※この値を超過すると、高温登熟条件となった際に  
 出穂期追肥を行っても、食味、品質が低下する恐れがある。

## III その他

### 1 執筆者

鈴木寛人

### 2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和 3～5 年度

(2) 研究課題名 新品種・新技術等開発促進事業 (福島県と JA グループ福島による共同事業)

### 3 主な参考文献・資料 なし

# 出穂期後 20 日間の平均気温や品種と玄米品質の関係

福島県農業総合センター 作物園芸部 稲作科

## 1 部門名

水稻－水稻－品種

## 2 担当者名

鈴木寛人、小森秀雄、新妻和敏、鈴木幸雄

## 3 要旨

近年、水稻の出穂期が前進し登熟期間が高温条件となる年が発生しており、白未熟粒等の増加により、県産米の品質の低下が問題として顕在化してきている。

そこで、過去の作柄解析試験結果を基に、夏季高温年における品質低下の品種間差や、登熟期間の気象条件が玄米品質に及ぼす影響を調査した結果、本県育成品種の高温登熟耐性は「ひとめぼれ」や「コシヒカリ」よりも高い傾向が見られた。

- (1) 出穂期後 20 日間の平均気温が 26°C を超えると白未熟粒が顕著に増加した (図 1)。
- (2) 作柄解析試験では「ひとめぼれ」、「コシヒカリ」と比較し、「天のつぶ」、「福笑い」の方が白未熟粒は少ない傾向が見られた (図 1)。

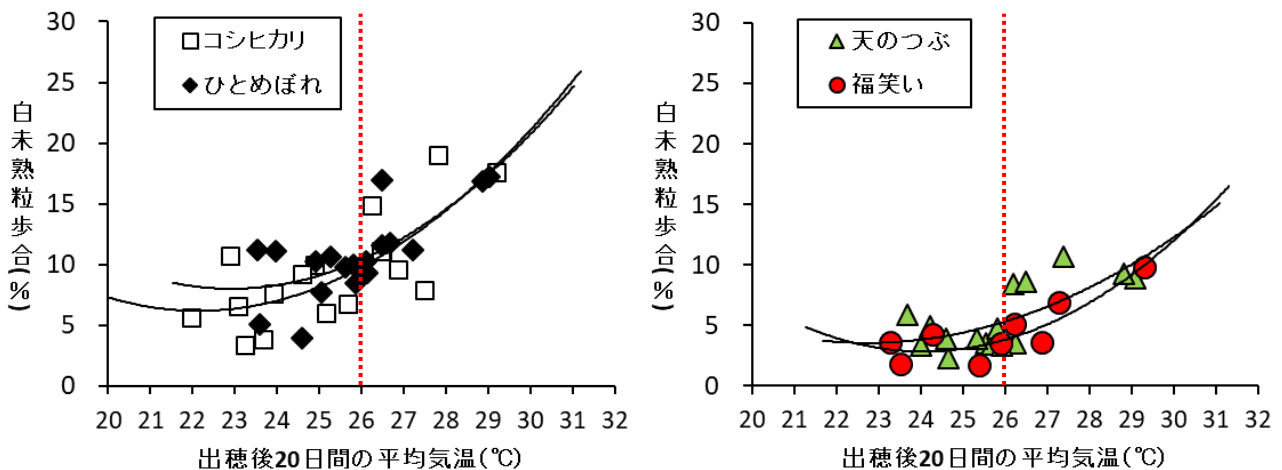


図 1 出穂後 20 日間の平均気温と白未熟粒歩合の関係

- ※ 1) 作柄解析試験 (福島県農業総合センター本部 2009～2023 年、会津地域研究所 2019～2023 年)、コシヒカリ n=17、ひとめぼれ n=18、天のつぶ n=16、福笑い n=9。
- ※ 2) 玄米品質は穀粒判別器 (サタケ社) を用いて判定した。篩目 1.7mm。
- ※ 3) 高温登熟性基準品種: コシヒカリ「中」、ひとめぼれ「中」。

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3～5 年度
- (2) 研究課題名 新品種・新技術等開発促進事業  
(福島県と JA グループ福島による共同事業)

## 5 主な参考文献・資料

なし

# 水位センサを用いた自動灌水によって 登熟期間中の飽水管理を省力化できる

福島県農業総合センター 作物園芸部 稲作科

## 1 部門名

水稻－水稻－水管理・水分制御

## 2 担当者名

鈴木寛人、新妻和敏、鈴木幸雄

## 3 要旨

近年、水稻の出穂期が前進し登熟期間が高温条件となる年が発生しており、白未熟粒等の増加により、県産米の品質の低下が問題として顕在化してきている。

そこで、飽水管理による地温上昇の抑制効果と水位センサ及び自動灌水装置を用いた飽水管理の省力化を検証した。

(1) 飽水管理により夜間の日平均地温を低く抑えられた(図1)。

(2) 水位センサ及び自動灌水装置により、飽水管理に係る時間を削減できた(表1)。

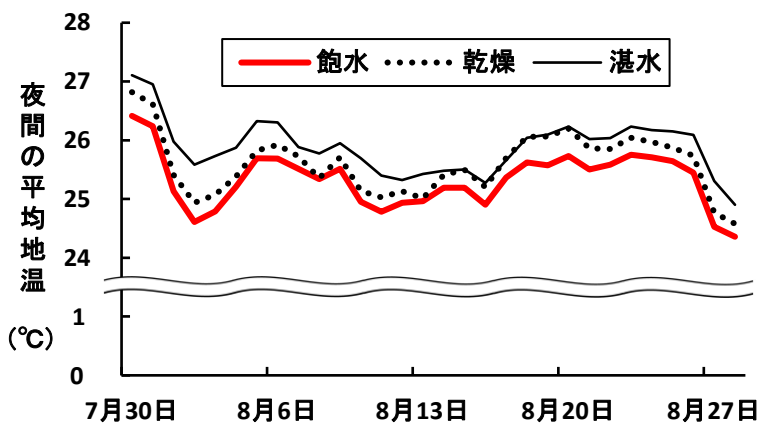


図1 水管理期間中の夜間平均地温の推移

注1) 1日のうち0:00～5:50、18:00～23:50の平均値

注2) 地温は田面から深さ5cmで測定した。

表1 7/30～8/29までの水管理時間

区	水管理を行った作業日数(日)	1日当たり水管理時間(h/日)
自動灌水区	0	0
手動灌水区	21	1.37

注1) 飽水管理を実施、試験ほ場面積は各区4a。

注2) 自動区では水位センサ、自動かん水装置(farmo)を使用した。

注3) 水管理時間は「ほ場に向かうまでの時間」、「ほ場水位を確認する時間」、「ほ場に入水している時間」を合計した数値。

## 4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和3～5年度

(2) 研究課題名 新品種・新技術等開発促進事業

(福島県とJAグループ福島による共同事業)

## 5 主な参考文献・資料

なし

# 2023年の記録的な夏季高温による水稻への影響

福島県農業総合センター 作物園芸部 稲作科

## 1 部門名

水稻－水稻－気象災害

## 2 担当者名

鈴木寛人、齋藤真一

## 3 要旨

2023年は出穂期後20日間の日平均気温が27°Cを超える記録的な高温となったことから、水稻の生育、品質について調査した。

その結果、平年値（2018年～2022年の5年間の平均値）と比較して水稻の生育ステージが大幅に早まり、玄米品質が大きく低下したことが確認された。

(1) 幼穂形成始期、出穂期は2～6日、成熟期は5～12日平年より早まった。「コシヒカリ」、「天のつぶ」、「福笑い」は成熟期が過去最も早く、「ひとめぼれ」は2010年に次いで早かった。また、各品種の出穂期後20日間の日平均気温は過去最も高かった(表1)。

(2) 白未熟粒(%)、その他未熟粒(%)が高くなり、整粒(%)は低くなった(表2)。

表1 生育ステージの推移と出穂期後20日間の日平均気温

品種	幼穂形成始期		出穂期		成熟期		過去最も早い成熟期	出穂期後20日間の日平均気温(°C)		過去最も高い出穂期後20日間の日平均気温(°C)
	本年	平年差	本年	平年差	本年	平年差		本年	平年差	
	(月/日)	(日)	(月/日)	(日)	(月/日)	(日)				
ひとめぼれ	7/11	-3	7/31	-3	9/6	-7	9/5(2010年)	27.2	1.9	26.7(2010年)
天のつぶ	7/12	-2	8/3	-2	9/9	-5	9/10(2018年)	27.4	2.1	26.5(2020年)
コシヒカリ	7/17	-4	8/6	-5	9/13	-12	9/15(2010年)	27.5	2.9	26.5(2010年)
福笑い	7/18	-6	8/8	-6	9/16	-11	9/26(2021年)	27.3	3.0	26.2(2020年)

注1) 福笑いの平年差は過去4年間の平均値との差。

注2) 気温はアメダス郡山の気象データを用いた。

表2 品質調査

品種	整粒(%)		白未熟粒(%)	同左内訳			青未熟粒(%)	その他未熟粒(%)	検査等級(1~10)	玄米タバク質含有率(%)
	本年	平年差		乳白粒(%)	基部未熟粒(%)	背腹白粒(%)				
ひとめぼれ	64.3	-10.2	11.3	(7.2)	(1.8)	(2.3)	1.2	20.7	5.0	5.9
天のつぶ	63.9	-10.1	10.7	(4.4)	(3.7)	(2.7)	1.9	22.2	5.5	5.7
コシヒカリ	59.3	-11.6	8.0	(3.4)	(2.5)	(2.1)	1.5	28.6	5.5	6.0
福笑い	59.1	-12.6	7.0	(2.4)	(1.5)	(3.1)	0.5	31.2	6.0	6.0

注) 整粒～その他未熟粒はタバク穀粒判別器(RGQ1100B)、検査等級は農産物検査機関による10段階評価、

玄米タバク質含有率(水分15%)はタバク米粒食味計(RLTA10C1)による測定値。

## 4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和3～7年度

(2) 研究課題名 主要農作物生育作柄解析調査研究

## 5 主な参考文献・資料 なし

# 夏秋トマトの夏期遮光による裂果軽減効果

福島県農業総合センター 作物園芸部野菜科

部門名 野菜 - トマト - 品種、水管理・水分制御、環境調節  
担当者 齋藤裕史・佐藤睦人・太田弘志

## 新技術の解説

### 1 要旨

県内の夏秋トマト産地においては、裂果等の障害による等級低下や廃棄が問題となっている。その対策として、夏期の遮光により裂果等を軽減させる技術を開発し、あわせてpFセンサーを用いた自動灌水同時施肥を行うことで、より増収することができた。

- (1) 遮光率50%の遮光幕を使用し、9:00～16:00の時間帯で6万ルクス以上で遮光を行うと、裂果が軽減し、桃太郎8では可販果収量が増加した(表1)。遮光幕は図1によりパイプハウスの内側に設置し、モーターで自動開閉させた。
- (2) 遮光による裂果軽減効果は品種により差があり、桃太郎サニー、桃太郎8で効果が大きかった(図3)。
- (3) 灌水同時施肥で土壌水分をpF値で2.1～2.3に維持することにより増収となった(表1)。
- (4) 遮光装置及び自動灌水同時施肥装置を設置するための資材費は、表2のとおりである。

### 2 期待される効果

夏秋トマトの裂果が減少し、安定生産が可能となる。

### 3 適用範囲

県内の夏秋トマト産地

### 4 普及上の留意点

- (1) 遮光の時期、時間帯の条件を合わせれば、遮光幕の開閉は手動でも可能である。
- (2) 遮光幕を保温フィルムに取り替えることで冬期間の葉菜類栽培等の保温カーテンとしても利用できる。
- (3) 遮光による効果は品種間で差があり、遮光装置の導入は品種特性を把握した上で行う必要がある。

## 具体的データ等

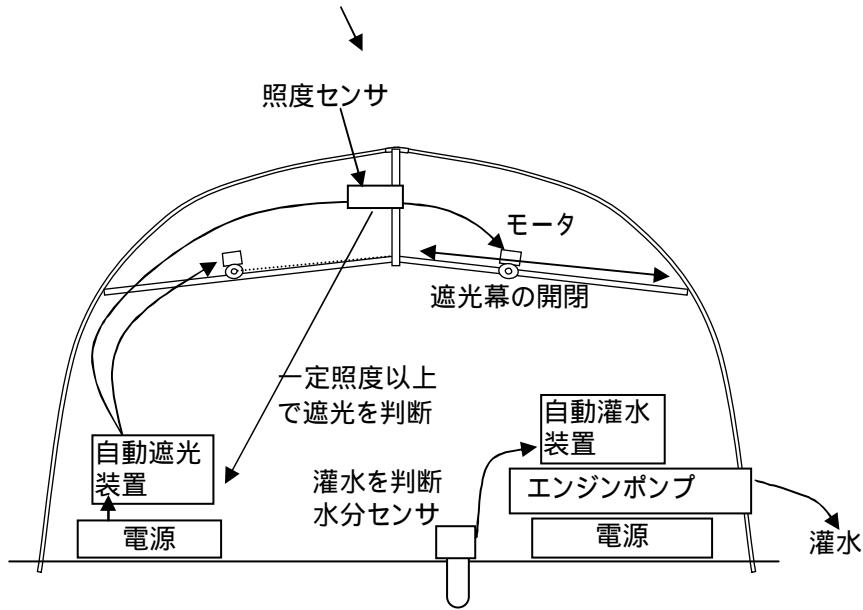


図1 装置の概要



図2 遮光装置

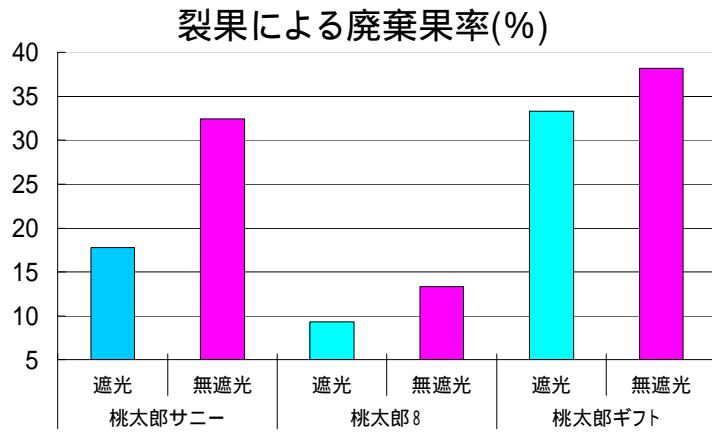


図3 裂果による廃棄果率(%) (6段目以降、2008年)

表1 栽培技術と収量向上効果

栽培技術	可販果 増加量 (kg/10a)	粗収益 増加額 (円/10a)
照度制御自動遮光	350	84,000
pF制御自動灌水施肥	700	168,000
+	1,050	252,000

注1) 単価は240円/kgとした。

注2) 品種: 桃太郎8

表2 自動化装置の資材費

部材名	資材費 (円/10a)
手動による遮光	235,000
自動遮光装置(商用電源)	443,000
自動遮光装置(バッテリー)	476,000
自動灌水同時施肥(商用電源)ポンプ除く	591,000
自動灌水同時施肥(自立型エンジンポンプ)	821,000

## その他

### 1 執筆者

齋藤裕史

### 2 主な参考文献・資料

平成18～20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2006～2008)

# 夏秋雨よけキュウリの高温抑制と 収量確保のための遮光資材の設置方法

福島県農業総合センター 作物園芸部 野菜科

## 1 部門名

野菜－キュウリ－環境調節

## 2 担当者名

笠井友美

## 3 要旨

近年、施設キュウリでは高温、乾燥による生理障害の発生、収量の低下が課題となっており、産地では高温抑制技術として遮光資材の導入が進んでいる。そこで夏秋雨よけキュウリに適した遮光資材の設置方法を検討したところ、定植後から遮光資材を施設屋根部分に外張り展張し、梅雨時期に一度撤去した後、再度展張する方法が適した設置方法であった。

(1) 遮光率 20%の遮光資材を外張りすることで、施設内の気温が 30℃以上または 35℃以上となる積算時間は減少する (図 1)。

(2) 遮光率 20%の遮光資材を、定植後から常時展張すると収量は 2 割減少するが、遮光資材を梅雨時期に一度取り外し、梅雨明け後に再度展張することで、慣行と同程度の収量が確保できる (図 2)。

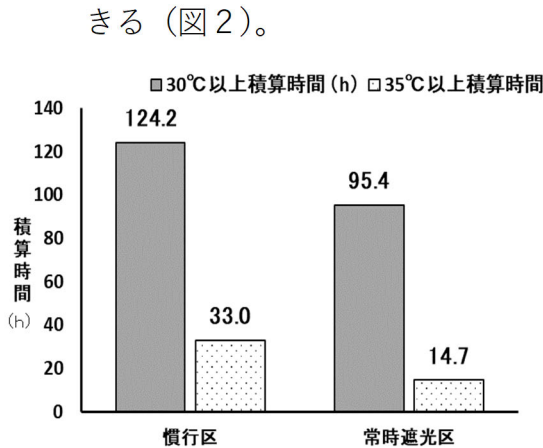


図 1 施設内の積算温度の比較 (2020 年)

※測定期間：8/7～8/31

※遮光資材はワリフ明瞭 20 を使用した

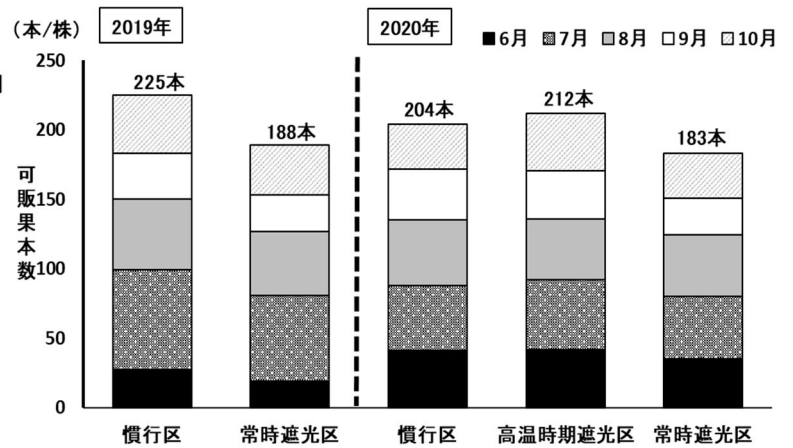


図 2 遮光資材が収量に及ぼす影響

※遮光資材展張期間：(2019 年)5/15～9/30

(2020 年)常時遮光 5/8～9/7、高温時期遮光 5/8～6/7、8/6～9/7

※定植日及び収穫期間：(2019 年)定植 5/15・収穫 6/11～10/31

(2020 年)定植 5/5・収穫 6/3～11/2

## 4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和元年度～令和 2 年度

(2) 研究課題名 主要野菜の安定生産技術の確立 (施設キュウリ栽培の安定生産技術の確立)

## 5 主な参考文献・資料

(1) 夏秋トマト栽培における低遮光率資材による高温対策(平成 28 年度 参考となる成果)

# トマト品種「りんか409」のミスト噴霧を利用した高温対策

福島県農業総合センター 作物園芸部 野菜科

## 1 部門名

野菜－トマト－環境調節

## 2 担当者名

石井詩歩

## 3 要旨

県内の夏秋トマト産地では、夏期の高温の影響により着果不良や障害果の発生が問題となっている。そこで、高温対策としてミスト噴霧した水の気化冷却を利用した技術を導入し、施設内環境やトマトの収量及び品質に及ぼす効果を調査した。その結果、「りんか409」の夏秋栽培において、ミスト噴霧によりパイプハウス内の気温と飽差上昇が抑制され、放射状裂果の発生が抑えられる傾向にあることを明らかにした。

- (1) ミスト噴霧によってパイプハウス内気温が35℃以上になる積算時間が短縮でき、飽差の上昇を抑制できる（表1）。
- (2) ミスト噴霧によって放射状裂果の発生が抑えられる傾向がある（図1）。

表1 ミスト有無による施設内の気温の比較

処理	施設内平均気温(℃)	35℃以上積算時間(h)	飽差(g/m <sup>3</sup> )			
			8:00	10:00	12:00	14:00
ミスト噴霧	33.6	30.6	9.4	15.7	18.5	19.0
無処理	34.7	41.7	11.6	20.1	22.5	23.0

※ミスト栽培ではクールネットプロ(NETAFIM社)を地上2.1mの高さでトマトの畝の上2列に設置した。  
 ※2022年と2023年の7/24～8/3の調査データの平均値。  
 ※ミストを使用した際にかかる資材費は10a当たり約23万円である(2023年調査)。  
 ※「飽差」…空気中に含むことができる水蒸気の最大量(飽和水蒸気量)と空気中の水蒸気の飽和度の差。

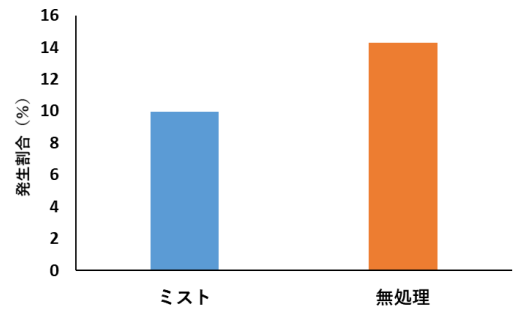


図1 放射状裂果の発生状況(2023年)  
 ※収穫期間は6月28日～11月9日。  
 ※発生割合は、1株当たりの総収穫果数に占める放射状裂果数の割合。

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3～5年度
- (2) 研究課題名 スマート農業プロセスイノベーション推進事業 (ICT活用園芸産地革新モデル確立事業)

## 5 主な参考文献・資料

- (1) 超腰高雨よけハウス及びミスト等による夏秋トマトの夏季高温対策(岐阜県中山間農業研究所)

# 夏秋雨よけキュウリにおける ミストと日射制御型遮光の併用による高温対策

福島県農業総合センター 作物園芸部 野菜科

部門名 野菜－キュウリ－環境調節

担当者 成田元樹、柳内柚香

## I 新技術の解説

### 1 要旨

夏秋雨よけキュウリでは、収量低下防止や労働環境改善のため高温対策が行われているが、各対策だけでは不十分である。そこで、ミストと遮光の併用を検討した結果、ミストと高温時期遮光（高温時期のみ遮光資材を常時展張）を併用すると減収するが、ミストと日射制御型遮光（設定した日射量以上で自動遮光）を併用すると収量を確保しつつ施設内環境を改善できることが明らかになった。

- (1) ミストと遮光を併用すると(図 1)、ミストのみに比べて施設内平均気温は下がり、35°C以上の積算時間は短くなる。また、31°C以上の暑さ指数(WBGT)の積算時間は少なくなる(表 1)。
- (2) ミストと日射制御型遮光を併用すると、アーチ摘心・つる下ろし栽培いずれの仕立法でもミストのみと同等以上の収量を確保できる(図 2)。
- (3) ミスト装置の資材費は約 31 万円、1 年当たり費用は約 9 万円となる。日射制御型遮光の資材費は約 148 万円、1 年当たり費用は約 24 万円となる(表 2)。
- (4) ミスト導入により病害が多発することはない(データ省略)。

### 2 期待される効果

- (1) 高温下での作業時間が短くなるため、労働環境の改善が期待できる。

### 3 適用範囲

- (1) 夏秋雨よけキュウリ生産者

### 4 普及上の留意点

- (1) アーチ摘心栽培ではミストが葉に直接当たらないよう、アーチ天井部には繁茂させない。
- (2) ミストを拡散させるため、ミストノズルは植物体より 30cm 以上の高さに設置する。
- (3) 葉が濡れた状態が続かないよう、ミストノズルの向きや噴霧間隔、時間設定を調整する。

## II 具体的データ等

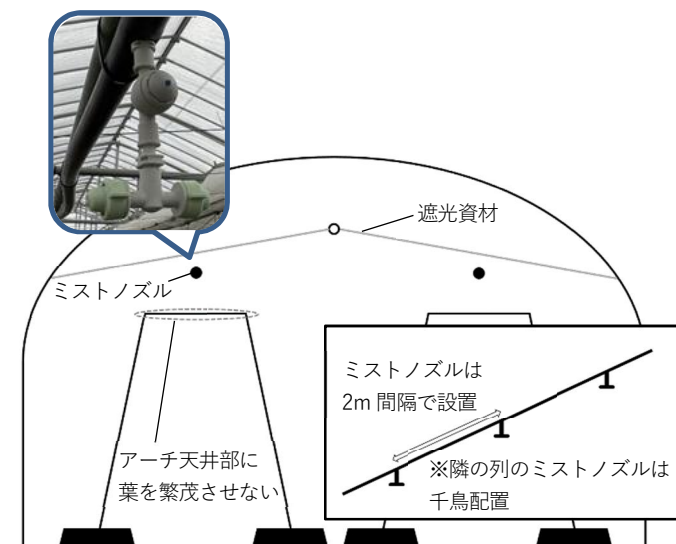


図1 ミストノズルと遮光資材の設置図

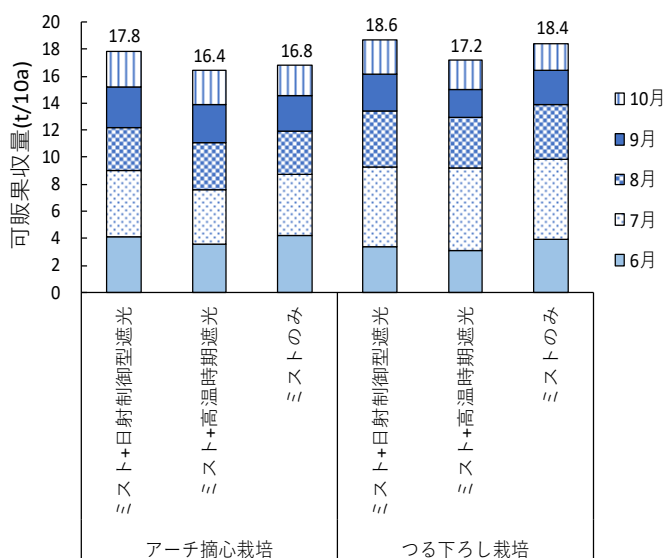


図2 遮光方法の違いが時期別収量に及ぼす影響 (2024年)

※可販果収量は1果100gとして、アーチ摘心栽培は657株/10a、つる下ろし栽培は1052株/10aで算出

## III その他

### 1 執筆者

成田元樹

### 2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和3～7年度

(2) 研究課題名 先端技術を活用した施設野菜・畑作物の省力高収益・出荷管理技術の確立  
〔農林水産分野の先端技術展開事業 (JPJ009997) 〕

本研究は、農林水産省 (令和3年度～令和4年度)・福島国際研究教育機構(F-REI) (令和5年度～令和6年度)の農林水産分野の先端技術展開事業のうち、「現地実証研究委託事業」(JPFR23060107、JPFR24060107)により実施した。

### 3 主な参考文献・資料

(1) 参考成果、夏秋雨よけキュウリの高温対策と収量確保のための遮光資材の設置方法—2020

表1 遮光方法の違いが施設内環境に及ぼす影響(2024年)

区名	施設内平均気温(°C)	35°C以上積算時間(h)	WBGT31°C以上積算時間(h)
ミスト+日射制御型遮光	30.6	2.9	4.3
ミスト+高温時期遮光	30.9	9.2	4.8
ミストのみ	32.1	26.3	6.2

※ミストはクールネットプロ2方向型を用い、30°C以上で6分間隔45秒間(14.7L/時/a)噴霧した。

※遮光はワリフ明涼20(遮光率20%)を用い、日射制御型遮光は、定植後2週間は0.6～0.8kW/m<sup>2</sup>、それ以降は1.0kW/m<sup>2</sup>で遮光資材を閉じる設定とした。高温時期遮光は5/2～6/20、7/25～9/26の期間にハウスの外側に遮光資材を展開した。

※施設内気温及びWBGTは地上高1.5mにセンサーを設置して、7/26～8/20に測定、施設内平均気温は8:00～15:00の平均気温

表2 ミスト装置及び日射制御型遮光の資材費

資材及び使用可能年数	導入費	1年当たり費用
	(円/10a)	(円/10a)
Tヘッド、ADバルブ青、PEパイプ、ディスクフィルター、その他配管(3年)	209,985	69,995
Doバルブセンサーセット、延長センサー(5年)	98,089	19,618
小計	308,074	89,613
カーテン王neo(JKM-S1N1、温度+日射制御タイプ)(7年)	270,000	38,572
カーテン原動機(3相200V)(7年)	211,000	30,143
自動カーテン諸部材費(コーティングワイヤー、カーテン滑車、角パイプ、その他)(7年)	482,150	68,879
自動カーテン諸部材費(ワリフ明涼20、妻スライド、ワイヤークリップ、その他)(5年)	511,350	102,270
小計	1,474,500	239,864
合計	1,782,574	329,477

※3.3aのパイプハウス×3棟での試算

※使用可能年数は法定耐用年数又はメーカー推奨耐用年数

※ミストと日射制御型遮光の併用は、高温対策を行わない場合と比べ、アーチ摘心栽培で525～595千円/10a、つる下ろし栽培で420～700千円/10aの粗収益増と試算される(2022年・2024年の収量と過去5か年(2019～2024年)の平均単価350円/kgを基に計算)。

# 夏季高温期の収穫作業が軽減でき、 翌春の収量が増加するアスパラガスの夏季追加立茎法

福島県農業総合センター 作物園芸部 野菜科

部門名 野菜－アスパラガス－作型・栽培型

担当者 八木田靖司

## I 新技術の解説

### 1 要旨

アスパラガスのハウス半促成栽培では、夏季高温による品質低下や作業環境の悪化が問題となっている。本県オリジナル品種「ふくきたる」2年生から5年生を用い、春どり収穫後の立茎に加え7月中下旬に追加立茎を行う「夏季追加立茎法」(図1)を検討した結果、夏秋どり収量は減少するが、翌春以降は春どり収量が増加し、年間収量は慣行栽培と同程度となることを明らかにした。

- (1) 夏季追加立茎を行う場合は、春季立茎(12本/m)に加え、7月中下旬以降に萌芽した太さ10~12mmの茎を6本/m立茎する。
- (2) 夏秋どりの収穫本数は、夏季追加立茎法では慣行栽培と比べ3割程度減少する(表1)。
- (3) 翌年の春どり収穫期間は、慣行栽培と比べ2週間(3年生)から1か月(5年生)程度長くなる(データ省略)。
- (4) 翌年の春どり収量は慣行区と比べ増加し、夏秋どりと合わせた年間の収量は慣行栽培と同程度となる(図2)。
- (5) 年間の販売金額は、7月中旬に追加立茎を行った場合は421,867円/a、慣行栽培は406,311円/aと試算された(表2)。

### 2 期待される効果

- (1) 夏季に追加立茎を行うことで、夏季高温期の収穫にかかる作業時間を減らせるとともに、単価が高い春に収量を多く確保でき、慣行と同程度の販売金額が期待できる。

### 3 適用範囲

- (1) アスパラガスにおいてハウス半促成栽培に取り組む生産者

### 4 普及上の留意点

- (1) 病害虫の蔓延を防ぐため、春季に立茎した親茎は摘心及び側枝の刈り取りを実施するとともに、追加立茎後も地際から60cm程度までの側枝はとり、ほ場の風通しを良くする。
- (2) 追加立茎後は側枝が込み合うため、薬剤散布時は株全体に薬剤がかかるように注意する。
- (3) 追加立茎する際は、茎が曲がりやすいため注意する。

## II 具体的データ等

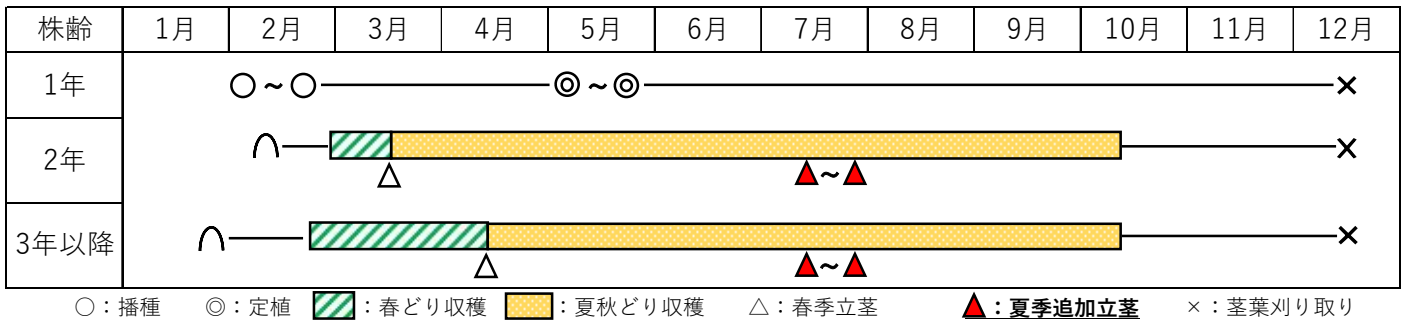


図1 夏季追加立茎法の栽培暦（郡山）

※ 春季立茎（本数12本/m）に加え、7月中旬または下旬以降に新たに萌芽した若茎のうち、10mm~12mm程度の太さの茎を1m当たり6本（株間40cmの場合株当たり3~4本）追加で順次立茎する。立茎後の茎は放任とし、摘心や側枝の刈り取りは行わない。  
 ※ 春季立茎は萌芽に適した若茎が多くなってきた段階で行う。  
 ※ 施肥は地域の慣行に従って行う。

表1 3年生及び4年生の総収穫本数

区	総収穫本数(本/a)					
	3年生			4年生		
	春どり	夏秋どり	計	春どり	夏秋どり	計
7月中旬追加立茎	3,331	6,845	10,176	4,648	9,562	14,210
7月下旬追加立茎	3,526	7,592	11,117	4,831	9,008	13,839
慣行	2,031	10,087	12,119	3,121	13,501	16,622

※規格外品も含む。

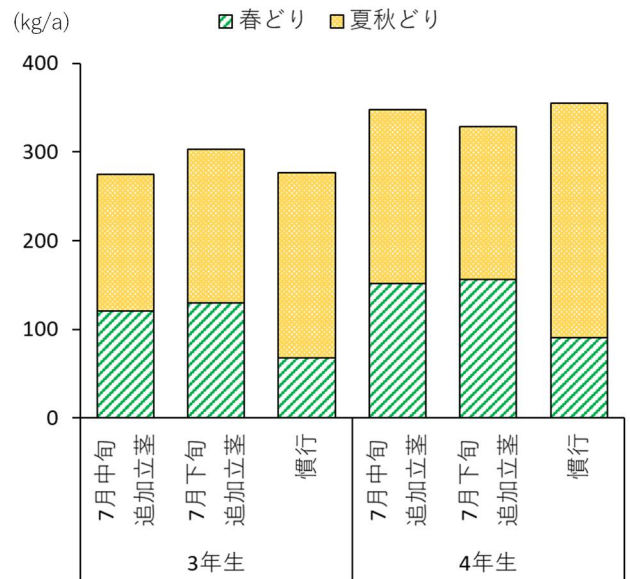


図2 3年生及び4年生の規格内収量

※「福島県青果物標準出荷規格」に基づき、規格内外を選別した。

表2 4年生の年間販売金額試算

区	販売金額試算(円/a)		
	春どり	夏秋どり	計
7月中旬追加立茎	203,150	218,717	421,867
7月下旬追加立茎	206,389	195,284	401,673
慣行	115,251	291,060	406,311

※R2~R6の全農福島月別販売実績の単価で試算した。

## III その他

### 1 執筆者

八木田靖司

### 2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和4~7年度
- (2) 研究課題名 主要野菜の安定生産技術の確立

### 3 主な参考文献・資料

- (1) 「半促成長期どりアスパラガスにおける夏季追加立茎が収量、品質に及ぼす影響」（長崎農林技セ研報 第5号：21~29（2014））

# 2024年の高温条件下でも着色しやすい リンゴ「ふじ」の優良着色系統

## 成果の内容

- 近年の温暖化により、リンゴ「ふじ」では着色不良や果肉硬度の低下、蜜入り不良が見られています。
- 高温条件で経過した2024年の「ふじ」の着色系統について果実品質を調査した結果、「コスモふじ」、「極ふじ」、「宮美ふじ」で着色が優れる傾向が見られました（表、図）。
- 蜜入り指数に大きな差はないものの、「コスモふじ」、「極ふじ」で高い傾向が見られました（表）。

表 「ふじ」着色系統の果実品質の比較（2024年）

系統	台木	収穫盛	果重(g)	縞の有無	アントシアニン含量 ( $\mu\text{g}/\text{cm}^2$ )	蜜入り 指数	硬度 (lbs.)	糖度 ( $^{\circ}$ Brix)
宮美ふじ	M. 26	11月20日	456.8	不明瞭	1.56	1.5	12.8	16.7
極ふじ	M. 26	11月24日	415.6	明瞭	1.60	1.7	12.0	16.0
三島ふじ	マルバ	11月10日	340.0	明瞭	0.92	1.4	12.2	15.7
2001年	マルバ	11月15日	393.1	明瞭	1.23	1.5	13.3	16.8
コスモふじ	マルバ	11月29日	437.4	不明瞭	1.89	1.8	11.5	16.9
普通ふじ	マルバ	11月18日	353.8	明瞭	0.88	1.2	11.6	16.3

※糖度、蜜入りは光センサー計測値



図 収穫果実の比較

## 導入のメリットや留意点等

- 着色系統の導入により「ふじ」の果実品質の向上が期待されます。
- 着色系統は着色開始時期が早いので、早もぎを避け、食味を指標とした適期収穫に努めましょう。

Fukushima Agricultural Technology Centre

令和6年度（参考）

福島県農業総合センター

果樹研究所 栽培科



TEL 024-542-4951

## 果樹

# 高温条件下でも、リンゴ「べにこはく」の収穫適期は11月中旬以降である

## 成果の内容

- 県オリジナルリンゴ品種「べにこはく」は、11月下旬から12月上旬に収穫される晩生品種です。
- 高温で経過した2023年及び2024年でも、糖酸比が高くなり（糖酸比28以上）、十分な着色と蜜入りが確保される収穫適期は11月中旬以降と判断されました。



図1 2024年11月中旬における果皮着色と蜜入り状況

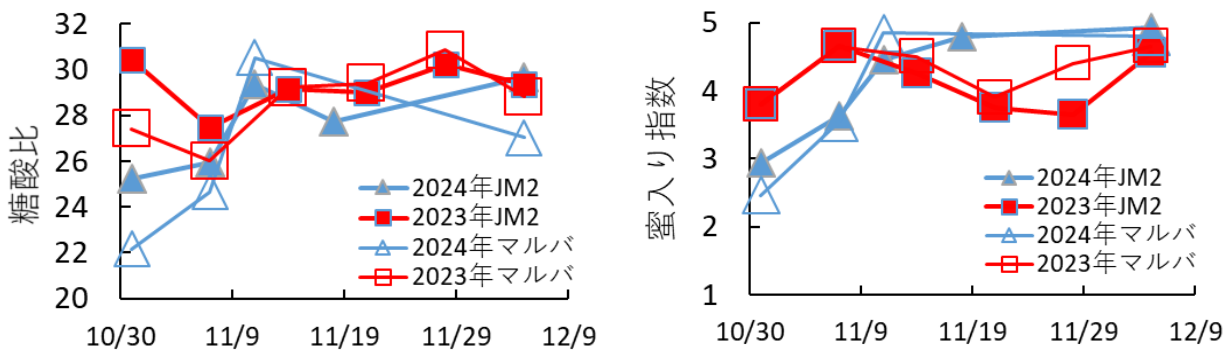


図2 「べにこはく」の糖酸比及び蜜入り指数

## 導入のメリットや留意点等

- 着色が優れているので早獲りにならないように注意し、品質の良い果実の収穫に心がけて下さい。

(活用した事業名 福島県産農産物競争力強化事業)

Fukushima Agricultural Technology Centre

令和6年度(参考)

福島県農業総合センター

果樹研究所 栽培科



TEL 024-542-4951

# 白色化繊布を利用することでリンゴ「ふじ」の日焼け果発生を抑制できる

## 成果の内容

- 白色化繊布（商品名：サンテ®）は、ポリエステル製編物で着脱が容易で繰り返し使用可能な被覆資材です（図1）。
- リンゴ「ふじ」において、果実を白色化繊布で被覆することにより、果実の日焼け発生の抑制効果を確認しました。なお、果実品質については、被覆による影響は見られませんでした（図2、表1）。



図1 白色化繊布

表1 果実品質の比較

品種	処理区	着色度	糖度	酸度	蜜入り
ふじ	試験区	201.9	15.9	0.44	1.57
	慣行区	201.6	15.7	0.43	1.54

※着色度はカラーソーター、糖度、蜜入りは光センサー計測値  
 ※着色度、糖度、酸度は2022～2024年、蜜入りは2023～2024年の平均値

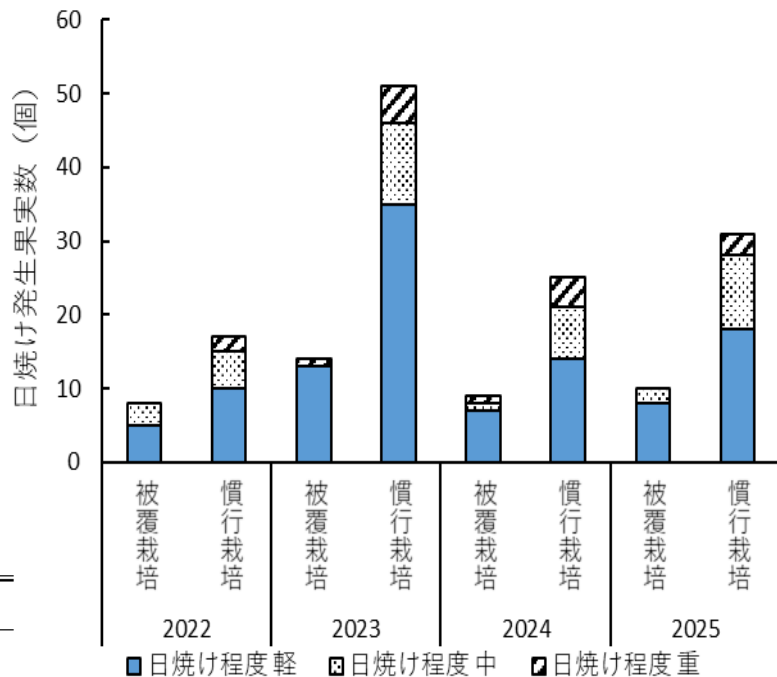


図2 日焼け発生果実数の比較

※各試験区ともに60果調査（2024年のみ果実落果により30果調査）。  
 ※軽：果皮表面が白色、飴色、中：果皮表面がピンク色、重：果皮表面が茶色

## 導入のメリットや留意点等

- 装着時期は仕上げ摘果終了後の7月上旬～果実着色開始期の9月上中旬で、日焼け果実が発生しやすい西～南側の樹冠表面の果実を中心に装着します。
- 収穫まで被覆すると果実着色が劣り、繊維状に着色する場合があるので除袋が必要です。

Fukushima Agricultural Technology Centre

令和7年度（参考）

福島県農業総合センター

果樹研究所 栽培科



TEL 024-542-4951

# ナシ「豊水」における 収穫期直前の高温は地色の抜けに影響し “みつ症”の発生に注意を要する

## 成果の内容

- 近年、夏季の気温が平年と比較して高い年が続いていることから、高温による果実品質への影響を調査したところ、ナシ「豊水」において収穫期直前（満開後 121～140 日）の平均気温が高く推移すると果皮中クロロフィル含量が多くなる傾向が見られた。
- 近年はみつ入り指数が上昇傾向にあり、果皮中クロロフィル含量の低下が少ない年は地色の抜けに日数を要するため、収穫が遅れることにより、みつ症を助長する可能性も考えられる。

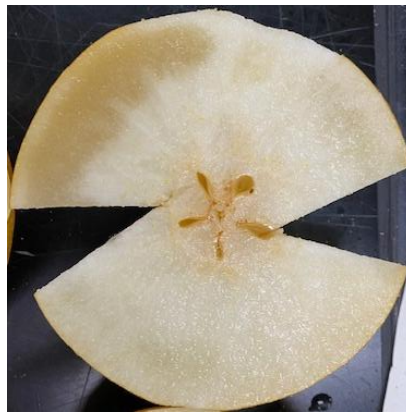


図 1 みつ症重症果

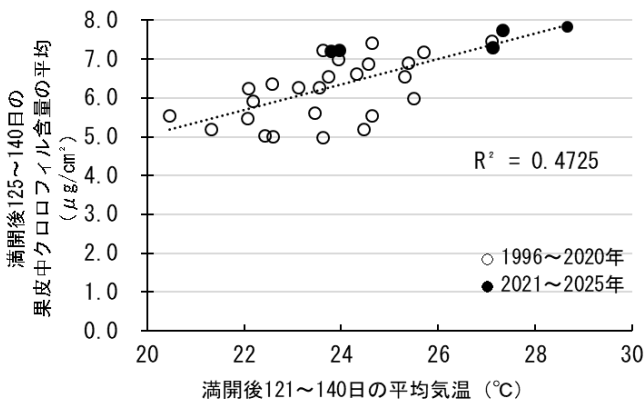


図 2 平均気温と果皮中クロロフィル含量の関係

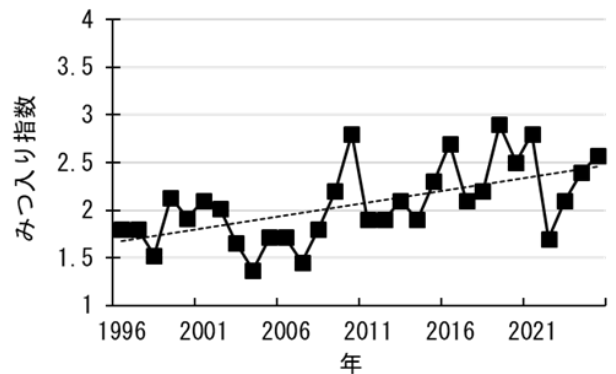


図 3 収穫果のみつ入り指数の推移  
注) みつ入り指数は 1(軽度)～4(重度)

## 導入のメリットや留意点等

- 収穫前には食味や品質をよく確認し、適期収穫に努める必要がある。

# ブドウ盛土式根圏制御栽培における遮光の影響

## 成果の内容

- 盛土式根圏制御栽培ブドウ「シャインマスカット」において、遮光率の異なる遮光資材を用いてハウス内の環境条件を確認したところ、50%遮光は、30%遮光に比べハウス内温度の上昇を抑制し、葉焼けの発生も軽減できました（図1、表1）。
- 果実品質は、50%遮光は30%遮光より、果皮色及び糖度で有意差があり、成熟が遅延する可能性があります（表2）。

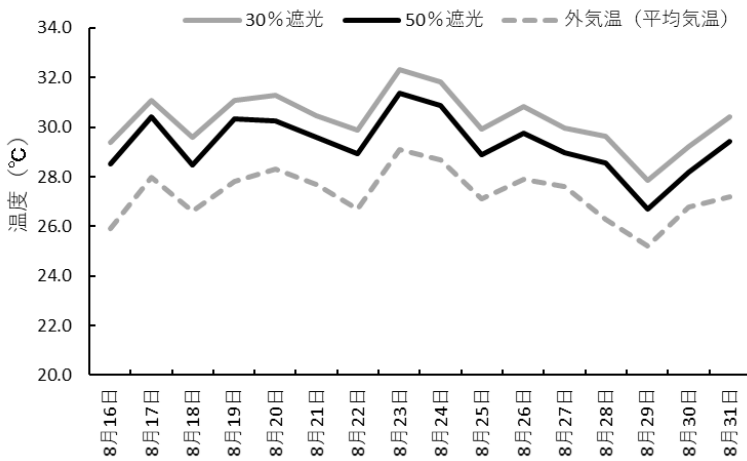


図1 試験区の平均気温の比較

表1 葉焼け発生率調査結果

調査時期	葉焼け率 (%)		
	30%遮光	50%遮光	有意性
遮光前	3.0	8.2	**
遮光後	3.3	4.1	n.s.
有意性	n.s.	*	

注) t検定により\*は5%水準、\*\*は1%水準で有意差あり。

表2 果実品質

遮光率	粒重 (g)	果皮色 (カラーチャート値)	糖度 (°Brix)
30%遮光	4.5	3.7	17.4
50%遮光	4.6	2.3	16.0
有意性	n.s.	*	*

注) t検定により\*は5%水準で有意差あり。

注) 満開日:6月4日、収穫日:8月20日

## 導入のメリットや留意点等

- 葉焼けの発生は土壌水分の影響も受けるため、葉焼けの発生防止には適切な土壌水分管理も必要です。

(活用した事業名 育成センサーの開発と日本のスマート農業の創出 [「福島国際研究教育機構における農林水産研究の推進」委託事業] (JPFR25020102))

# シュッコンカスミソウ栽培の UV カットフィルム 被覆によるアザミウマ類侵入の抑制効果

福島県農業総合センター 作物園芸部 花き科

## 1 部門名

花き一カスミソウー生理・生態

## 2 担当者名

熊坂京

## 3 要旨

シュッコンカスミソウ栽培における微細害虫類の侵入対策として、屋根に UV カット農 PO フィルムを被覆した結果、アザミウマ類の飛込み数は通常の農 PO フィルムと比較して減少し、アザミウマ類の侵入抑制に効果があることを明らかにした。

- (1) 「ベールスターγ」を令和7年7月4日に2.5号ポリポットへ仮植を行い、7月25日に株間40cm×条間30cmの2条千鳥植えで農業総合センター内のほ場（郡山市）に定植した。また、8月4日に切り戻し摘心を行い、4本/株仕立てとした。
- (2) ハウスには目合い3.6mmの防虫ネット（商品名：サンサンはちネット（白色））を設置し、各畝に3箇所、2m間隔に青色の粘着トラップを設置した。アザミウマ類の飛び込み数は、トラップで誘殺されたアザミウマ類を計数した結果であり、トラップは約10日毎に交換した（表1）。
- (3) 本試験では、品質への影響は見られなかったが、品種や作型によっては節間の伸長に伴い、品質が低下する可能性がある（図1）。

表1 フィルムの違いによる切り花品質及びアザミウマ類誘引数

被覆フィルム	平均採花日 (月/日)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	節数 (節)	茎長 (cm)	節間長 <sup>3)</sup> (cm)	茎径 (mm)	茎の硬さ <sup>4)</sup>	アザミウマ類 誘引数 <sup>5)</sup> (頭)
UVカットフィルム <sup>1)</sup>	10月1日	76.6	116.5	18.6	72.4	3.89	5.78	1.8	10.6
慣行フィルム <sup>2)</sup>	10月2日	70.5	95.3	18.5	67.8	3.67	5.41	2.0	29.9

1)商品名：ダイヤスターUVカット 厚み0.15mm 2)商品名：ダイヤスター 厚み0.15mm

各区 n=80 反復なし

3)算出方法：茎長/節数

4)手に持って縦に振り茎のしなり具合によって判断した。

硬：2 普：1 軟：0 の3段階評価

5)調査期間：8月4日～10月9日

約0.5aのハウス内に計6枚設置した粘着トラップの1枚当たりの平均誘殺計数。

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和7年度
- (2) 研究課題名 気候変動に対応した生産技術の確立

## 5 主な参考文献・資料 なし



図1 各屋根フィルムの切り花の様子  
(左：UV カット 右：慣行)

# トルコギキョウの作型適応処理（秋出荷作型）は 15°Cでも可能

福島県農業総合センター 作物園芸部 花き科

## 1 部門名

花き－トルコギキョウ－生育調整

## 2 担当者名

鈴木洋平、北村蒼史、福田秀之、熊坂京、山口繁雄

## 3 要旨

トルコギキョウの秋出荷作型において、本葉2対葉程度まで育苗した苗を作型適応処理(20°C、20時間明期条件、3週間)することで、切り花長が増加し切り花品質が向上するが、20°C設定が可能な育苗装置は一般的に普及していないため、処理条件の拡大が必要であった。

そこで、一般的に利用されている農業用保冷庫等で設定可能な15°Cでの作型適応処理の効果を調査し、20°C処理と同等以上の切り花品質向上効果が得られることを明らかにした。

- (1) 種子冷蔵後、本葉2対程度に育苗した苗を15°Cに設定した保冷庫に入れ、20時間明期条件で3週間処理する。照明は、昼白色蛍光灯型LEDを苗上約30cmから照射し、給水は液肥(N濃度50ppm)の底面給水により管理した(図1)。
- (2) 7月中旬～8月上旬に定植する作型において、中生、中晩生品種を15°Cで作型適応処理することで、20°C処理と同等以上に切り花長が増加した(図2)。
- (3) 15°C処理では、定植直後に葉焼けが生じる場合があるため、屋外の気温に応じて順化等を行う。また、開花時期が20°C処理と比較して数日程度遅れる傾向がある(データ省略)。



図1 作型適応処理の様子

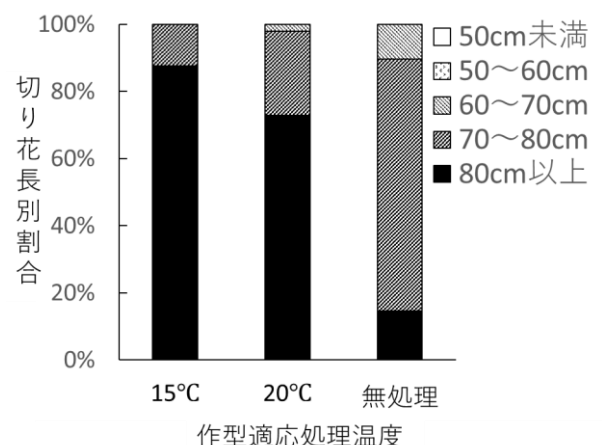


図2 作型適応処理温度による切り花長別割合の違い(2025年7月中旬定植「ハピネスホワイト」)

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3～7年度
- (2) 研究課題名 花きの安定生産・計画出荷技術の実証〔農林水産分野の先端技術展開事業〕  
「社会実装促進業務」(JPFR25060110)

## 5 主な参考文献・資料

- (1) トルコギキョウ作型適応苗の育成方法 農業総合センター p.2-13, 2021.

# 近年新たに販売された 8 月咲き小ギク品種の 電照による開花抑制効果と高温開花遅延の程度

福島県農業総合センター 作物園芸部 花き科

## 1 部門名

花き－キク－生育調節

## 2 担当者名

高田真美

## 3 要旨

夏秋ギクでは需要期への安定生産を図るために露地電照栽培による開花調節技術が確立されている。しかし、消灯後の高温遭遇による開花遅延がみられており、開花期の安定には高温の影響を受けにくい品種を導入する必要がある。そこで、近年販売された 8 月咲き小ギク品種の電照による開花抑制効果（電照効果）と高温開花遅延程度を明らかにした。

- (1) 電照効果が高い品種は、「精こうめ」「秀あさみ」「精かなん」「精こまき」「精しはく」「精しらあや」「精しらたき」「精しゆう」「精てんせい」である（表 1）。
- (2) 高温開花遅延が起りにくい品種は、「精しはく」である（表 2）。

表 1 8 月中旬まで電照を継続した場合の 10% 発蕾日、無電照栽培での開花日、消灯後開花日数

花色	品種名	電照継続(～8/中)での 10% 発蕾日			無電照栽培での開花日			電照効果	(参考) 到花日数 ± 標準偏差	
		2024年	2025年	評価 <sup>1)</sup>	2024年	2025年	評価 <sup>2)</sup>		2024年	2025年
赤	精こうめ	7/10	7/18	○	6/25	7/2	○	—	50 ± 3	55 ± 2
赤	秀あさみ	—	7/11	○	—	7/19	○	—	—	56 ± 2
黄	精かなん	—	7/18	○	—	7/10	○	—	—	57 ± 2
黄	精こまき	未発蕾	7/24	○	6/29	7/9	○	—	58 ± 3	66 ± 2
白	精しはく	7/12	7/23	○	7/1	7/13	○	高い	50 ± 3	54 ± 2
白	精しらあや	—	7/8	○	—	7/18	○	—	—	49 ± 2
白	精しらたき	未発蕾	7/19	○	7/1	7/11	○	—	49 ± 2	54 ± 2
白	精しゆう	7/6	—	○	7/12	—	○	—	54 ± 3	—
白	精てんせい	未発蕾	—	○	7/2	—	○	—	66 ± 3	—
赤	精ひさな	7/15	7/24	○	7/9	7/24	△	やや	53 ± 2	59 ± 2
黄	精なつか	—	7/29	○	—	7/22	△	高い	—	56 ± 4
赤	精ゆつき	6/26	—	×	7/5	—	○	やや	47 ± 3	—
黄	精はぎの	未発蕾	8/12	○	7/9	8/3	×	低い	54 ± 2	63 ± 4

—は供試なし 試験場所 福島県郡山市

電照方法 電照時間：23：00～4：00、資材：赤色LED電球(商品名：エコノライトNAG)

1) 評価基準 ○：十分に発蕾を抑制(7月上旬以降)、×：発蕾の抑制がやや弱い(6月下旬)

2) 評価基準 ○：需要期(7月下旬～8月上旬)より前に開花、△：需要期(7月下旬)に開花、×：需要期(8月上旬)に開花  
※到花日数は、各消灯日(6/5, 10, 15, 20)の到花日数の平均値

表 2 高温開花遅延日数(日)

花色	品種名	高温開花遅延日数	
		2024年	2025年
赤	精こうめ	31	11
	精ひさな	23	7
	精ゆつき	17	—
黄	精こまき	40	22
	精はぎの	35	27
白	精しはく	13	12
	精しらたき	22	15
	精しゆう	30	—
	精てんせい	55 <	—

—は供試なし

※高温開花遅延日数は、露地条件と高温条件での開花日の差。高温条件は、施設において消灯前23°C、消灯後30°C換気で管理した(消灯後の平均気温(6/11～8/20)は2024年では25.2°C(露地)、28.5°C(高温)、2025年では25.8°C(露地)、28.9°C(高温))。実際に高温年に開花が遅れる日数ではない。遅延日数が小さいほど高温開花遅延が起りにくく、毎年の開花期が変わりにくい品種である。

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 6～7 年度
- (2) 研究課題名 花きの計画的安定生産技術の実証〔福島国際研究教育機構:農林水産分野の先端技術展開事業「社会実装促進業務」〕(JPFR25060110)

## 5 主な参考文献・資料

- (1) 鈴木ら, 計画的な生産・出荷のための夏秋ギク栽培技術マニュアル | 露地電照栽培等による計画生産編(JPFR25060110)

## 県内の主要農業関係ダムの貯水状況

令和8年7月2日

福島県農地管理課

ダム名	所在市町村	管理受託者等	今回(7/1)調査		前回(6/15)調査		平年貯水率③ ※1	今回調査－ 前回調査 (ポイント) (④－①)	備考
			貯水率①	平年比 (①/③) ※1	貯水率④	平年(6/15)比			
岳ダム	二本松市	二本松市	99.4%	125.7%	94.5%	102.4%	79.1%	4.9	
藤倉ダム	桑折町	伊達西根堰土地改良区	100.0%	121.8%	98.7%	108.7%	82.1%	1.3	
山ノ入ダム	二本松市	二本松市	83.4%	113.8%	84.9%	108.6%	73.3%	▲ 1.5	
三ツ森ダム	大玉村	大玉土地改良区	100.0%	100.5%	95.6%	96.2%	99.5%	4.4	
半田沼	桑折町	桑折町	66.6%	94.3%	60.1%	81.9%	70.6%	6.5	
千五沢ダム	石川町	(県)千五沢ダム管理事務所	79.7%	96.3%	78.0%	90.8%	82.8%	1.7	※2
藤沼ダム	須賀川市	江花川沿岸土地改良区	70.5%	97.4%	63.1%	88.0%	72.4%	7.4	
深田調整池	郡山市	安積疏水土地改良区	47.8%	90.5%	33.8%	66.1%	52.8%	14.0	※3
金沢調整池	郡山市	郡山市東部土地改良区	86.3%	107.1%	77.3%	98.5%	80.6%	9.0	※3
西郷ダム	西郷村	阿武隈川上流土地改良区	59.7%	92.6%	51.3%	71.9%	64.5%	8.4	
犬神ダム	白河市	社川沿岸土地改良区	60.7%	102.7%	69.3%	114.9%	59.1%	▲ 8.6	
赤坂ダム	西郷村	西郷村土地改良区	97.8%	106.4%	95.6%	103.2%	91.9%	2.2	
羽鳥ダム	天栄村	(国)阿武隈土地改良調査管理事務所	37.9%	66.0%	46.8%	67.0%	57.4%	▲ 8.9	
大平沼	喜多方市	会津北部土地改良区	99.2%	112.6%	90.9%	101.1%	88.1%	8.3	
大深沢調整池	喜多方市	雄国山麓土地改良区	56.2%	129.5%	25.7%	68.9%	43.4%	30.5	※3
新宮川ダム	会津美里町	(県)新宮川ダム管理事務所	48.8%	74.5%	57.3%	78.7%	65.5%	▲ 8.5	
関柴ダム	喜多方市	会津北部土地改良区	99.5%	107.6%	90.5%	96.8%	92.5%	9.0	
吉ヶ平ダム	会津若松市	会津若松市湊土地改良区	44.7%	89.8%	51.0%	86.1%	49.8%	▲ 6.3	
日中ダム	喜多方市	(県)大峠・日中総合管理事務所	100.0%	106.5%	100.0%	100.1%	93.9%	0.0	※2
松ヶ房ダム	相馬市	相馬市	86.8%	137.6%	85.0%	132.0%	63.1%	1.8	
高の倉ダム	南相馬市	南相馬市	61.7%	133.0%	53.6%	106.6%	46.4%	8.1	
横川ダム	南相馬市	南相馬市	57.0%	117.0%	50.4%	90.5%	48.7%	6.6	※2
大柿ダム	浪江町	(県)大柿ダム管理事務所	49.3%	－	45.7%	－	－	3.6	※4
鴻の巣ダム	新地町	新地町	46.5%	132.9%	40.4%	110.7%	35.0%	6.1	
滝川ダム	富岡町	富岡町	100.0%	－	100.0%	－	－	0.0	※4
千軒平溜池	いわき市	千軒平溜池土地改良区	100.0%	106.7%	100.0%	114.9%	93.7%	0.0	
新池	いわき市	白岩区	100.0%	108.2%	100.0%	105.5%	92.4%	0.0	
県平均			① 63.4%	② 97.1%	④ 63.3%	88.7%	③ 65.3%	0.1	

・貯水状況については、かんがい用水分の貯水率を表示しています。

※1 「平年比」は、過去5年間(R3～R7)の8月1日の数値をベースに算出しています。

※2 多目的ダムです。

※3 湖水を水源とする調整池であり、降雨に関係なく水位が変動します。

※4 今年度から計測開始

1. 国事業名	水利施設管理強化事業 「特別型」 (渇水・高温対策)	農業水路等 長寿命化・防災減災事業		多面的機能支払交付金 -	農地耕作条件改善事業 -	
		長寿命化対策 (ア)水利施設整備	防災減災対策 (イ)利活用保全			
2. 揚水機に係る補助対象						
購入費用	○	○	○	△(※3)	○(※4)	
リース費用	○	×	×	○	×	
設置費用	○	○	○	○	○(※4)	
運転費用(電気代、燃料代、人件費)	○	×	×	○	×	
3. 水源確保(井戸設置)にかかる補助対象						
井戸設置費用	○	×	○	×	○	
4. 実施要件						
受益面積	-	-	-	-	-	
事業費	-	200万円以上	200万円以上	-	200万円以上	
受益者数	-	2者以上	2者以上	-	2者以上	
事業工期	-	3年以内	3年以内	-	-	
その他	<p>農業水利施設(一般型・連携管理保全型の対象となるものを除く)の渇水・高温対策計画による取組に対する支援。 採択申請に渇水・高温対策計画を添付する必要。 <u>緊急の対応が必要な場合に限り、渇水・高温対策計画を添付した事業採択申請書及び交付決定前着手届を提出する。</u> 事業の申請について、緊急の対応が必要な場合とは、 <u>①当該年度における当該地域又は水源地域の連続干天日数(日雨量5mm未満)が20日以上又は30日間の総雨量が100mm以下となったことがあること。</u> <u>②渇水に係る情報連絡会を設置し対策に取り組むなど、都道府県が特に必要と認める場合のこと。</u></p> <p>その他の活用例 ・番水等対応の人件費 ・対策に係る研修会費</p>	<p>長寿命化・防災減災計画を策定する必要。 渇水対策施設の単独整備は不可(長寿命化対策と併せて一体的に行う渇水対策施設の整備が可能)。</p>	<p>長寿命化・防災減災計画を策定する必要。 渇水対策施設の単独整備が可能であり、以下の要件を満たすものを対象とする。 (ア)事業により整備した施設の適正な維持管理が行われると認められること。 (イ)次のいずれかに該当する地域における施設整備であること。 ①直近10年間に、当該地域が属する水系における水利調整を行う組織の決定等により、一定期間の取水量の減量等を行ったことがあること。 ②直近10年間に、他種利水者等関係機関からの申入れ等を踏まえ、渇水調整に係る活動を行ったことがあること。 ③直近10年間に、当該地域又は水源地域の連続干天日数(日雨量5mm未満)が20日以上又は30日間の総雨量が100mm以下となったことがあること。 ④渇水に係る情報連絡会を設置し対策に取り組むなど、都道府県が特に必要と認めること。</p>	<p>番水等の節水に係る排水管理や、排水路やため池の底水等からの用水確保を行うための仮設ポンプ設置・運転等に係る経費に支出可能。 さらに、甚大な自然災害に当たる場合、渇水・高温対策に本交付金を重点的に活用することが可能。これにより、計画していた活動が実施出来ず活動要件を満たすことが困難となった場合は、特例措置を適用したことを事後報告することで、交付金の返還が免除。</p>	<p>以下の要件を満たすものが対象とする。 ①地域計画に位置づけられた農地が対象。 ②農地中間管理機構との連携概要を作成し、機構との連携を行うこと。 ③農地耕作条件改善計画を作成すること。</p>	
5. 事業実施主体	市町村	都道府県、市町村、土地改良区 その他の農業者等の組織する団体	農業者等の組織する団体 (市町村を經由)	農地中間管理機構、都道府県、市町村、土地改良区、農業協同組合、農業法人		
6. 負担割合	都道府県営事業(%)					
	国	-	50(55)	50(55)	-	50(55)
	都道府県	-	31(30)	29	-	14
	その他	-	19(15)	21(16)	-	36(31)
	市町村営事業(%)					
	国	50	50(55)	50(55)	-	50(55)
	都道府県	25	14	18	-	14
その他	25	36(31)	32(27)	-	36(31)	
土地改良区等営事業(%)						
国	-	50(55)	50(55)	-	50(55)	
都道府県	-	14	18	-	14	
その他	-	36(31)	32(27)	-	36(31)	
7. 福島県 担当主務課	農地管理課	農村計画課・農村基盤整備課・農地管理課	農村振興課	農村振興課		

※1 揚水機には可搬式ポンプ、仮設ポンプを含む

※2 負担割合欄の括弧書きは6法指定地域の負担割合。

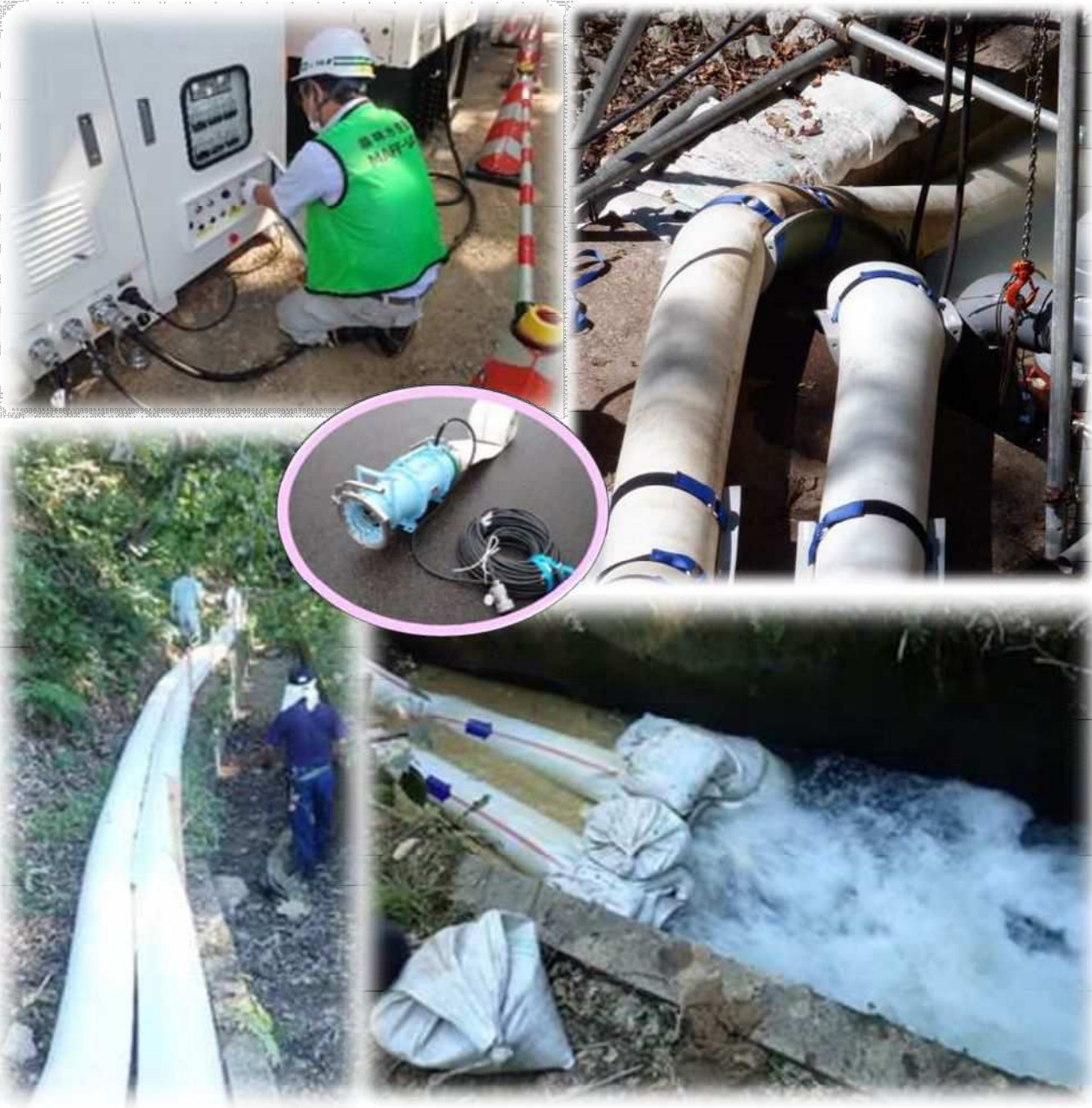
※3 多面的機能支払交付金での揚水機購入(上記△)：リース費用との経済比較及び活動組織内での合意形成により購入は可能。

(ただし、購入した場合は、多面交付金の活動のみでの使用となり、且つ、財産管理が必要になることから購入にあたっては慎重な検討が必要。)

※4 共同で農業者が利用する固定式ポンプが対象となる。移動式ポンプ等は個人のものになりやすく共同利用の確認が難しいため、対象とならない。

2026 年

# 災害応急用ポンプ設備の利用手引き



東北農政局 農村振興部  
東北農政局土地改良技術事務所

# I. 災害応急用ポンプ設備の利用

## 1. 適用範囲

土地改良技術事務所では、集中豪雨時の農地湛水排除や干ばつ時の用水補給などの緊急時に対応するため、災害応急用ポンプ設備（以下「応急ポンプ」という。）を保有・管理しています。

利用者は、表1に示す用途に応じて利用することが出来ます。（農林水産省所管に属する物品の無償貸付及び譲与等に関する省令 第二条）

【表1. 応急ポンプの適用区分】

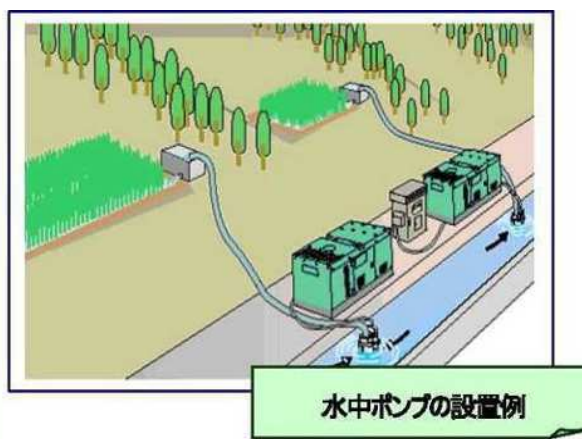
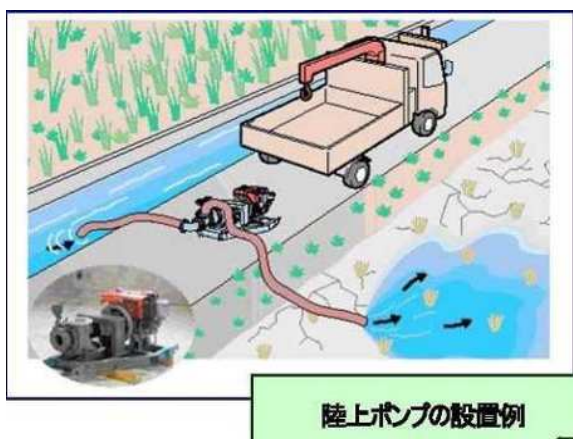
目的	利用対象者	備考
災害応急対策及び干ばつ時などの用水補給に使用する。	災害の応急復旧などを行う者。	災害とは、自然災害（豪雨・長雨・干ばつ・地震など）・事故・人災をいう。災害による被害は、実際に受けた時のほか、被害を受ける恐れがある場合も含む。
農林水産省所掌事業に関する工事に使用する。	当該工事を行う者。	農林水産省所掌事業に関する工事には土地改良事業を含む。
教育・試験・研究に関して使用する。	地方公共団体、その他適当と認められる者。	適当と認められる者には、土地改良区、土地改良区連合、農業協同組合又は農業協同組合連合会を含む。

◎ 利用対象者は、該当する各種法人や団体に限られ、個人での利用はご遠慮いただいております

## 2. 経費について

応急ポンプの使用料は無料ですが、（農林水産省所管に属する物品の無償貸付及び譲与等に関する省令 第二条）、応急ポンプの運搬、据付・撤去・運転・管理（整備、燃料、消耗品等にかかる経費、修理）は利用者（借受者）の自己負担となります。

ただし、大規模災害等での利用の場合には運搬・据付・撤去及び修理にかかる費用については無償となる場合があります。（農林水産省所管に属する物品の無償貸付及び譲与等に関する省令 第四条）



## Ⅱ. 貸付手続き

土地改良技術事務所で所有・管理する応急ポンプは「Ⅲ. 保有ポンプ一覧表」に掲載しております。この中から、希望するポンプの種類（口径等）、台数等を決め、下記問い合わせ先まで、ご連絡下さい。利用目的が制度上適当か、希望するポンプが貸出可能な状況か等の確認を行います。適当と認められる場合は、借受申請書を提出して頂き手続きを開始します。

### 1. 問い合わせ先

#### (1) 平日（通常時）の問い合わせ先

担当：東北農政局土地改良技術事務所 防災・災害対策技術課

TEL：022-295-5544（代表）

022-295-5545（直通）

FAX：022-297-6637

※ 就業時間は平日の8：30～17：15です。

#### (2) 緊急時（夜間及び閉庁時（土・日曜日、祝祭日））の連絡先

担当：東北農政局土地改良技術事務所

防災・災害対策技術課長

携帯① 080-5734-5291

災害対策技術係長

携帯② 080-5734-5290

※携帯①が不在の場合は②におかけ下さい。番号は連絡の順位を示します。

### 2. 借受等に必要な書類

借受等に必要各書類の様式及び記載例は、下記アドレスの東北農政局ホームページからダウンロード出来ます。

(<https://www.maff.go.jp/tohoku/nouson/kokuei/totikai/pump/index.html>)

# 農作業中の熱中症に注意

県内では毎年5月上旬から農作業中の熱中症が発生しています。  
熱中症を正しく理解し、予防に努めてください。

## 県内の農作業中の熱中症救急搬送状況（令和5年～令和7年）

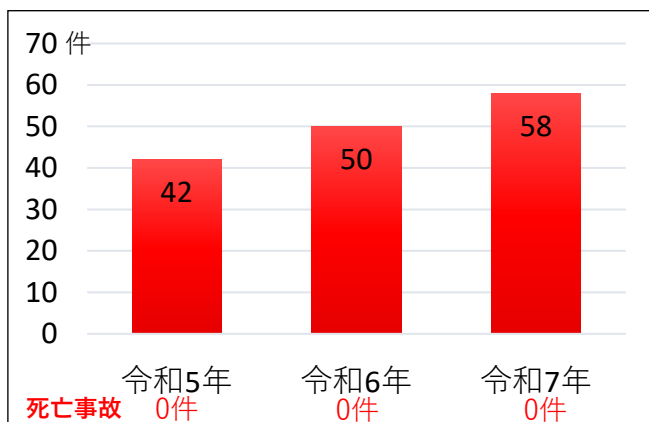


図1 年度別の熱中症救急搬送確定値  
※農作業死亡事故件数については農業担い手課調べ

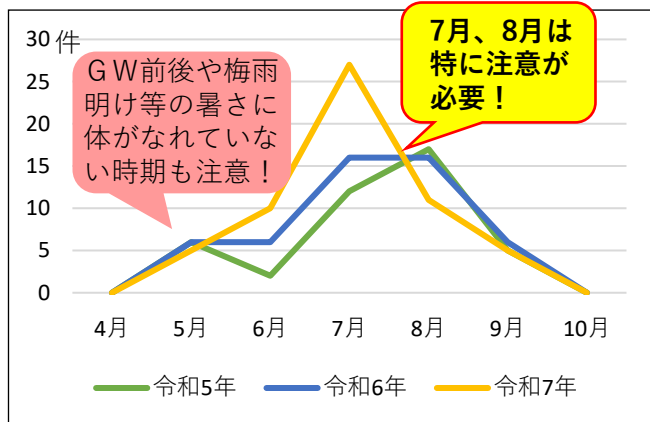


図2 月別の熱中症救急搬送確定値

出典：福島県消防保安課 熱中症救急搬送確定値（仕事場（農地等））

## 農作業中の熱中症対策チェック

- ✓ 高温時や体調がすぐれない時は作業は避けましょう
- ✓ 単独作業は避けましょう
- ✓ 1人で作業を行う時は家族や周囲の人に伝えましょう
- ✓ 20分おきに休憩&水分補給をしましょう
- ✓ 暑熱対策グッズ（帽子、ファン付作業服等）を活用しましょう

**！ 暑さの感じ方は人にとって異なります！ 高齢者は特に注意が必要です！**

- ・ 高齢者は、暑さや水分不足に対する感覚機能が低下し、暑さに対する身体の調整機能も低下しています。
- ・ 自分の体調の変化に気をつけ、暑さの抵抗力に合わせて、万全の予防を心がけましょう。



※農林水産省の調査（平成26年～令和5年）によると、農作業中の熱中症による死亡者の約9割が**70歳以上の高齢者**となっています。

### ◆メールサービスで熱中症警戒アラートを受け取ろう！

環境省が発表する熱中症特別警戒アラートを、メールで配信するサービスが、右記よりご利用になれます。



PC、スマートフォン フィーチャーフォン

**福島県農作業安全運動展開中！**

発行：福島県農作業安全運動推進本部

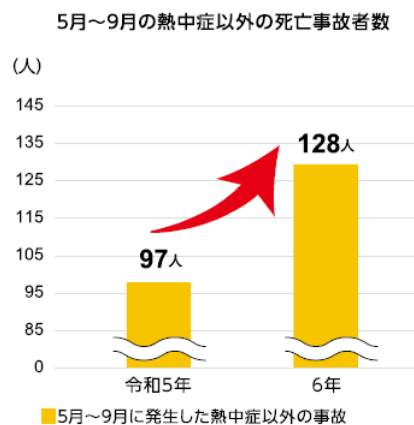
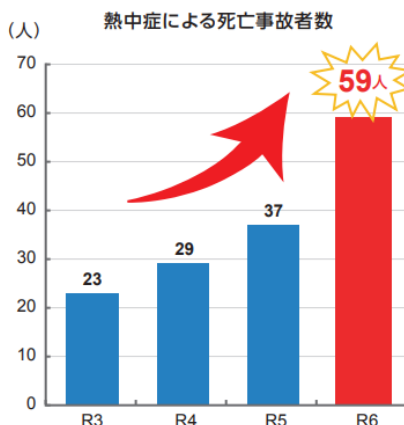


# 農作業における 熱中症等対策研修資料

簡易版

**夏季の農作業中の死亡事故が急増しています！**  
4月1日～6月30日は熱中症等対策研修強化期間です。  
正しい安全知識を学び、暑さから命を守りましょう。

- 近年、農作業中の**熱中症等**による死亡者が増加しています。
- また、令和6年の5月～9月は、熱中症以外にも高所からの転落や草刈り作業中等の事故が増加しています。**夏場の高温**による疲れなどが、事故の発生に影響しています



## 熱中症対策① 休憩、水分・塩分補給と対策アイテム

休憩時には、

水分・塩分補給をしましょう

- こまめに休憩、水分・塩分補給しましょう。
- 水分補給には、カフェインが含まれていない水や麦茶が適当です。大量に汗をかいた後は、塩分・糖分を含むスポーツドリンクが最適です。
- 経口補水液は、熱中症の初期症状が出た際には、経口補水液が効果は高いですが、常用することはやめましょう。



体温上昇を防ぐ



ファン付きウェア

身体に風を吹き込み、気化熱で涼しい



冷却ベスト

保冷剤などで身体を直接冷やす。ファン付きウェアの組合せも◎

自身の体調を知る



ウェアラブル端末

深部体温や体温の水分バランスを計測し、休憩や水分補給のタイミングをお知らせ

休憩方法を改善する



シェード付きチェア

日陰での休憩で、熱中症リスクを低減



ドリンク ミスト

ステンレスボトル

ミスト噴射機能付きで、休憩時間にリフレッシュ

何かあったときに備える



救急セット

経口補水液や冷却グッズ、きれいな水など一式を準備

位置情報共有アプリ

意識が朦朧としたときの詮索に有効

## 熱中症対策② 農作業の省力化・軽労化

熱中症等の夏の農作業事故リスクを低減するためには農作業を省力化・軽労化することが有効です。スマート農業技術や農業サービス事業者の活用等を検討しましょう。

ドローンサービスによる  
農業散布・追肥



高軒高ハウス



遠隔操作による  
かん水ポンプの  
起動



自動草刈機



収穫機



省力樹形への転換

このような取組を進めるために、以下の事業も活用可能ですのでご検討ください。

スマート農業・農業支援サービス事業  
加速化総合対策事業

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/service.html>



スマート農業・農業支援サービス事業  
導入総合サポート事業

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/sunaten.html>



グリーンな生産体系加速化事業

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/green/index.html>



## 熱中症かなと思ったときの応急処置

少しでもおかしいと思ったら、無理せず休むことが重要です。

### 軽症のとき

めまい  
立ちくらみ  
手足がつかる  
こむら返り

- 涼しい環境へ避難しましょう。
- 服をゆるめて風通しをよくしましょう。
- 水をかけたり、扇いだりして体を冷やしましょう。
- 水分・塩分を補給しましょう。



### 中等症以上のとき

頭痛  
嘔吐  
倦怠感  
虚脱感  
集中力や判断力の低下

### 躊躇しないで、救急車を呼ぶ

救急車が到着するまでの間、作業着を脱がせ全身を急速冷却しましょう



熱中症は救急車到着までの応急手当が運命を左右します  
対応を誤ると取り返しがつかないこととなります

研修お疲れ様でした！ このほか、農作業安全対策に関する資料をまとめている  
農林水産省のHPを是非ご確認ください。

また、研修資料の感想について、アンケートの御協力をお願いします



農林水産省HP



アンケート

7月1日～9月30日 熱中症等対策声かけ期間

—キャッチフレーズ—

“いのちをうばう、夏のひとり作業”

農作業中の熱中症死亡事故の多くは1人作業で発生しています。  
大切な人の命を守るため、家族や地域で声をかけあいましょう！

農家への対策等の周知方法について

農林事務所 普及部・所	農家への対策等の周知方法について
<p>県北 農業振興普及部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ J A 及び農業振興普及部主催の現地指導会、個別巡回、関係機関との担当者定例会議、 J A 発行防除情報等で夏季高温対策として上記管理等について周知する。</li> </ul>
<p>伊達 農業普及所</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高温対策資料の作成・配布と、指導会での啓発</li> <li>・ JA ホームページ等での周知・啓発</li> <li>・ 病虫害防除情報等の作成・配布</li> </ul>
<p>安達 農業普及所</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水稻は、土地改良区や JA 営農担当職員を通じた番水の徹底を必要に応じて実施する。</li> <li>・ 大豆は、高温対策資料を作成し、農家への直接配布及び JA 営農指導員を通じて周知する。</li> <li>・ 野菜は、指導会や巡回の際の声掛けの他、高温対策資料を作成し、農家への直接配布及び JA 営農指導員を通じて周知する。</li> <li>・ 果樹は、指導会等の際の声掛けや高温対策資料の配布等で周知する。</li> <li>・ 花きは巡回や指導会等における声掛けや対策資料の配布等で周知する。</li> </ul>
<p>県中 農業振興普及部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (作物、野菜、果樹) 個別巡回、指導会、技術情報の発行を通じて技術対策を周知</li> <li>・ (花き) 個別巡回、技術資料(トルコギキョウ通信)の発行による高温対策技術の周知及び開花調整ピンチ技術の研修会実施</li> </ul>
<p>須賀川 農業普及所</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普及所の HP に技術情報を掲載、指導会等や巡回時に技術情報等を配布、営農指導員への防除情報の共有、JA 夢みなみ LINE での特別散布の周知</li> </ul>
<p>田村 農業普及所</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水稻については、技術情報誌(稲作情報)へ高温対策を掲載して、毎月1回発行し、稲作農家へ配布する(4~8月、各12,000部、普及所HPへも掲載)。</li> <li>・ 野菜は、指導会、巡回を通して少量多回数かん水、遮光遮熱資材の重要性を周知する。</li> <li>・ 果樹についても、指導会や巡回指導を通じ、かん水の実施を啓発する。</li> <li>・ 花きは、指導会、巡回を通じ、高温対策の実施を周知、推進する。</li> </ul>
<p>県南 農業振興普及部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現地指導会と個別巡回による技術指導及び技術情報の発行等を行う。</li> <li>・ 注意喚起のための情報提供を市町村と連携して、広報誌等を活用して行う。</li> </ul>
<p>会津 農業振興普及部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各品目の指導会や生育情報の発行等により、事前に対策を周知する。</li> </ul>

<p><b>喜多方 農業普及所</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導会や農家巡回等で情報資料を配付。</li> <li>・JAを通じた技術情報の組合員配布、ホームページへの掲載。</li> </ul>
<p><b>会津坂下 農業普及所</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報紙の全戸配布による周知（稲作情報など）</li> <li>・JAの各生産部会等への情報紙配布による周知（各作物毎の技術情報など）</li> <li>・各町村の防災無線等による周知。（緊急時など）</li> </ul>
<p><b>南会津 農業振興普及部</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術情報の発行（HP等への掲載含む）、講習会の開催。</li> <li>・遮光幕など暑熱対策技術の実証ほを設置して、現地検討会等を開催し周知を図る。</li> </ul>
<p><b>相双 農業振興普及部</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導会や個別巡回による技術対策の周知徹底</li> <li>・高温対策技術資料の配布</li> <li>・優良事例の紹介や現地見学会の開催</li> </ul>
<p><b>双葉 農業普及所</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回及び指導会で、普及所作成の指導会資料を活用して周知。</li> </ul>
<p><b>いわき 農業振興普及部</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの品目の指導会等で、今年も高温が予想されているので、遮光等による暑熱対策や、熱中症予防を呼びかけている。</li> </ul>

令和8年7月8日  
福島県農林水産部農業振興課

令和8年6月23日公表の気象庁の3か月予報では、7月～8月の平均気温は平年並みか高い、9月は平年並みの予報となっております。降水量は7月は平年並み、8月は多い、9月は日本海側で平年並み、太平洋側で多い予報となっております。

今後の気象情報に留意するとともに、急激な気象の変化により日照不足や低温、長雨となった場合にも対応できるよう、備えておくことが必要です。

なお、農作物の技術対策については、以下の事項に留意してください。

### 【共通事項】

#### (1) 適期防除の徹底

今後の天候の推移に十分に注意し、ほ場の観察を定期的に行い、適期防除に努める。

#### (2) 排水対策の徹底

排水溝（明きよ）の再整備を行い、排水対策を徹底する。

## 1 水 稲

### (1) 低温時の水管理

幼穂形成始期から減数分裂期（出穂前15～8日）は、低温に弱い時期となっている。この時期に平均気温が20℃以下又は最低気温が17℃以下に遭遇すると花粉が障害を受け、不稔が発生するおそれがある。低温時には深水管理を行い、幼穂を低温から保護する。水深の目安としては幼穂形成期（出穂前25～20日）で10cm以上、減数分裂期（出穂前15～8日）で15～20cm以上の深水管理を行うことが必要である。事前に水尻や畦畔からの漏水がないことを確認する。

### (2) 病害虫対策

#### ア いもち病

日照不足・多雨条件下では、いもち病が多発し被害が拡大するおそれがある。発生予察情報等を活用し、適切な防除を実施する。

#### イ カメムシ類

減数分裂期が低温・寡照に経過すると割れ粃が発生しやすくなり、カメムシ類による被害粒発生の原因となる。出穂14日前までの畦畔の草刈りと薬剤による適期防除を必ず実施し、カメムシ類の密度を下げ被害発生を予防して、高品質米を生産する。

### (3) 出穂後の水管理

出穂後、少なくとも30日間は落水せず間断かんがいとし、根の活力を維持することで登熟の向上を図る。

## 2 大 豆

### (1) 排水対策

長雨により湿害が発生しやすくなる。明きよ、暗きよを確認し、滞水を速やかに排水する。

### 3 野菜

#### (1) 草勢維持

日照不足や低温条件では、トマトの着色不良、きゅうり・さやいんげん等の肥大遅延が発生しやすく、着果負担からの草勢低下となりやすいため、不良果を早く摘果して草勢維持を図る。

#### (2) 湿害対策

長雨による多湿条件では、根が地表近くに張りやすくなるため、排水対策等を徹底し、湿害の防止に努める。

#### (3) 病虫害防除

多湿により病害が発生しやすくなるため、防除を徹底し被害防止を図る。

#### (4) 施設栽培管理の留意点

施設栽培では、日照不足による軟弱徒長を防止するため、施肥量を調整するとともに、曇雨天後の強光による葉焼けを防止するため、光量に応じてきめ細かく遮光資材を開閉する。

### 4 果樹

#### (1) 日照不足による影響

日照不足の条件では、ももの肥大不良・果肉軟化・着色不良、なしの肥大不良・果肉障害（蜜入り症）、りんごの肥大不良等が発生しやすくなる。また、7月は果樹の花芽分化期に当たるため、着果管理や着色管理等を適切に実施する必要がある。

#### (2) 着果管理

果実肥大や花芽分化の促進を図るため、修正摘果で小玉果等を摘除し、着果数を調整する必要がある。

#### (3) 夏期せん定

曇天が続く場合は、夏期せん定（徒長枝のせん除）により樹冠内部の日当たりを改善し、日照不足の影響を軽減する必要がある。

#### (4) 排水対策

園地内に滞水がみられる場合には、明きよ、暗きよを確認し、滞水を速やかに排水する。

#### (5) 病虫害防除

日照不足、長雨などの条件下では、病虫害（特に病害）の発生が多くなるおそれがあるため、発生予察情報等を活用し適切に防除を実施するとともに、定期防除の散布間隔が開かないよう注意する。また、感染源となる病斑や発病葉、発病果は速やかに適切に処分する。

### 5 花き

#### (1) 排水と草勢回復対策

低温・日照不足・長雨対策として、排水対策を徹底するとともに、必要に応じて葉面散布等による追肥を行い、草勢回復を図る。

#### (2) 病虫害防除

低温・多湿条件下では灰色かび病、きく白さび病等の発生が助長されるので、適切に防除する。また、感染源となる病葉や病株を早めに処分するよう心がける。

#### (3) 施設栽培管理の留意点

施設栽培では、多湿にならないよう、施設内の空気循環や換気を行う。また、曇雨天後の強光による葉焼けを防止するため、光量に応じてきめ細かく遮光資材を開閉する。

#### (4) 施設栽培における施肥管理等

施設栽培では、日照不足による軟弱徒長を防止するため、施肥量を調整する。